

神戸市震災復興総括・検証

生活再建分野

意見集

**生活再建ワークショップ
「私達の生活再建実感」**

平成 12 年 3 月
震災復興総括・検証研究会

目 次

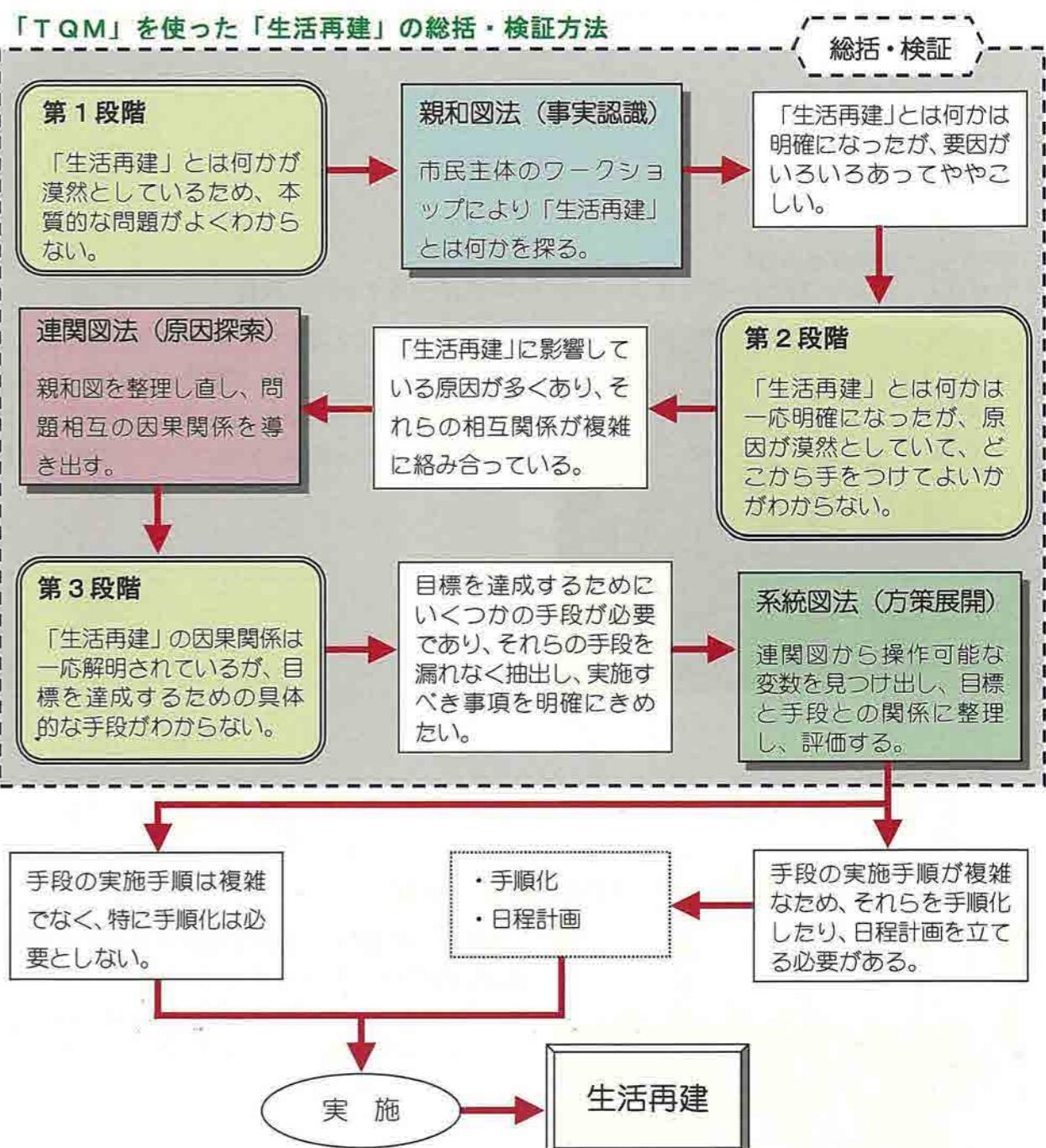
はじめに	1
1. 震災復興総括・検証ワークショップ	2
2. 発表会	4
3. 発表会で発表された親和図	6
4. その他の親和図	30
5. 連関図ワークショップ	63
6. 元気アップ神戸市民運動ワークショップ	72

はじめに

生活再建分野の総括・検証にあたって最初に直面した課題は、一口に「生活再建」と言っても範囲があまりにも広く、漠然としているために、「生活再建」とは何かを定義することになりました。

そこで、検証するにあたって、まず、「生活再建」とはどんなものなのか、そこで検証すべき項目は何か、どこに焦点を当てるべきかを決めるところから始めることにしました。

この「取組み集」では、生活再建とは何かを見つけるために行った「震災復興総括・検証ワークショップ」で、市民みずからがまとめた親和図（私達の生活再建実感）をまとめました。



1. 震災復興総括・検証ワークショップ

生活再建分野では、市民の皆様やボランティアの方々とともに検証作業を進めていくことを第一に考えました。しかし、「生活再建」で何を検証し、どこに焦点を当てるべきかが、一人ひとりのこれまでの経験と思いが違うためまちまちな状態でした。そこで、「文殊の知恵」というたとえがあるように、市民の皆さんから見た問題点などについて率直な意見を出してもらい、「生活再建」で検証すべき項目を皆さんとともに整理する方法として、生活再建をテーマに少人数のグループに分かれ意見を出し合い、その結果をまとめて発表していただくワークショップ方式による意見交換会を開催しました。

【ワークショップの進め方】

ステップ1：グループ分けーイスブレーク（バースデーライン）…30分



初めて出会った方同士ではなかなか話がはかららないので、簡単なゲームで少し気持ちをほぐします。具体的には、誕生日の近い順番に並んで誕生日が近い人たちで1グループ5人前後を目安にグループに分けます。

ステップ2：「私の震災履歴書」づくりと自己紹介…20分



あらかじめ用意した用紙に、震災からの心に残る出来事を履歴書風に書いていただきます。その中で一番心に残ったエピソードを一つ紹介しながら、グループの中で自己紹介します。こうすることによって、頭の中を震災直後に切り替えます。

ステップ3：それぞれの立場での被災生活からの再建…25分

生活再建	できていること	できていないこと
自分のこと	緑	桃
周りのこと	青	黄



震災後の生活の移り変わりの中で、暮らしや生活再建を考えるために、自分のこと・周りのことで、できていること、できていないことをそれぞれ4色のカードに書いてもらいます。

～各グループでの話し合い…40分



グループで話し合いながら、それぞれの生活再建についてのカードの内容を整理して、グループごとに模造紙にまとめます。

ステップ4：「生活再建の実感」の報告…30分



グループごとに代表者を決め、全員の前で発表してもらいます。

後程掲載している親和図は、ワークショップでグループごとに模造紙にまとめた「私達の生活再建実感」をコンピューターで忠実に作り直したものです。

2. 発表会

各ワークショップの代表が、その人たちのグループでまとめた親和図をもとに生活再建の実感を報告することで、それぞれの立場での生活再建について意見を発信するとともに、生活再建についての認識を共有しました。

[日 時] 平成11年9月15日（水）午後1時30分～4時30分

[場 所] 神戸海洋博物館 1階ホール

[発表者] 12セッション・18グループの代表21名

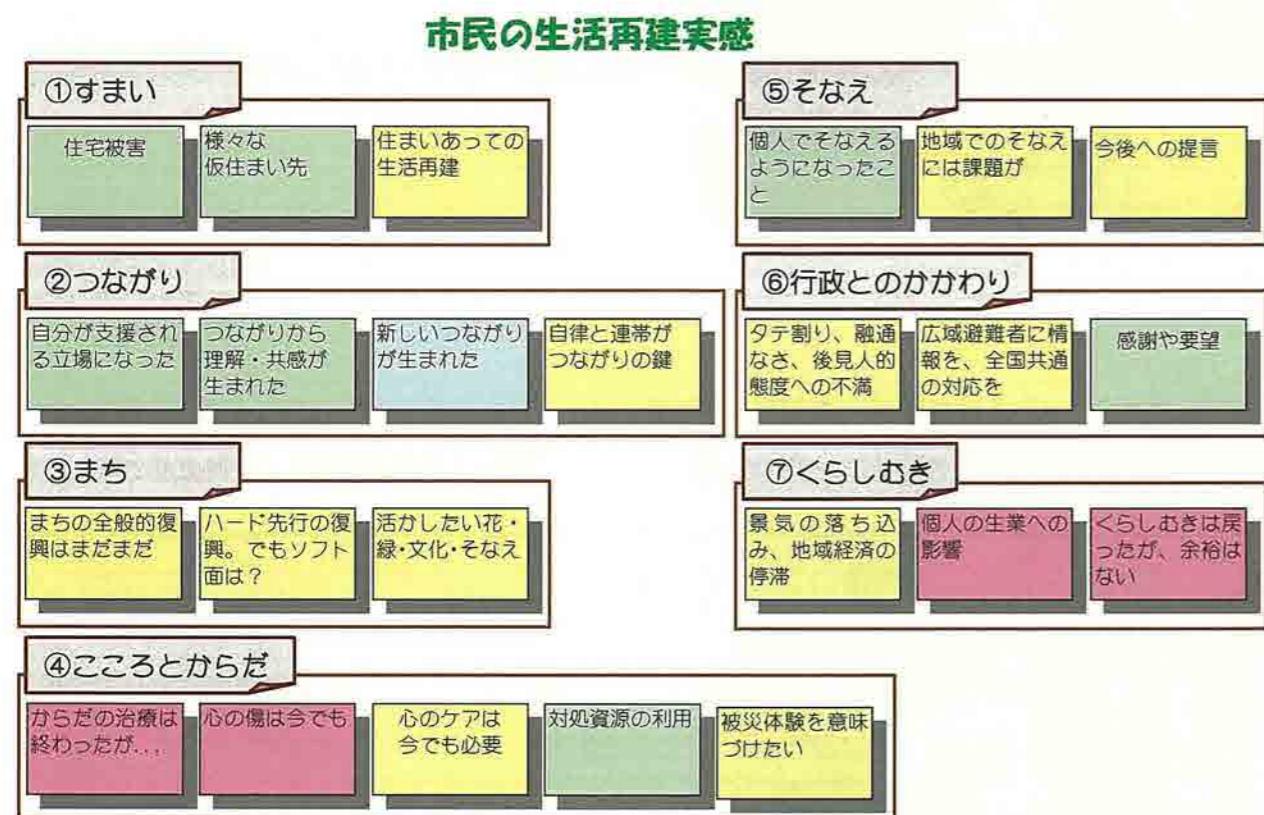
[参加者] 230名

[総括進行役] 林 春男（京都大学防災研究所教授）

立木 茂雄（関西学院大学社会学部教授）

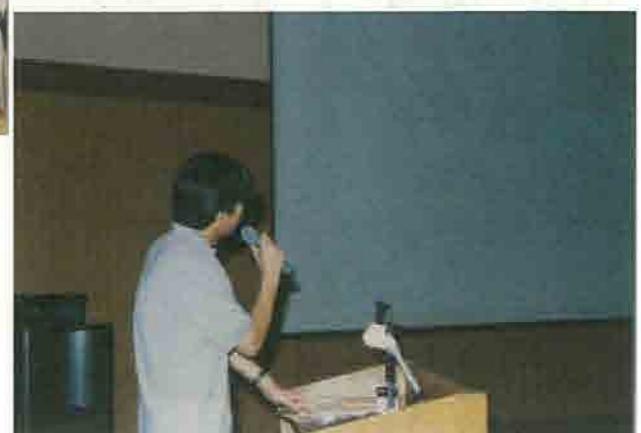
【生活再建の7つの要素】

ワークショップで出された全ての意見（1,623枚）を分類・整理した結果、生活再建は下の図に示すように「すまい」、「つながり」、「まち」、「こころとからだ」、「そなえ」、「行政とのかかわり」、「くらしむき」の7つの要素によって構成されていることが導き出されました。



【7要素の割合】

7つの要素に分けた意見のそれぞれの枚数を割合でみると、生活の基盤となる「すまい」が最も高くなることがわかりました。また、特に注目すべきポイントとして、「つながり」の割合が他の5つの要素と比べ突出して高いこともわかりました。震災からの経験によって人と人の「つながり」の大切さが再認識されたと言えるのではないでしょうか。



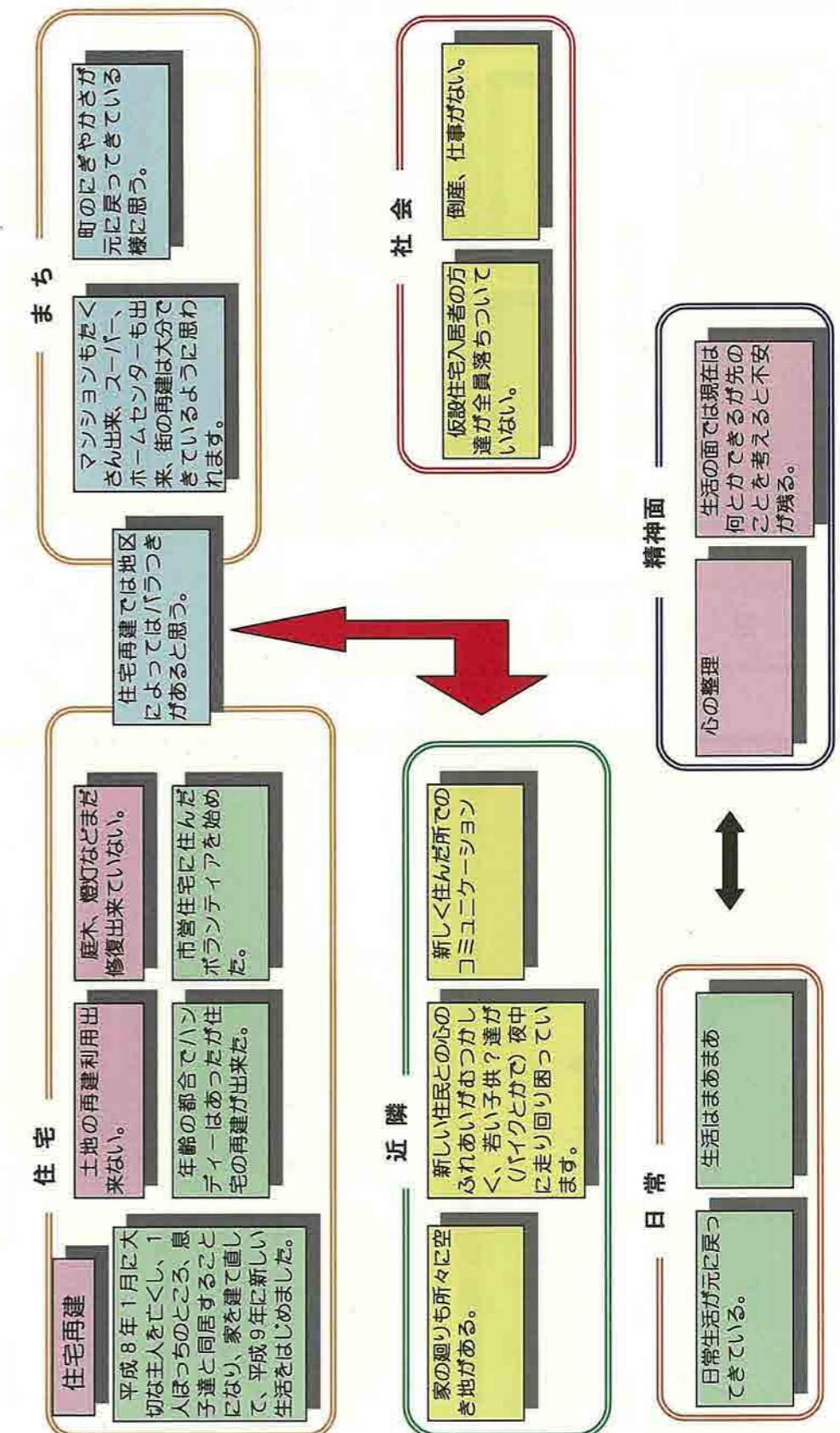
3. 発表会で発表された親和図

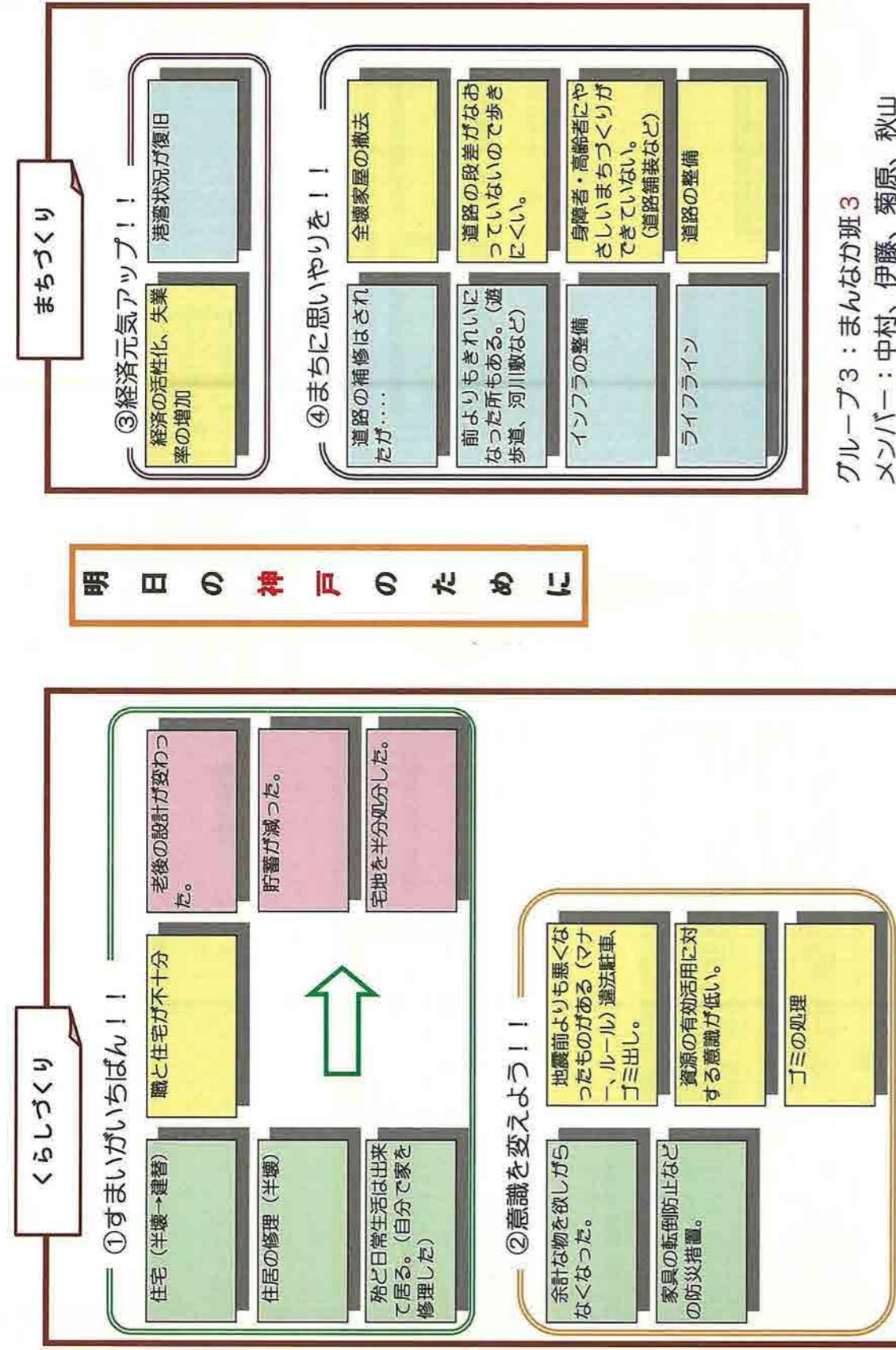
東灘区

【ワークショップの風景】



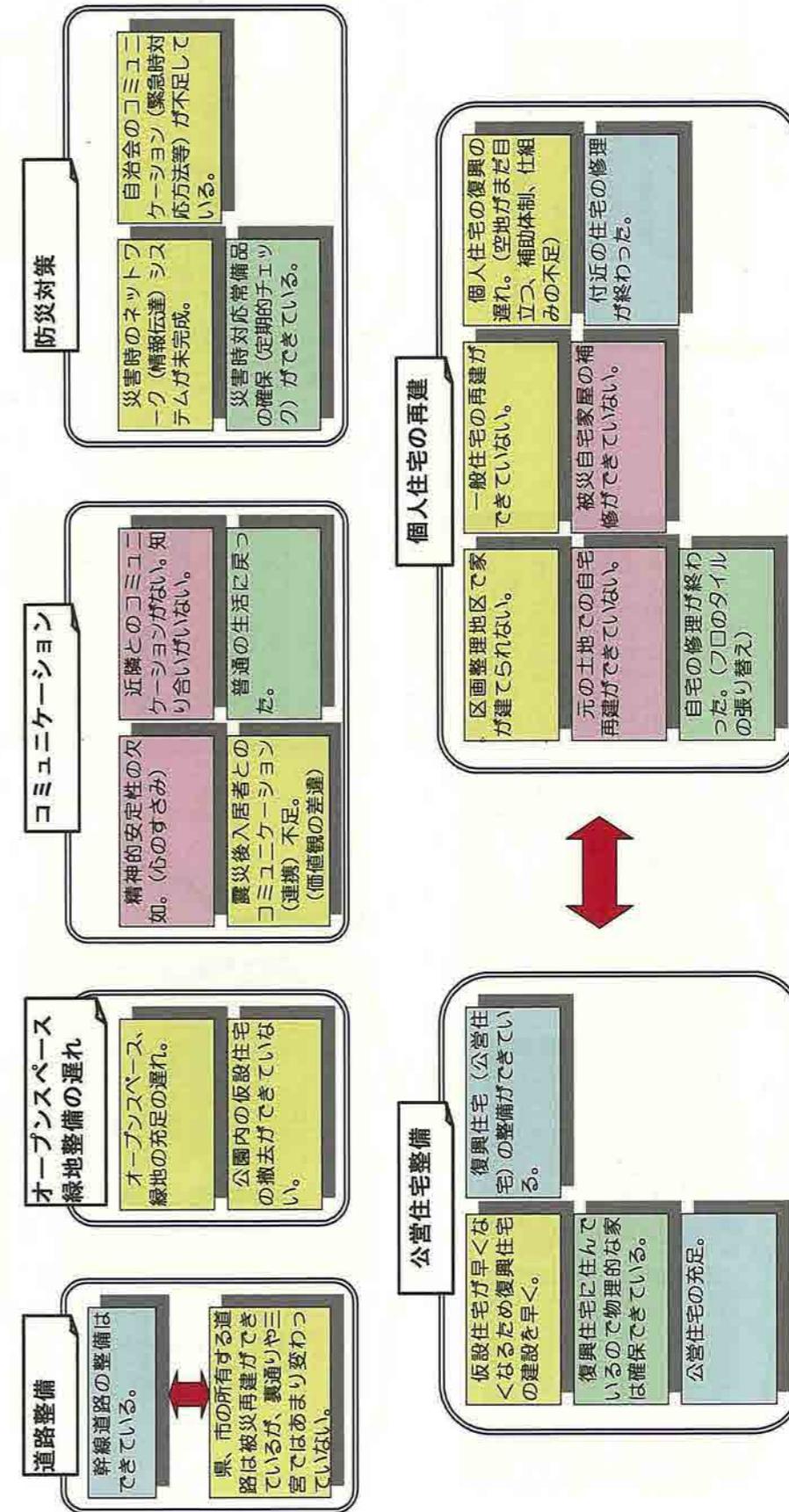
住まいあつての生活再建





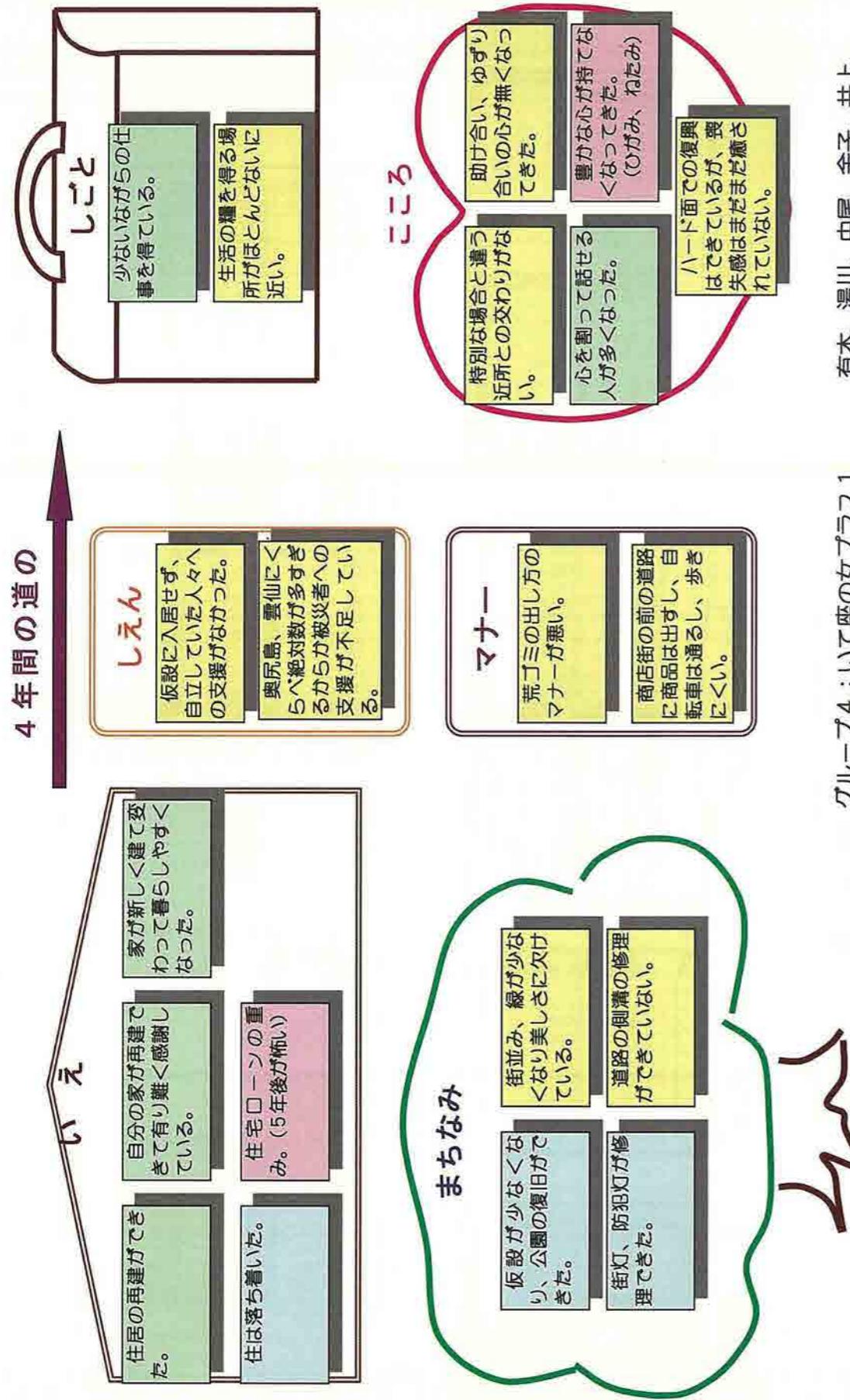
グループ3：まんなか班3
メンバー：中村、伊藤、菊原、秋山

私達の生活再建実感！

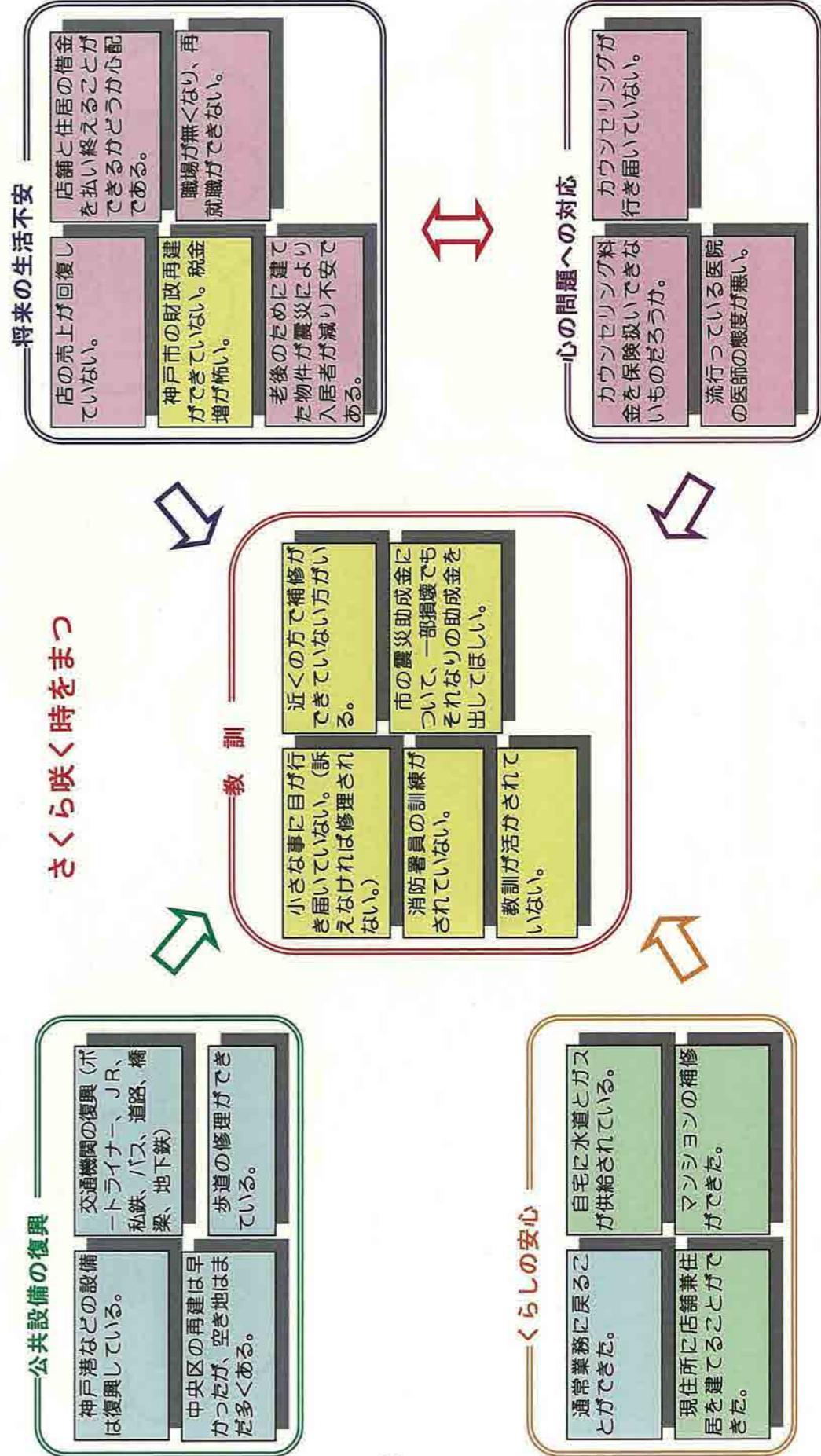


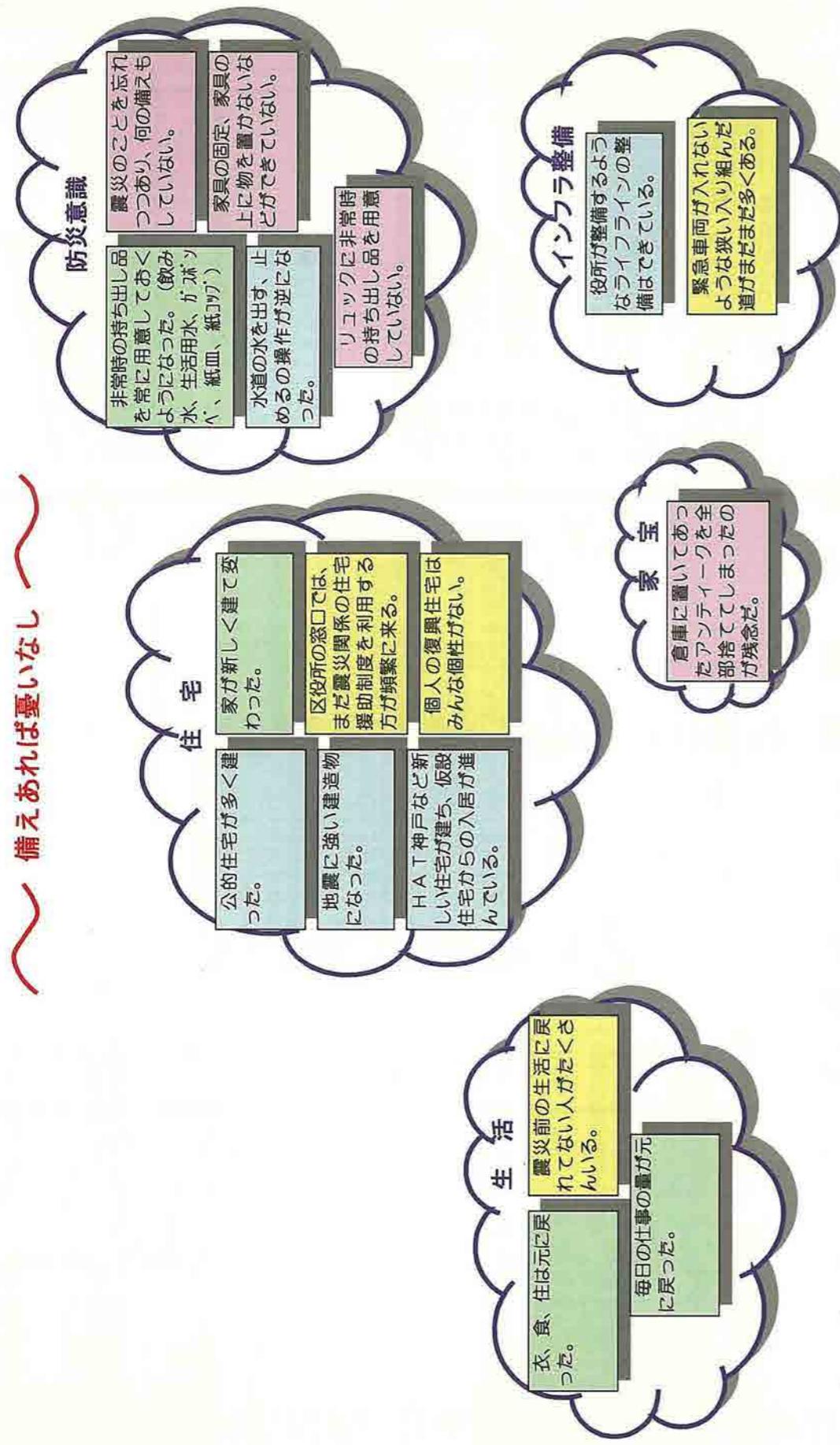
グループ1：瀬渡、難波、豊野、前田、高橋

私達の生活再建実感！



私の生活再建実感！





グループ4: Winters (Winners)

メンバー: 清水、五島

私達の生活再建実感!

自宅の再建

- 自宅周辺は持ち家が多く全壊だったが、現在では家屋再建が少なくほとんどガレージになつている。

支援金などの条件

- 支給しそすぎで公の支援が現実と力み合つてない。

個人のこととは置き去りにされている。

- (街中は復興するが個人の家は再建しない。)

ローンができてしまつて自宅の大変である。

- 家を建てても、金銭面での応援がしてやれない。土地は親名義、建物は若い夫婦が受け持ち同居している。建物は3階建てになつて部屋のことで少しがまんする時もある。

お金はこっちにばかり・・・

借入金

- 住宅再建の借入金の返済ができない。

インフラ、公園等のハード面はすいぶん整備された。

観光地の整備はできている。

希望

- 早く災害に強いまちづくりをしてほしい。
- 安心感のある生活ができるでいい。

不 安

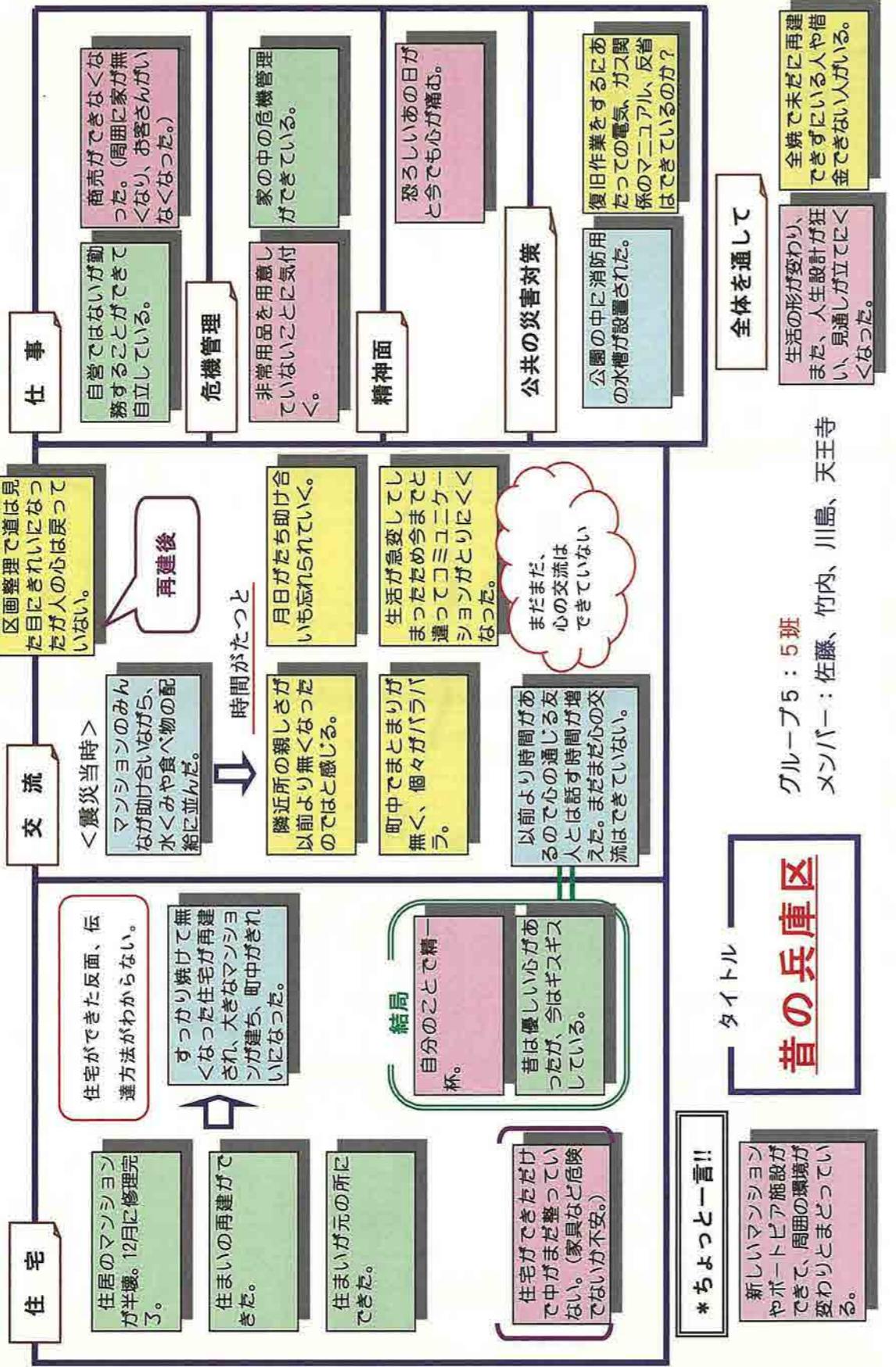
- 人口の減少(兵庫区)
- 高齢者の一人住まいを共同の住宅に住まわせる建物
- 一戸建て住宅に住むことがでなくて現在、土地のみが置いてある。どの子がそこに家を建てるか決まらず困っている。
- 近所づきあいが出でていない。

タイトル

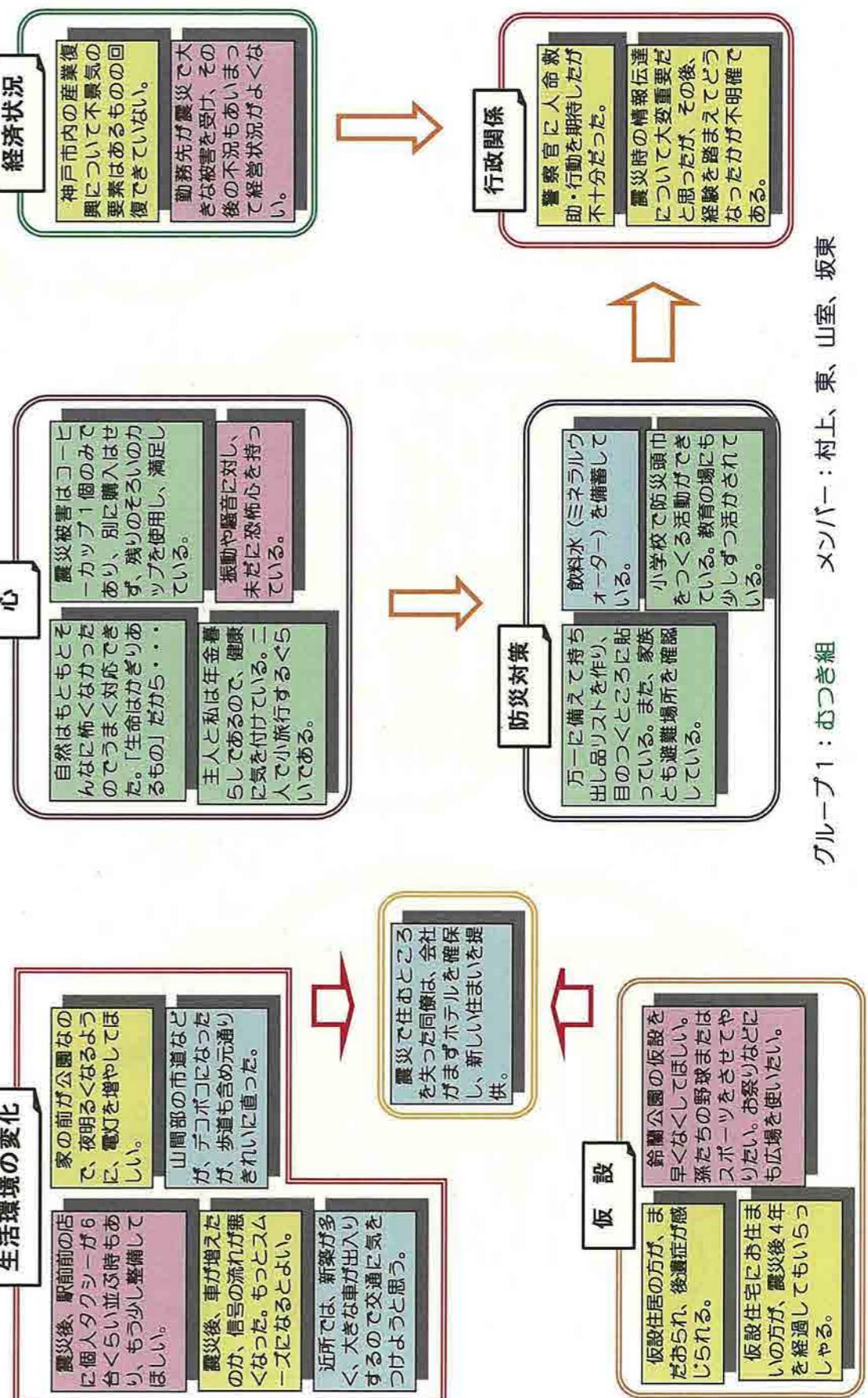
自分達の事は自分達で!!

グループ3: ファン(不安)
メンバー: 城本、橋本、加藤、
高羽、荒川

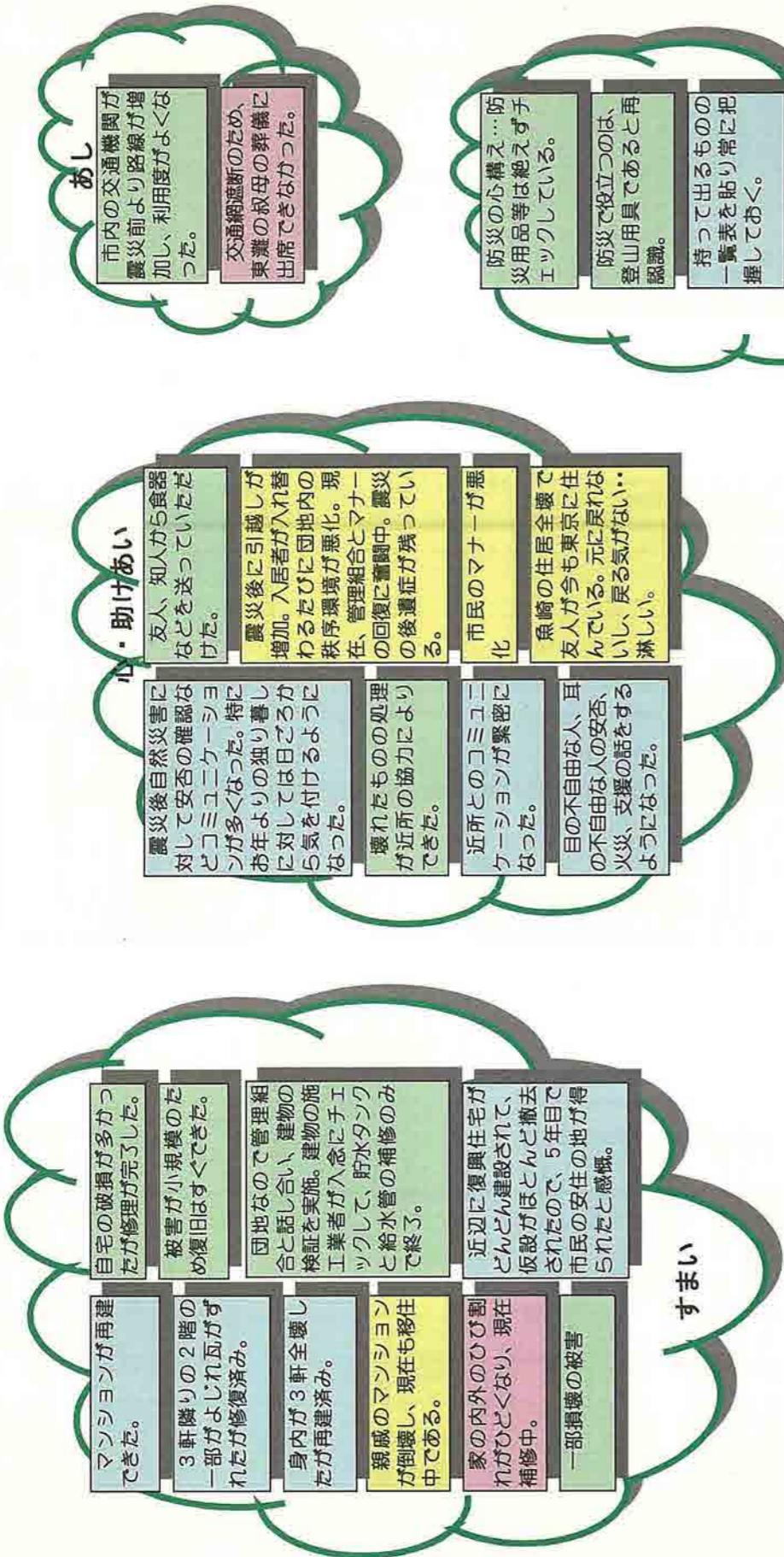
私達の生活再建実感！



私達の生活再建実感！

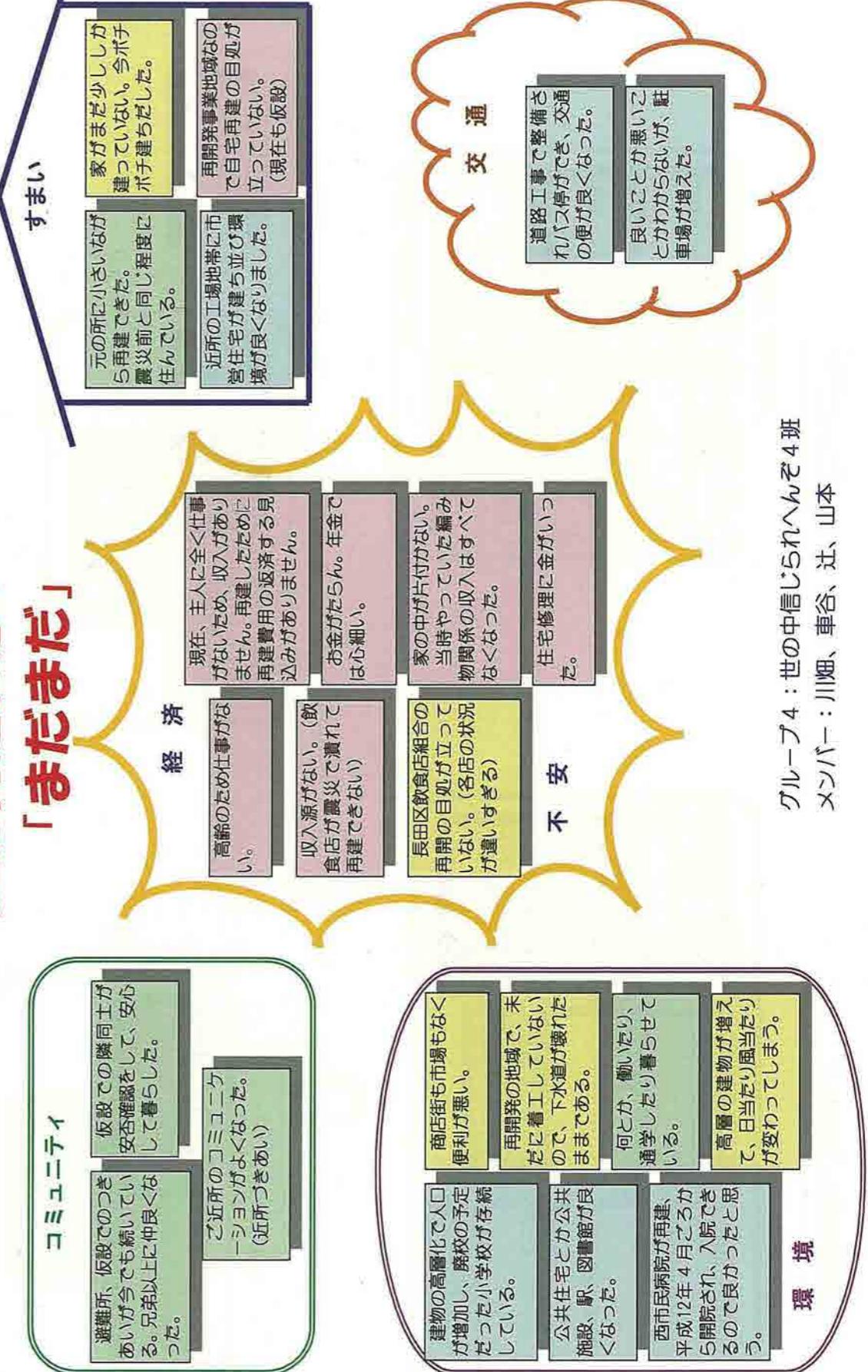


あれから5年 “今、思うこと”



グループ2：若草姉妹 メンバー：伊奈、荻野、塚本、村上

生活再建実感！ 「まだまだ」



家の修理が出来ました。
補修はしましたが、完全に修理は出来ていません。

家の補修が出来ました。
自分の住んでいる家は、十分とは言えないと修理は出来た。

家の建替が出来た。

家の廻りに更地が2ヶ所ある。雑草がそのままになっている。

長田区に帰りたいのに帰れない。仮設に行かず、マンションを借りている。年をとつてあり、区役所の相談しても、(市住)一般で申し込むようにいわれる。



建築費の借金返済で、生活を切りつめている。

田舎が熊本だが、兄弟、両等の見舞いが出来ず残念だ。

旅行などが全然出来ない。

グループ5：タンポポ メンバー：徳永、上田、山内、佐々木

近所の人、逢と会話がよく出来ようになつた。

地域では高齢化が進み、自治会の活動が出来ない。

ひとり暮らしの方は、震災でぼろぼろになり、新しい生活をされている方が多い。

自治会役員のなり手がない。

震災後ゴミのマナ一が悪くなつた。

地震の備

各地域で水を貯めておくところがほしい。(水が大事)

危ない物を身近に置かなくなつた。

「まずは自分でやる」ということを学んだ。

私達の生活再建実感！！

住宅

家を無くした人は今も大変だと思う。公的補助をもつべきではないか！

近くに震災復興市営住宅が建築され、住宅問題も良くなっていると思う。

自宅の屋根修理に相当費用を要したが現在元通りになつた。

一人暮らしの方が多いので、復興住宅では隔離された住宅よりも居室だけが個室になつた共通の食堂、バルームがある住宅の方が良いと思つ。

引っ越ししたが、生活の変化で日々暮らしくらいと聞いています。

友人が岡山山陽団地に現在も住んでいますが、元住んでいた近くに帰りたいといつている。

仮設住宅がまだ解消していない。

街

被災の後、街並みが美しくなつた。

市中心の再建がまだ必要だとと思う。中心部ではまだにぎわいが戻っていない。

交通網などハード面は整備されている。

被災を受けた人が復職できていない。

自分自身について次のパンティアヘのステップアップができるでない。(友人は豊中で日本しきユースの協会をつくり、早速トルコに派遣している。)

健康

震災時の水没で腰痛がまだ完全に治っていない。

今年手術をしたが、まだ十分に歩けないので困っている。

被災を受けていないので以前と変わらない。

普通の生活に戻っている。

生活

水汲みで足を痛め、今年手術をしたが、まだ十分に歩けないので困っている。

自宅がどうもなくて助かっただ。

心のメッセージ

仮設を体験していないので、体験している人の心のダメージはすごいのが違う。

グループ1：ひまわり メンバー：今西、湖月、上條、黒木、森田

地震が
教えて
くれた

価値観の変化

体操で体力が回復した。
地震で食器が壊れないので、新しく食器を買いたい。
前よりも自分の身体の健康第一に気を付けている。ラジオ体操、運動を心掛けている。

災害の備え

風呂場には何時も水を入れておくことにしている。
いろいろな災害を予想して前もって準備する。(例えは水を備蓄する。懐中電灯、ラジオ等の準備)

いざなが備蓄用の水槽ができるまでできていよい。

背の高い家具は一室に集めている。その他の家具は留め金で止めている。

高い所に物を置くのをやめる。

建物の補強をしてもらった。

日毎に備えの関心の薄れ。

食品や救急箱等の備品を揃えている。

自分がもしもの時連絡先の名簿整理ができるといい。

自治会で避難場所の確認をしている。

人のつながりの重要性

近所同士仲良くなれる。
普段あまり話さなかつた近所の人と交流することができた。
近所のコミュニケーション場がない。
近所に公園がないので、お年寄りが駐車場の横でタ涼みをしたりしているので、子どもが遊び公園がみんなが憩える公園があればと思う。

寝たきりにならなければ高齢者対応の健康体操に地域ごとに指導員を派遣してほしい。

自治会組織を活用して、連絡を密にするようにしている。

お隣立てしないといつもしない人がいる。

何人の集まりでも女性の参加が多いが、男性は出てこないのでもう少し出る機会を作る。

住まい

月1回のボランティアが出るようになる。

住民管理の公園ができる、みんながランティアに興味を持ち出した。(草取り、掃除)

13歳の時、鳥取地震で父が亡くなつた時のショックが神戸の地震でよみがえった。

家の帰れに敏感になる。

水道が漏れていて、水道屋さんを呼んで分からなかつたが、主人が家の周りを掘つて、子供たちが遊び公園どころかが憩える公園があればと思う。

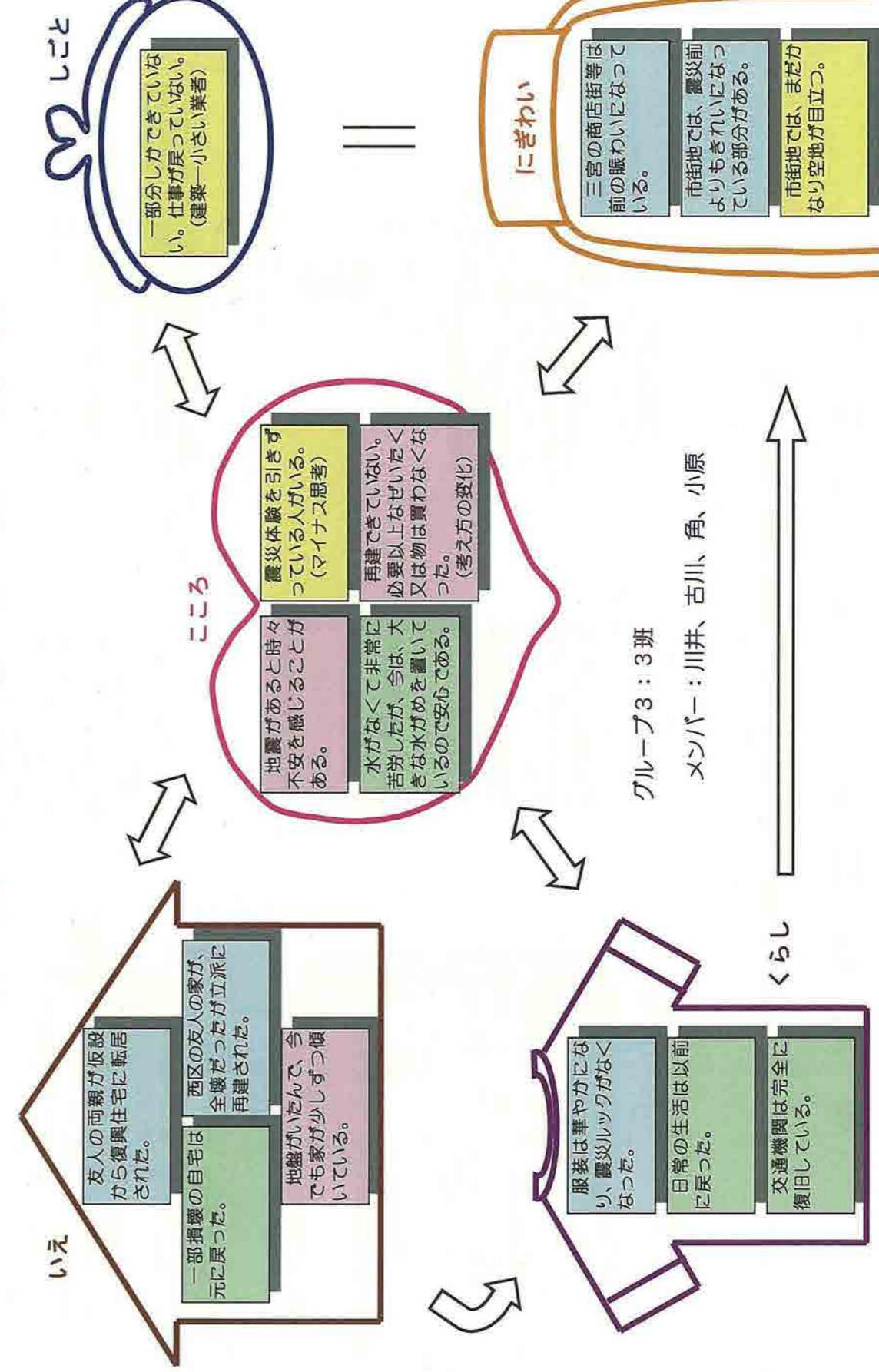
地震で雨戸が閉まらなくなつた。

心の傷

何人の集まりでも女性の参加が多いが、男性は出てこないのでもう少し出る機会を作る。

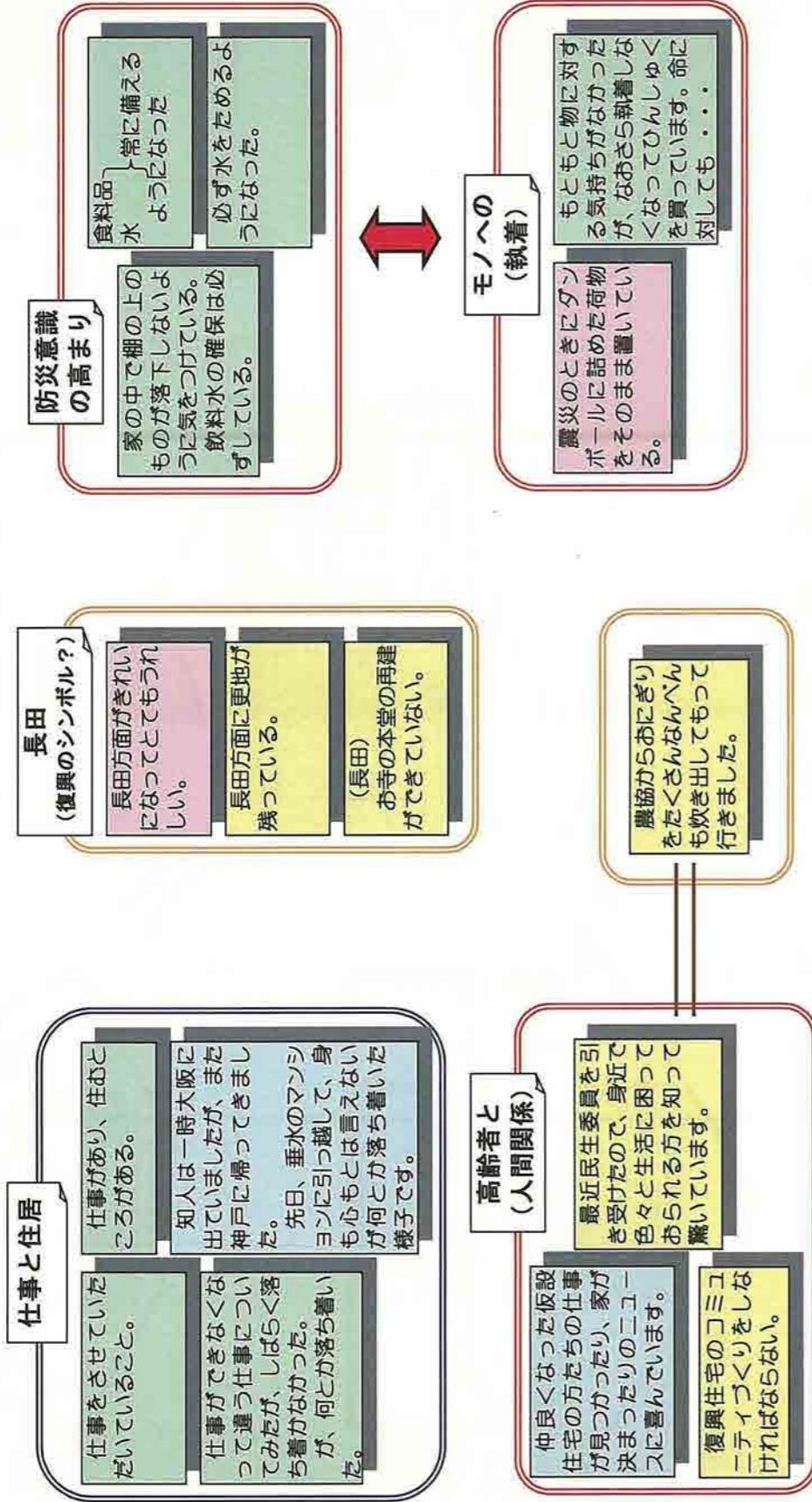
グループ5：さわやかグループ メンバー：秋葉、来田、滝野、朝倉、佃

私達の生活再建実感！

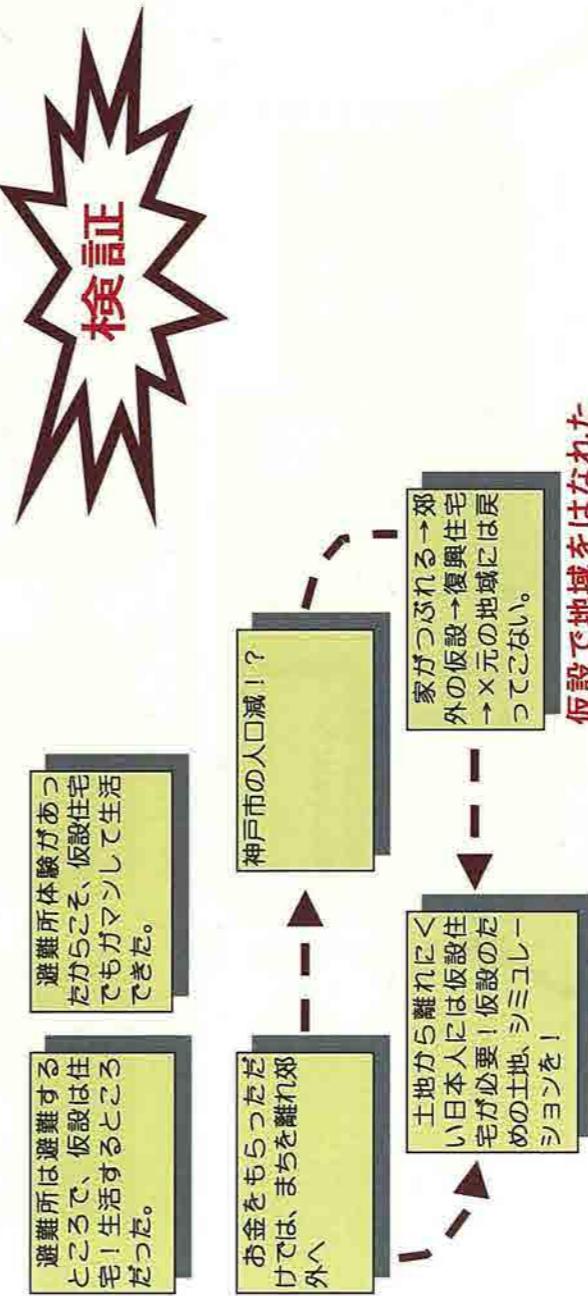


私達の生活再建実感！

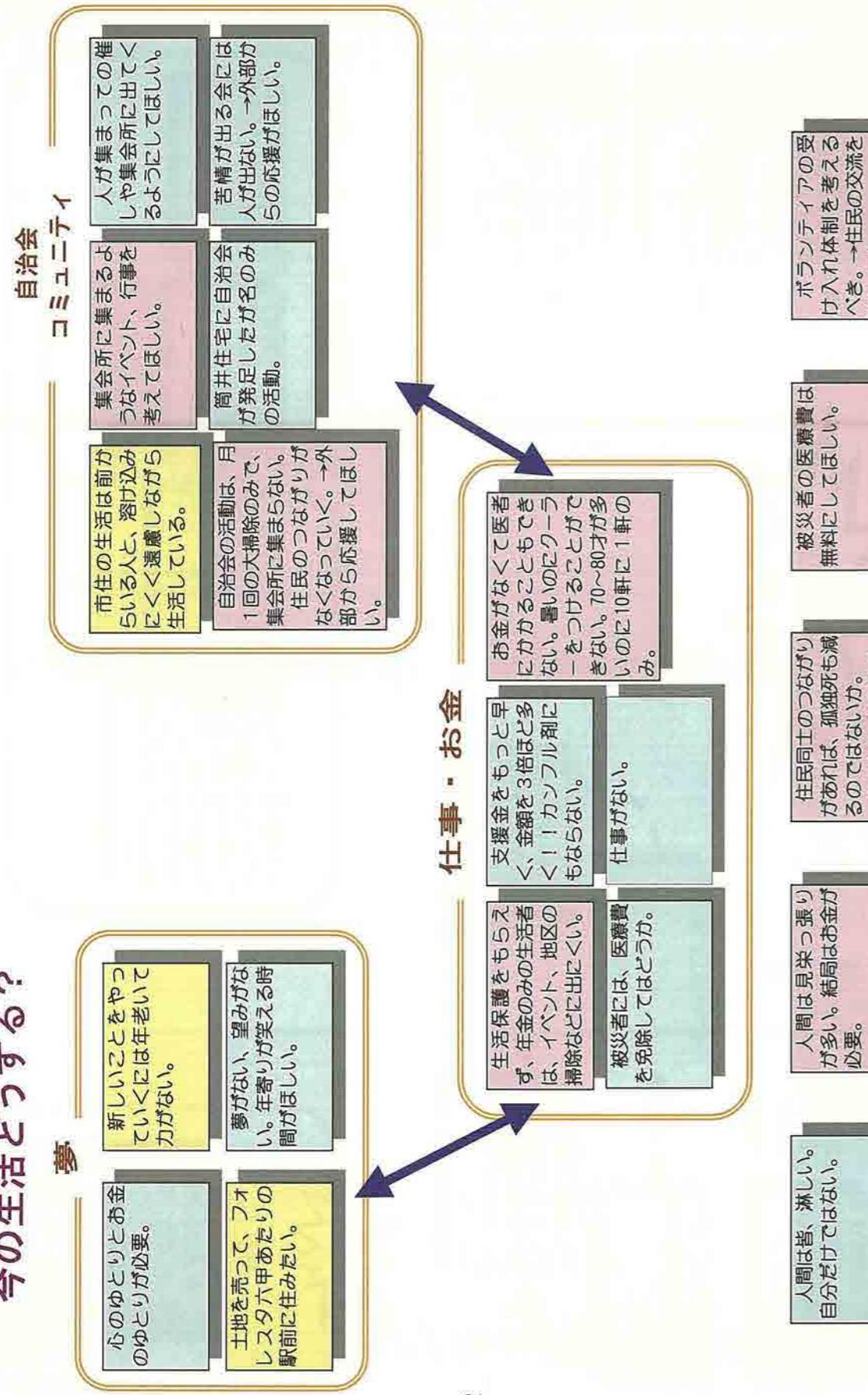
グループ4：お氣楽シスターズ メンバー：川端、小原、武内、田辺



仮設住宅は必要だったか？

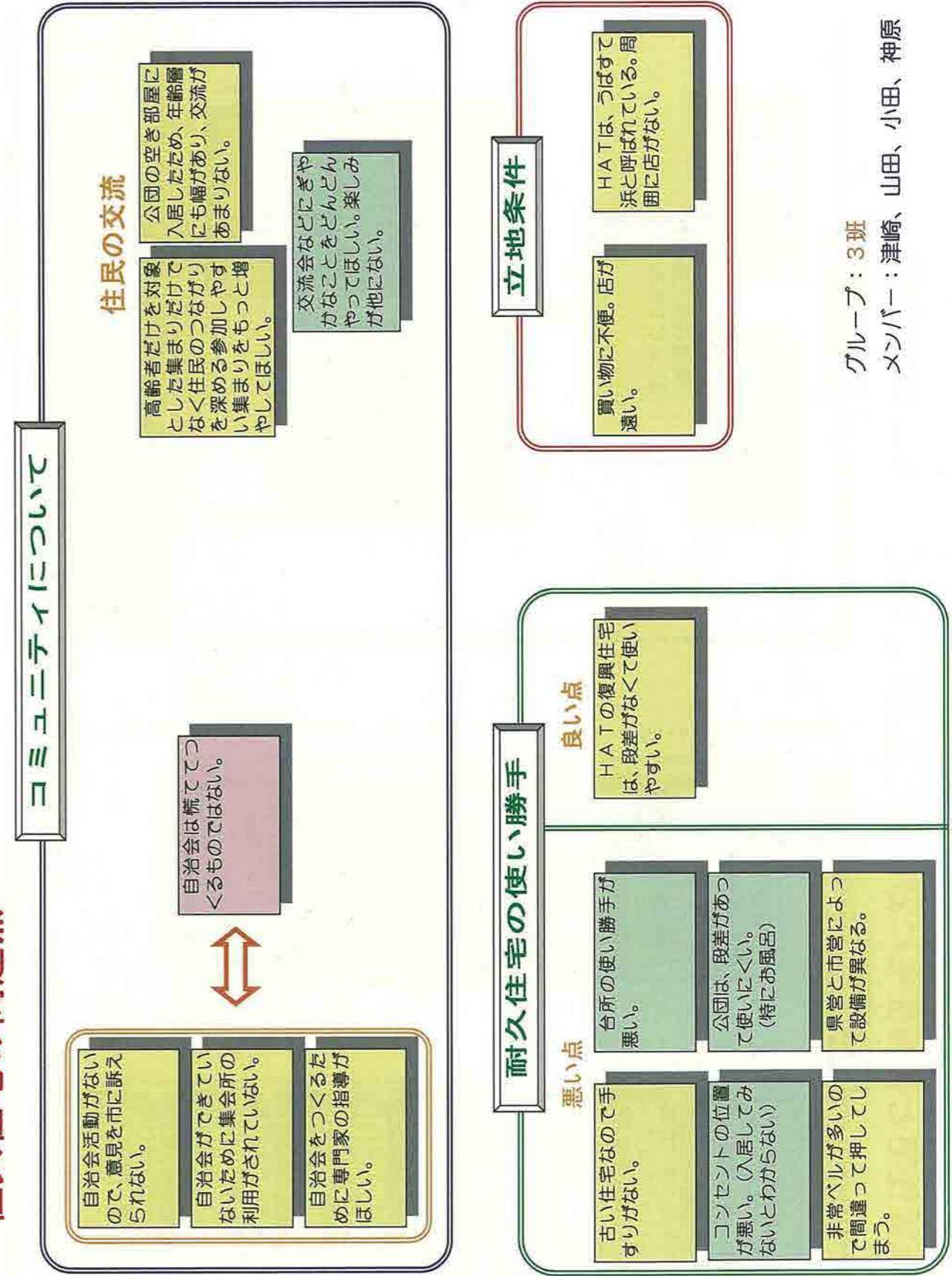


今的生活どうする？

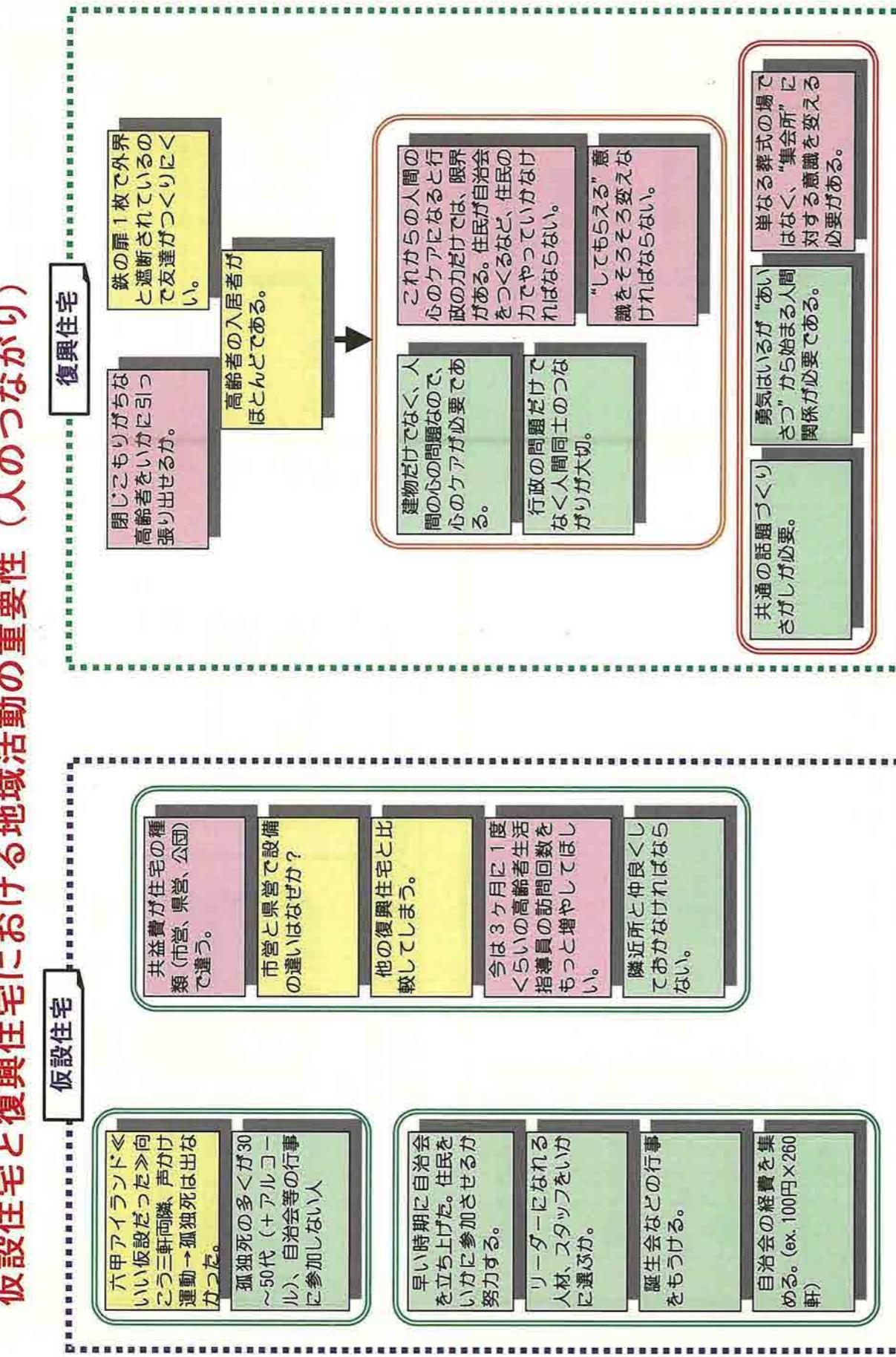


グループ：2班 メンバー：三角、桑田、篠田、安田

恒久住宅の問題点



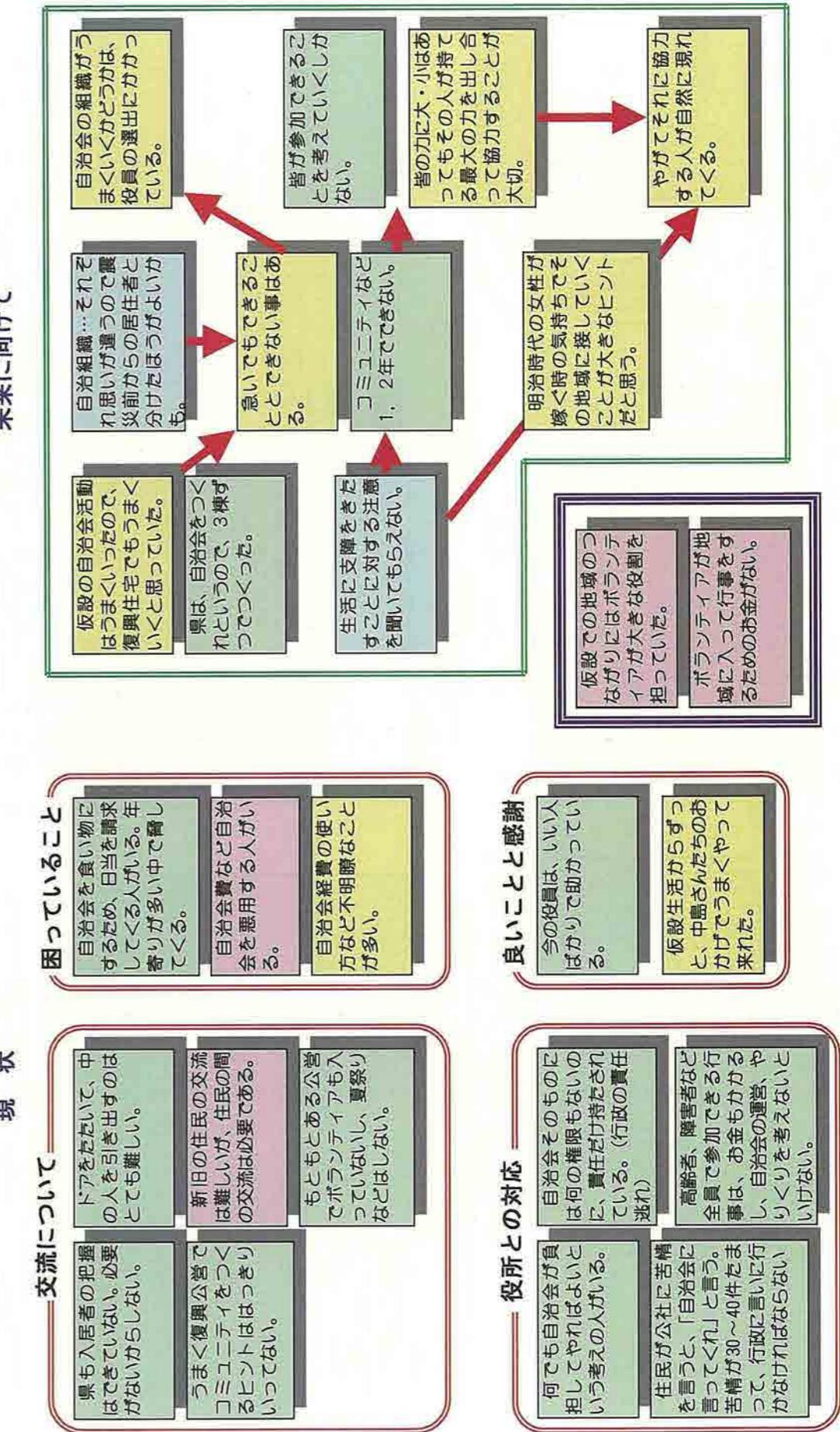
仮設住宅と復興住宅における地域活動の重要性（人のつながり）



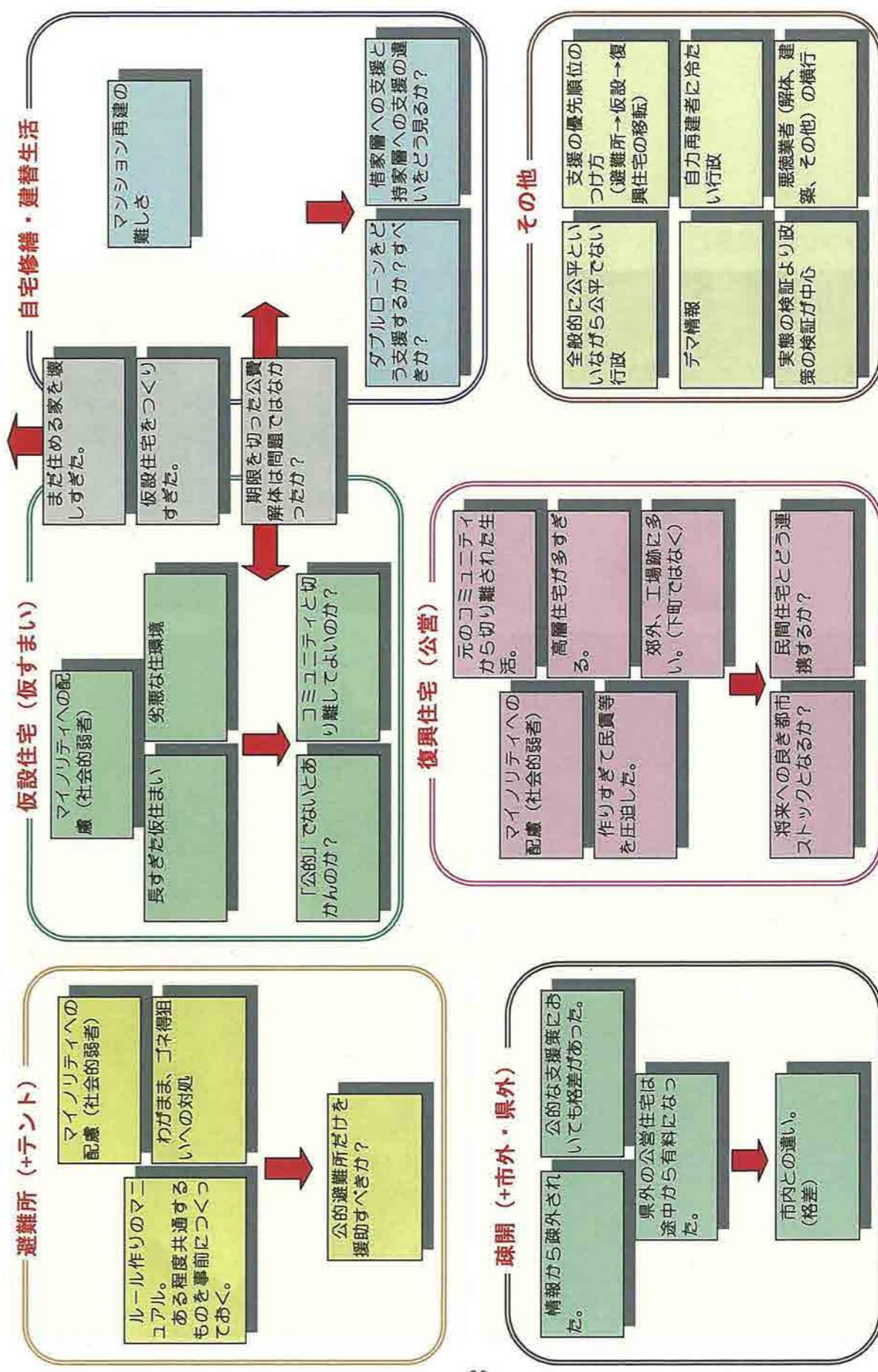
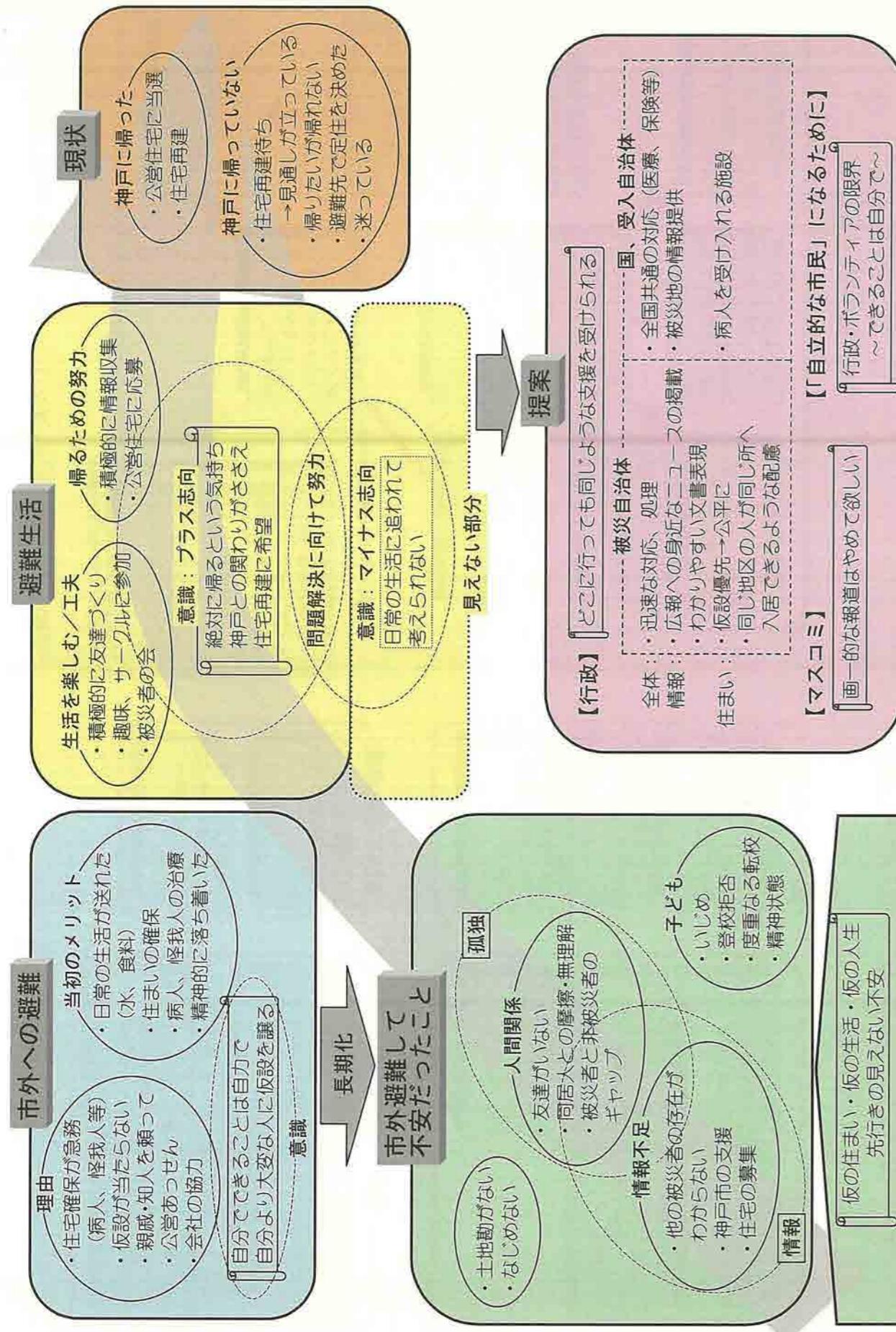
グループ：4班 メンバー：坂口、尾崎、岸岡、秋月、安達

グループ：4班 メンバー：坂口、尾崎、岸岡、秋月、安達

テーマ「コミュニティのあり方」



グループ：5班 メンバー：田中、加藤、中村、村田、伊藤



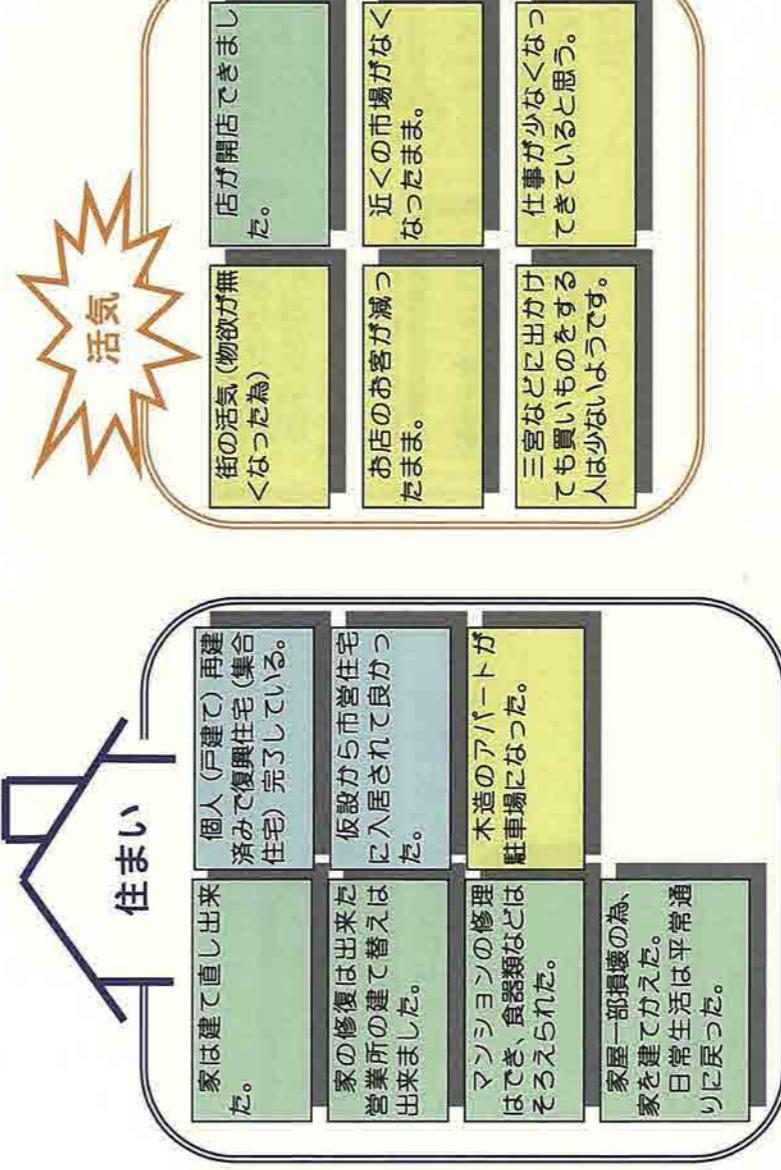
4. その他の親和図

東灘区

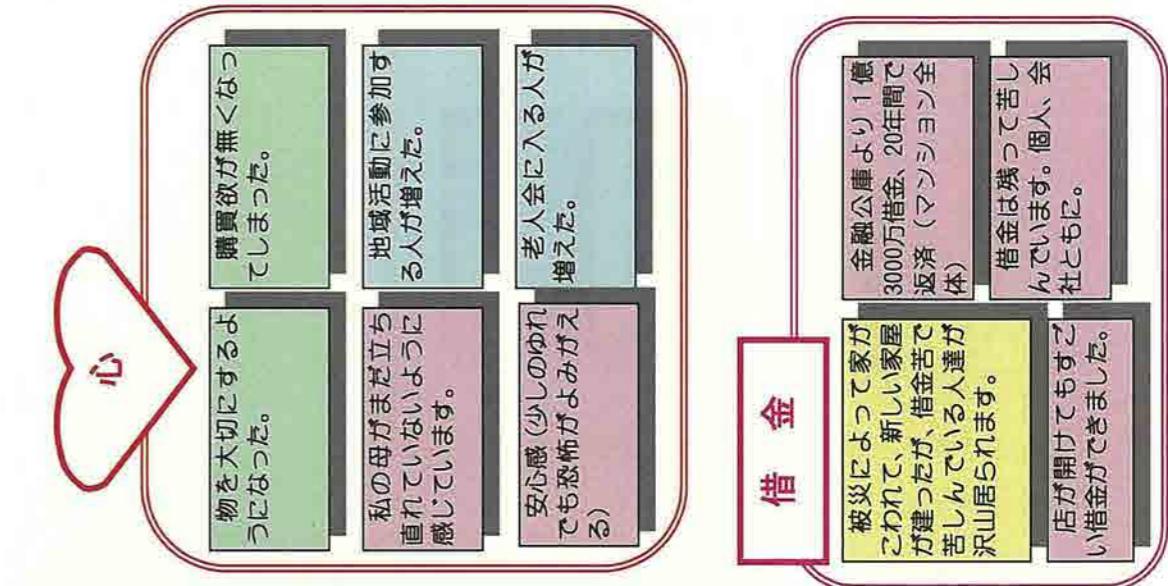
【ワークショップの風景】



『心と活気』



グループ2：N○. 2 メンバー：巽、南雲、陽山、増岡、中井



実質60%の生活再建！！！

コミュニケーション

なんとか自立・再建できた

「平屋建」屋根瓦、外壁、いいなど自分で出来ることはできだ。義理金は第1次のみであとは請求しない。(半壊)
なんとか自立出来るようになりました。

チームワークが少し出来に様(マンション補修のための話し合つています)町内であたがいに話しあってガンバリ合つています。

表面80%
実質60%

地域・コミュニティーの今後の課題

(福祉)
（人間関係）
（マナー）
空室が2軒ほどあり、空室ねこが増えて困ります。

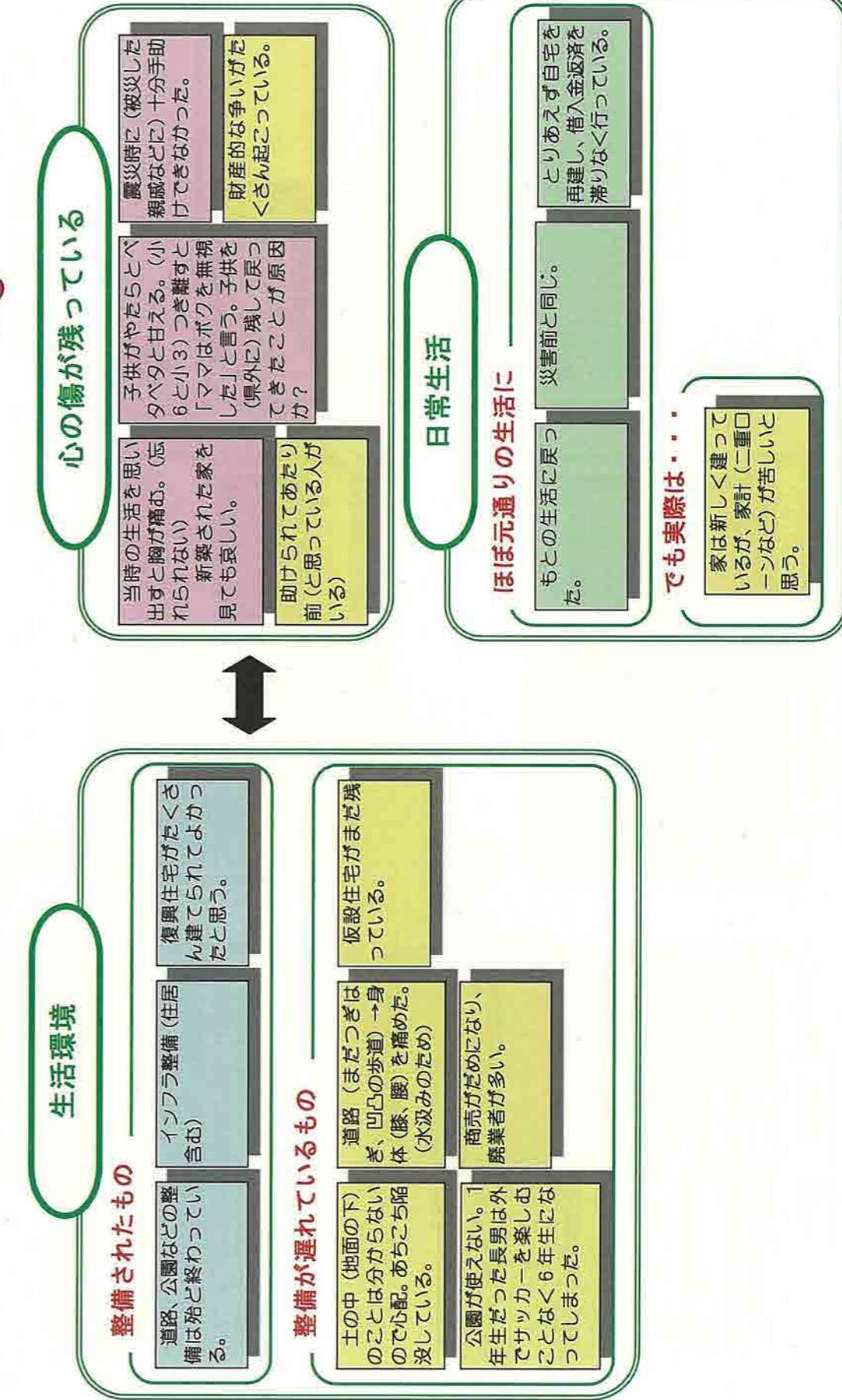
生活上の残された課題
転宅したかったが出来ない。

当時かなり整理したと思うが、半壊のままで家の中の整理が半分もできていない。

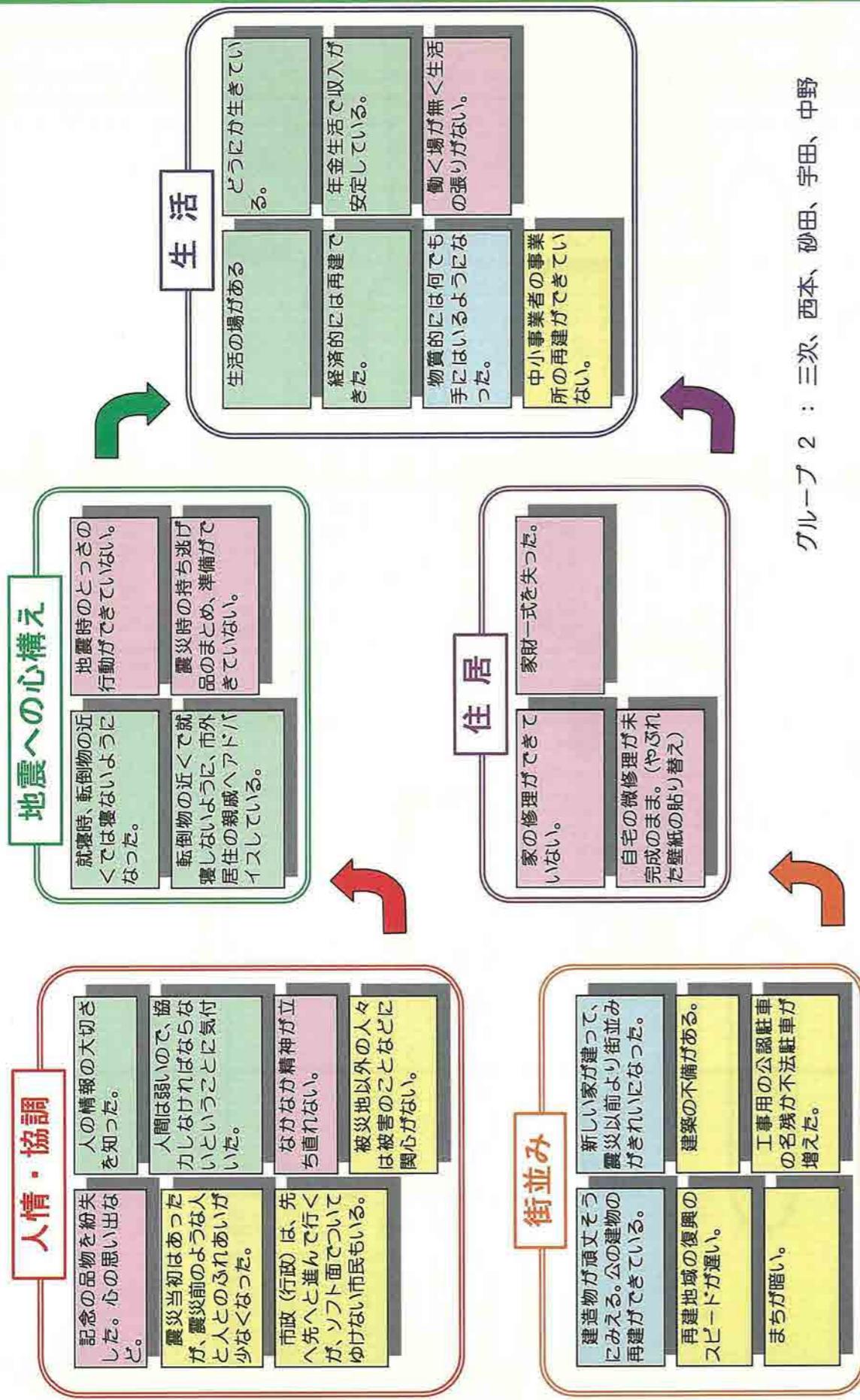
当時かなり整理したと思うが、半壊のままで家の中の整理が半分もできていない。

グループ4：そこそこ復興グループ メンバー：坂口、西垣、藤原、野口

い ろ い ろ あ つ た ね

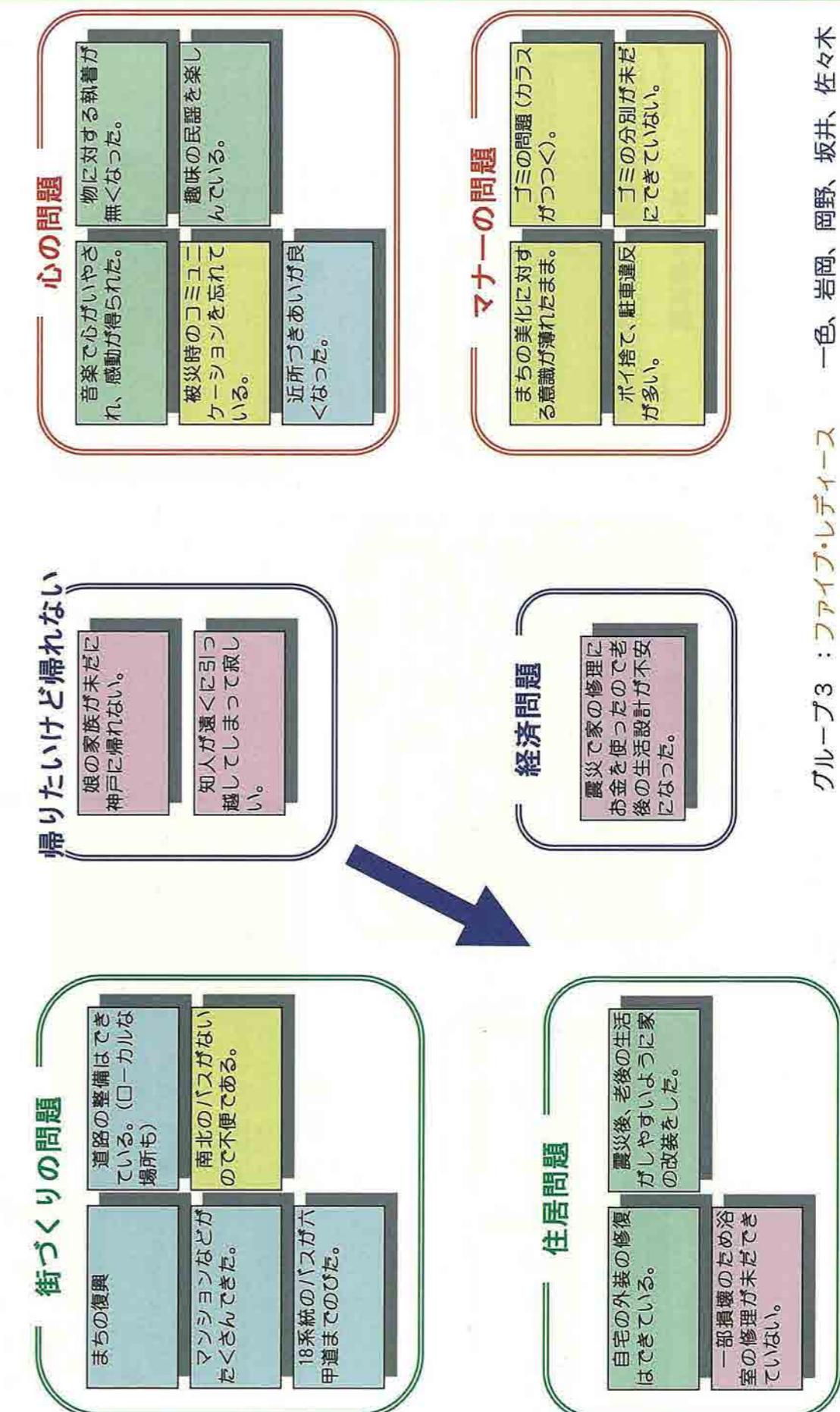


私達の生活再建実感！



グループ2：三次、西本、砂田、宇田、中野

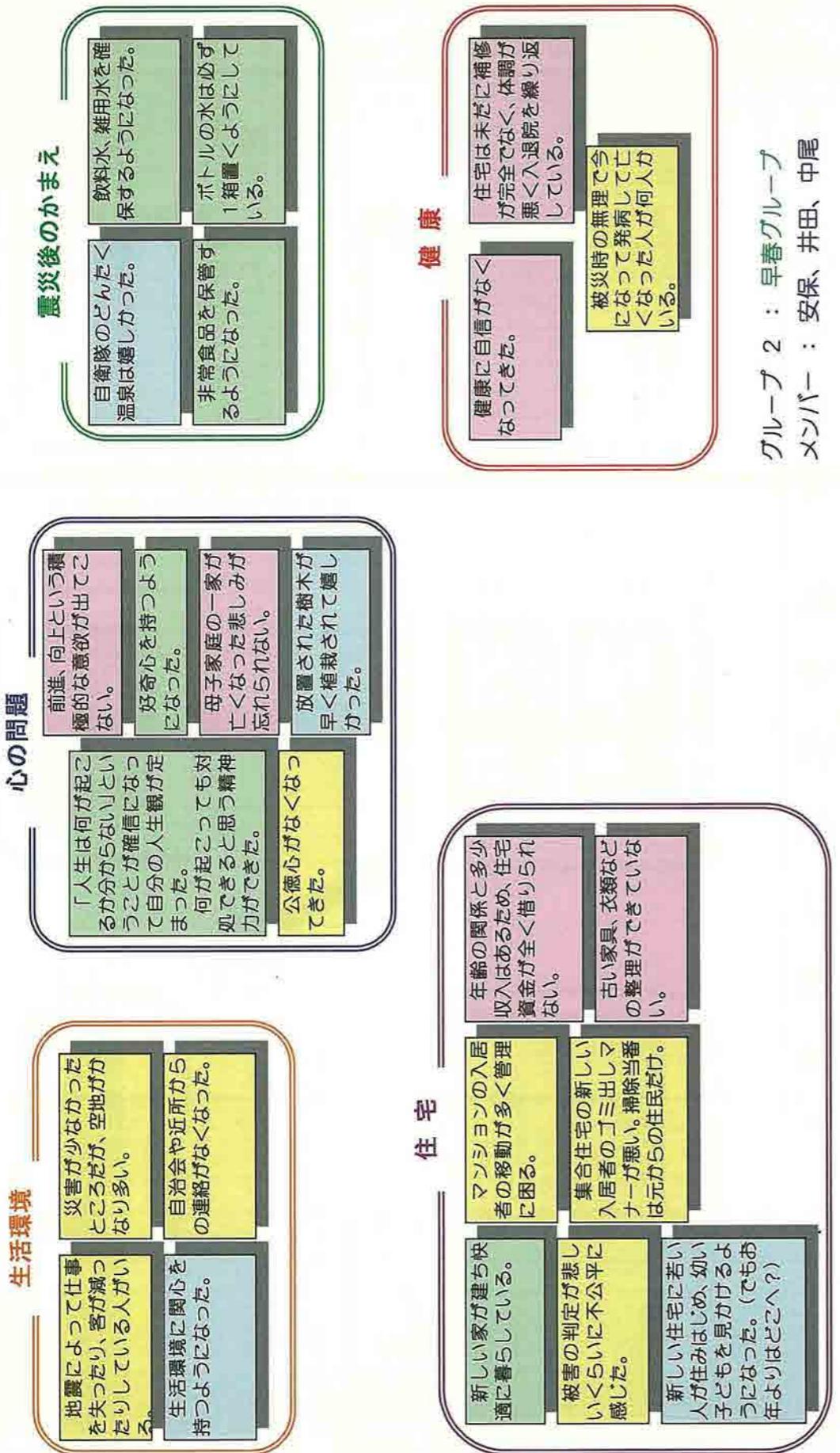
私達の生活再建実感！



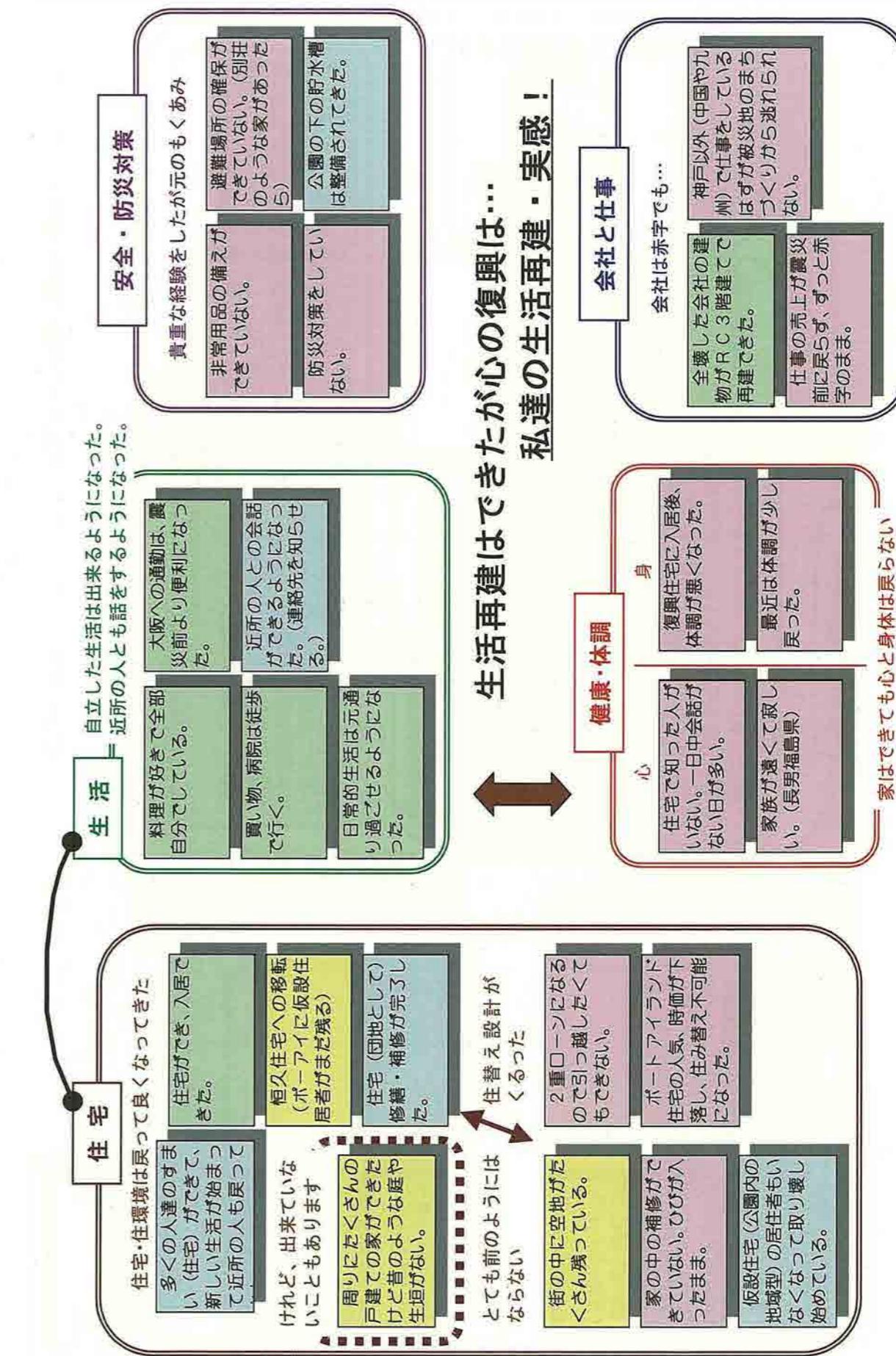
グループ3：ファイブ・レディース 一色、岩岡、岡野、坂井、佐々木

私達の生活再建実感！春光をまつ

芦北区

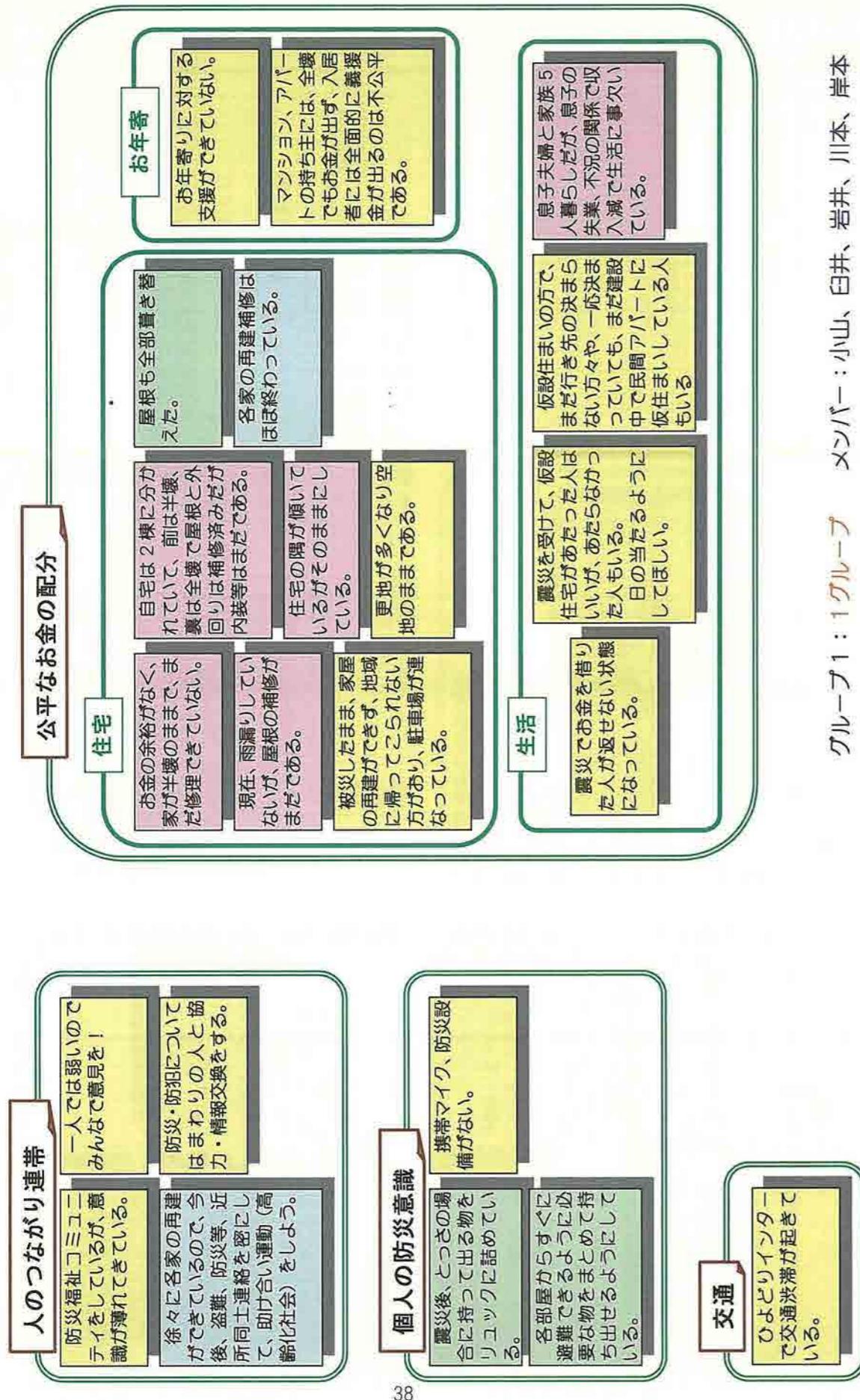


グループ2：早春グループ
メンバー：安保、井田、中尾

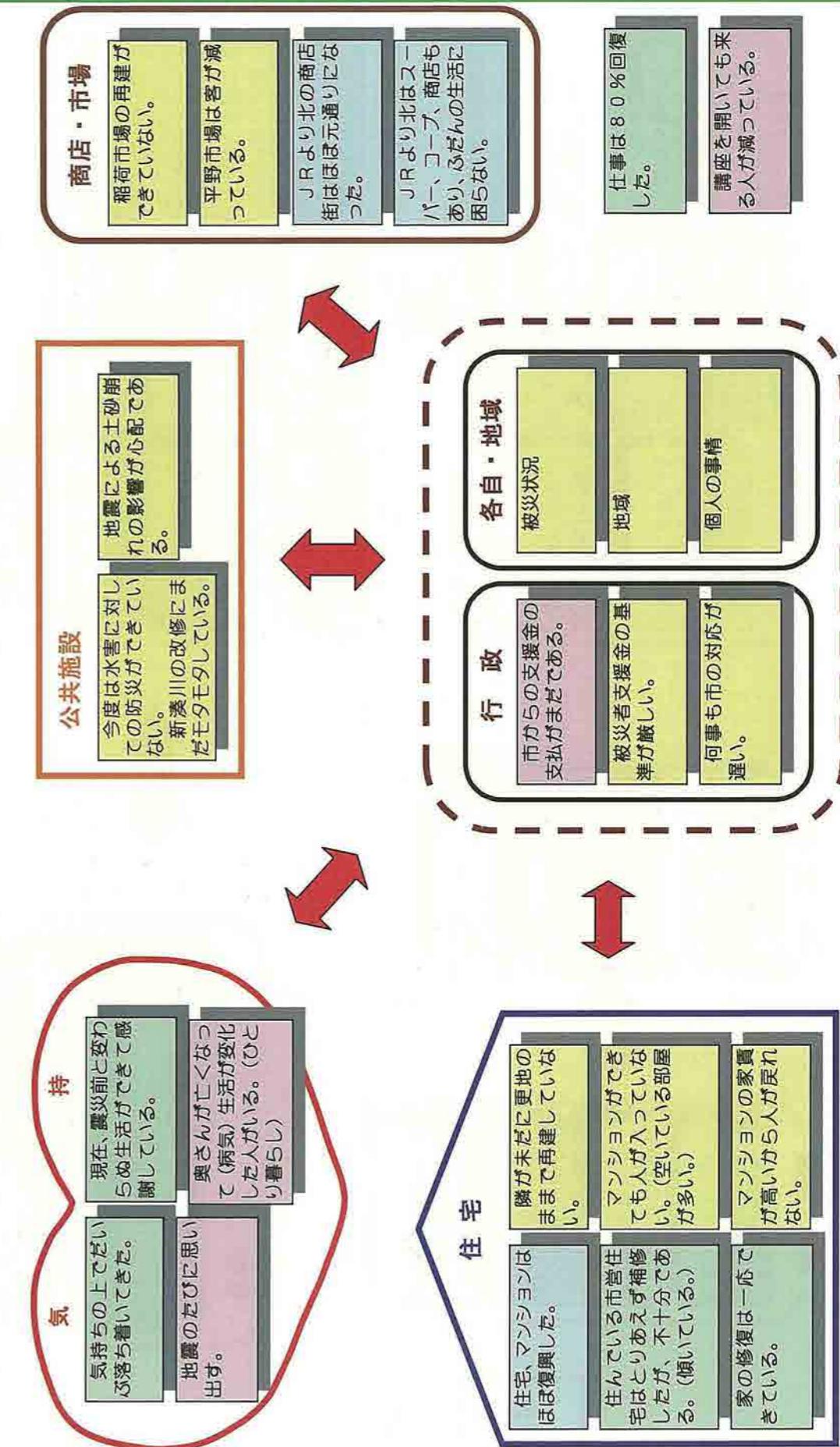


地域の防災・福祉は情報から

沖縄区

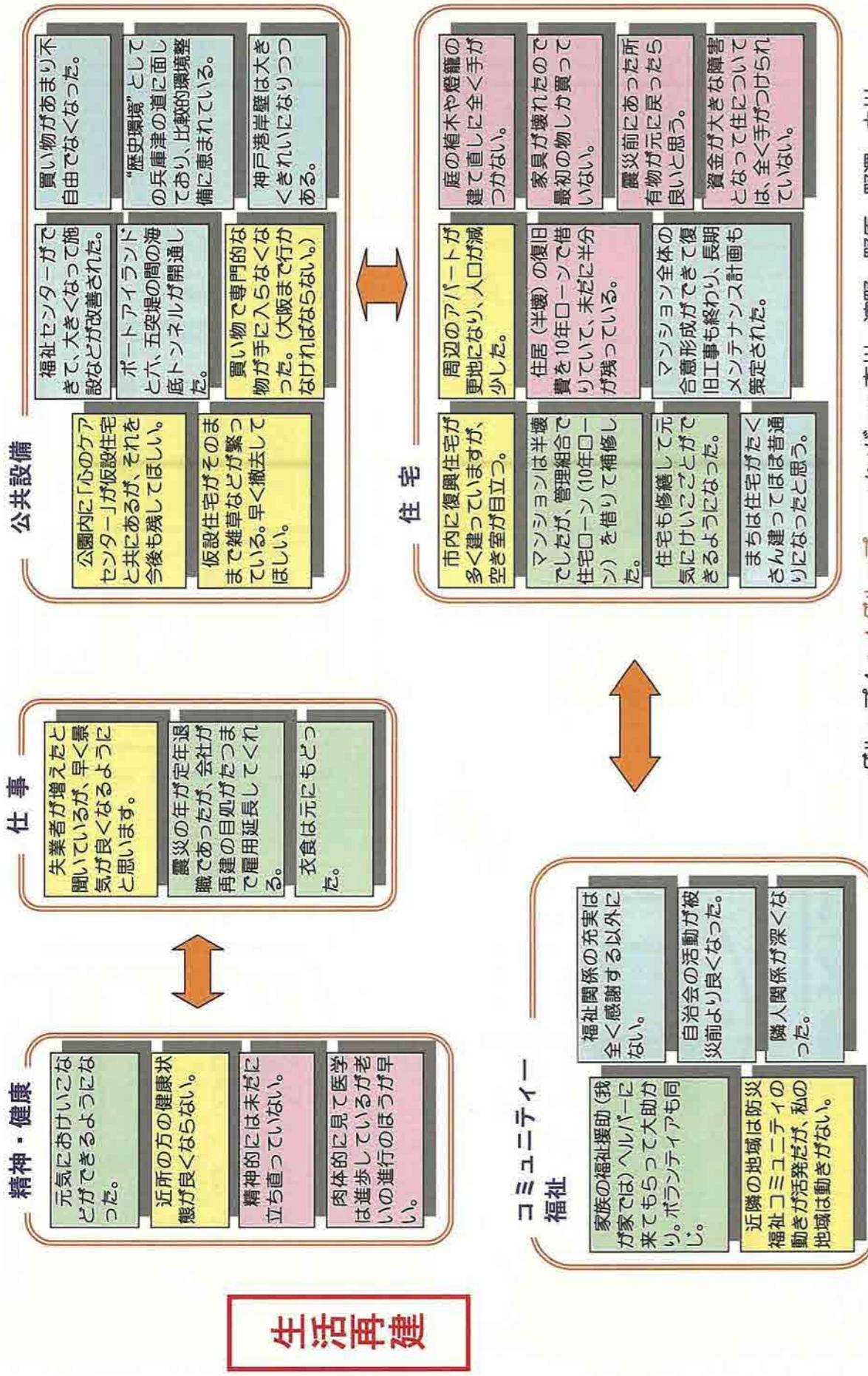


復興は地域でマチマチダッ！！

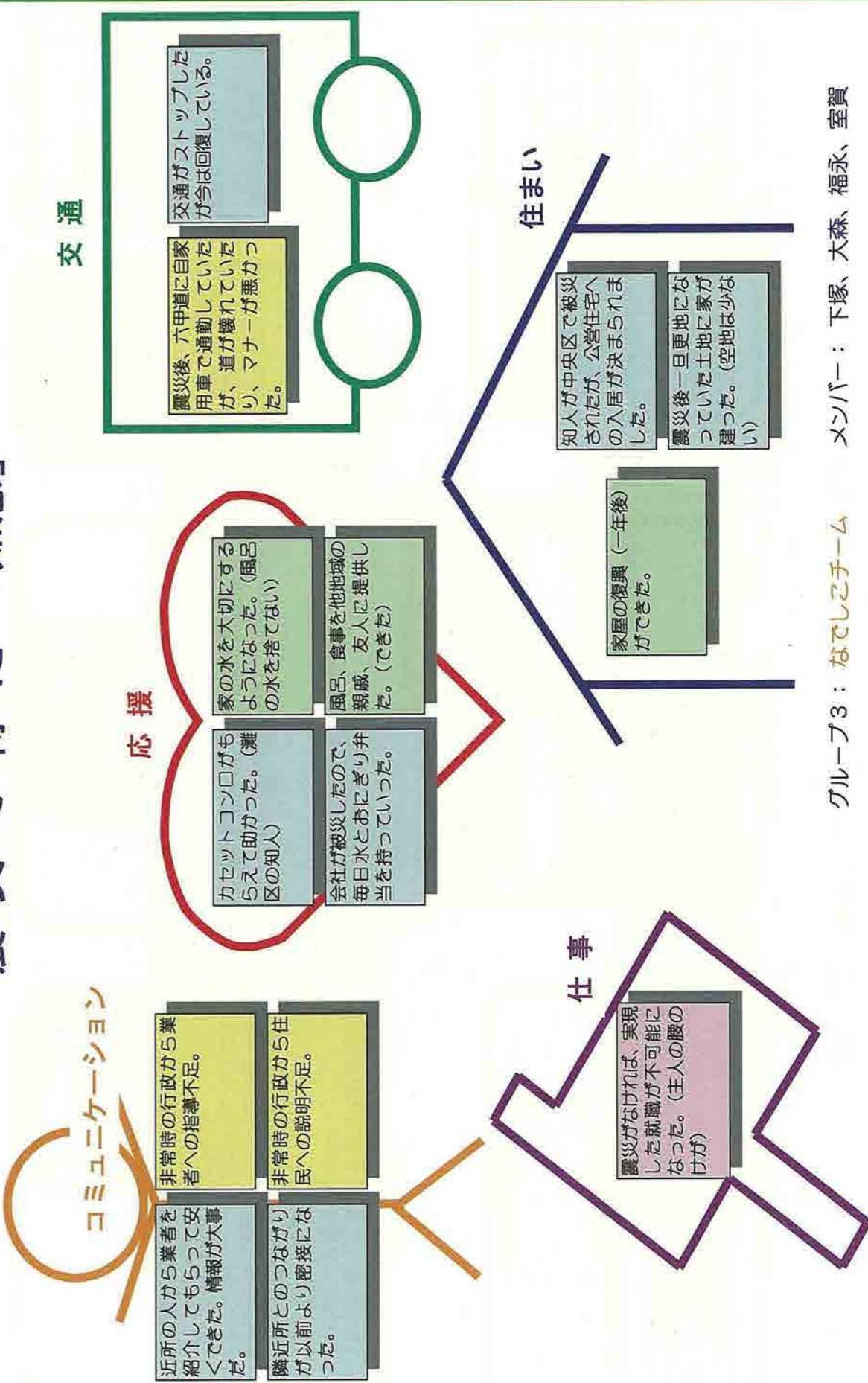


私達の生活再建実感！

次回



震災で得た「知恵」

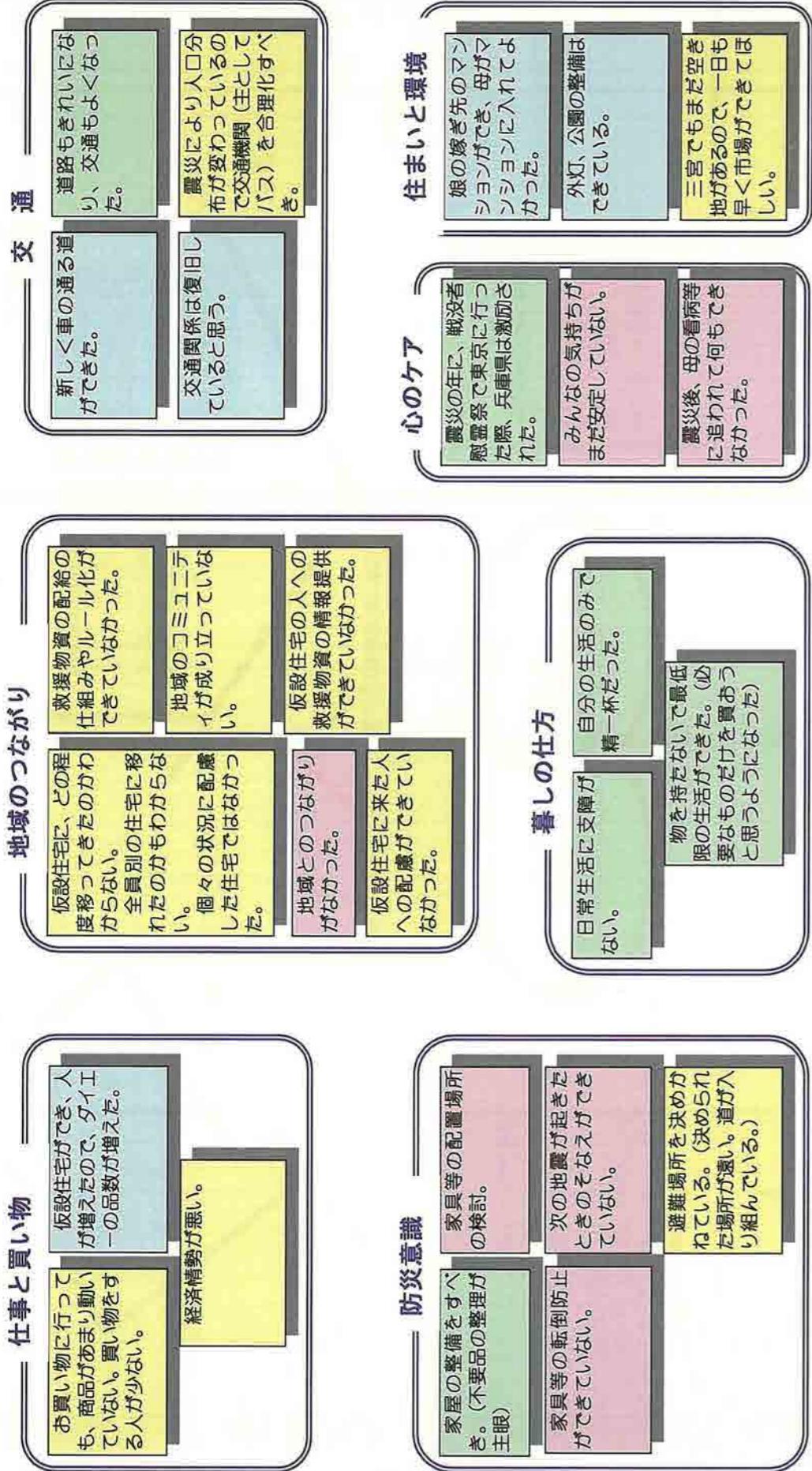


グループ4：メンバーアー：森川、濱野、野原、野澤、中川
グループ3：なでしこチーム

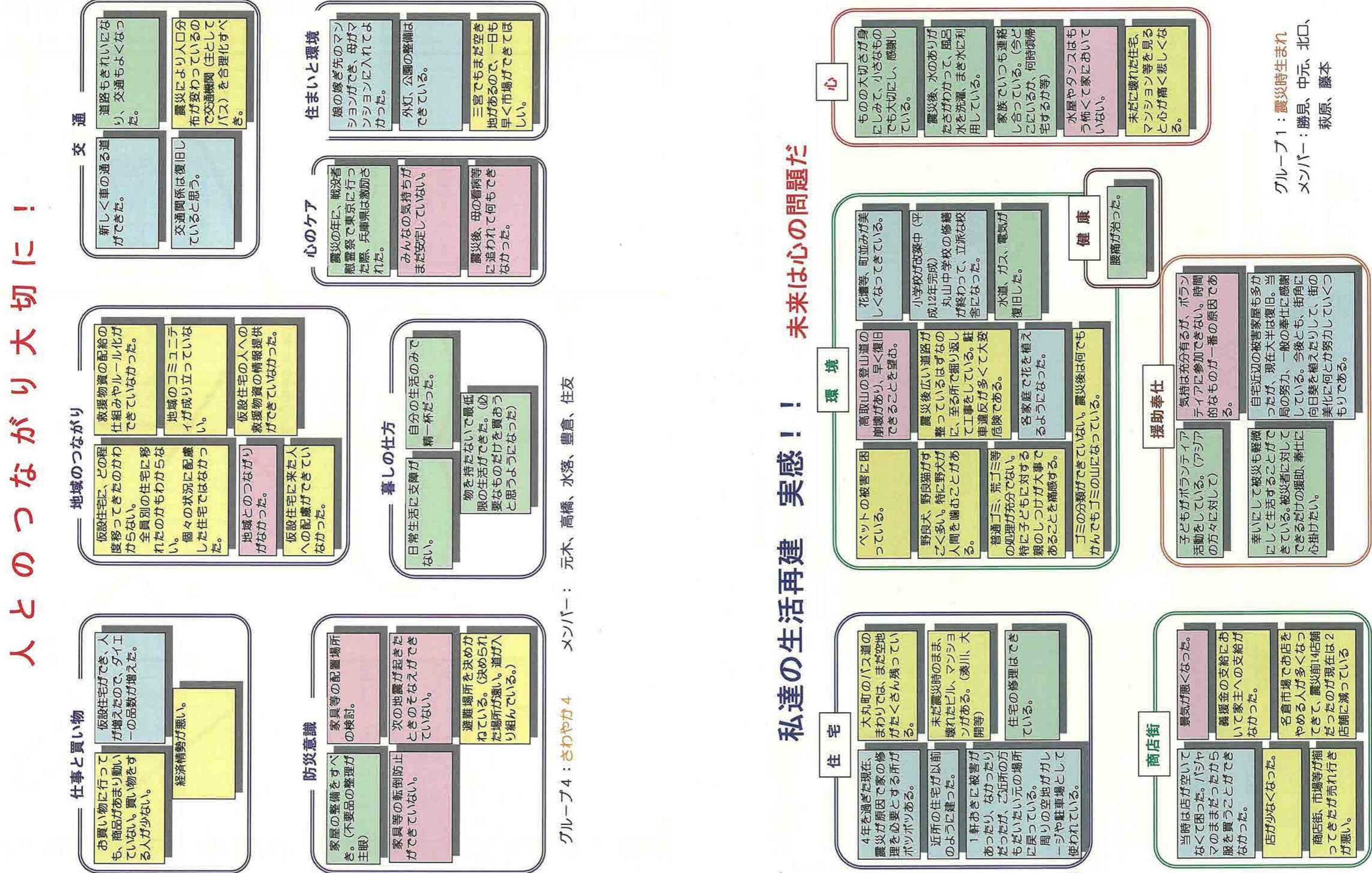
次回

人とつながり大切に！

北区



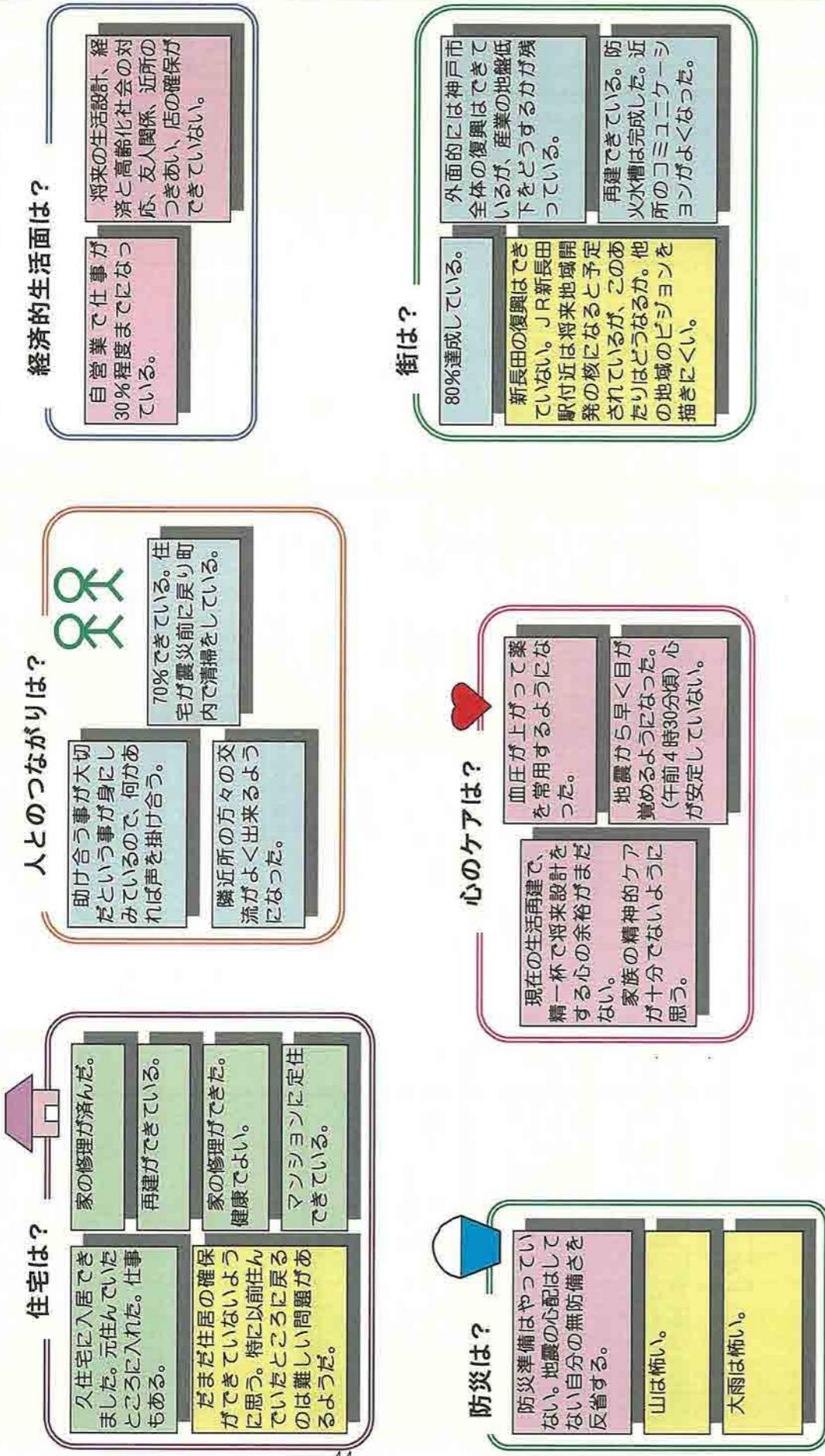
グループ4：さわやか4 メンバー：元木、高橋、水落、豊倉、住友



北区

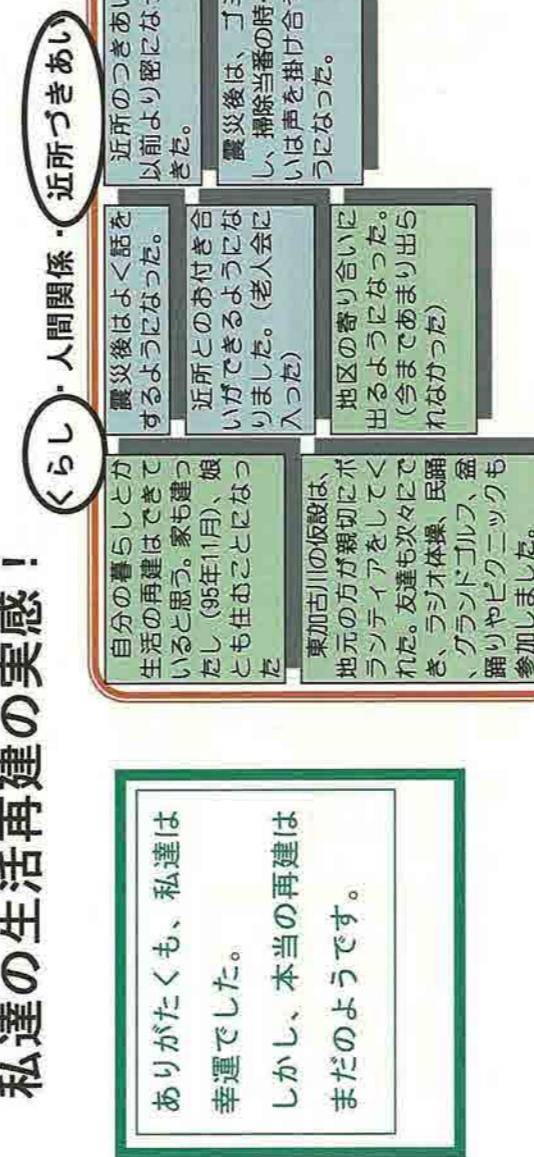
私達の生活再建実感

「本当の生活再建は出来たのか？」

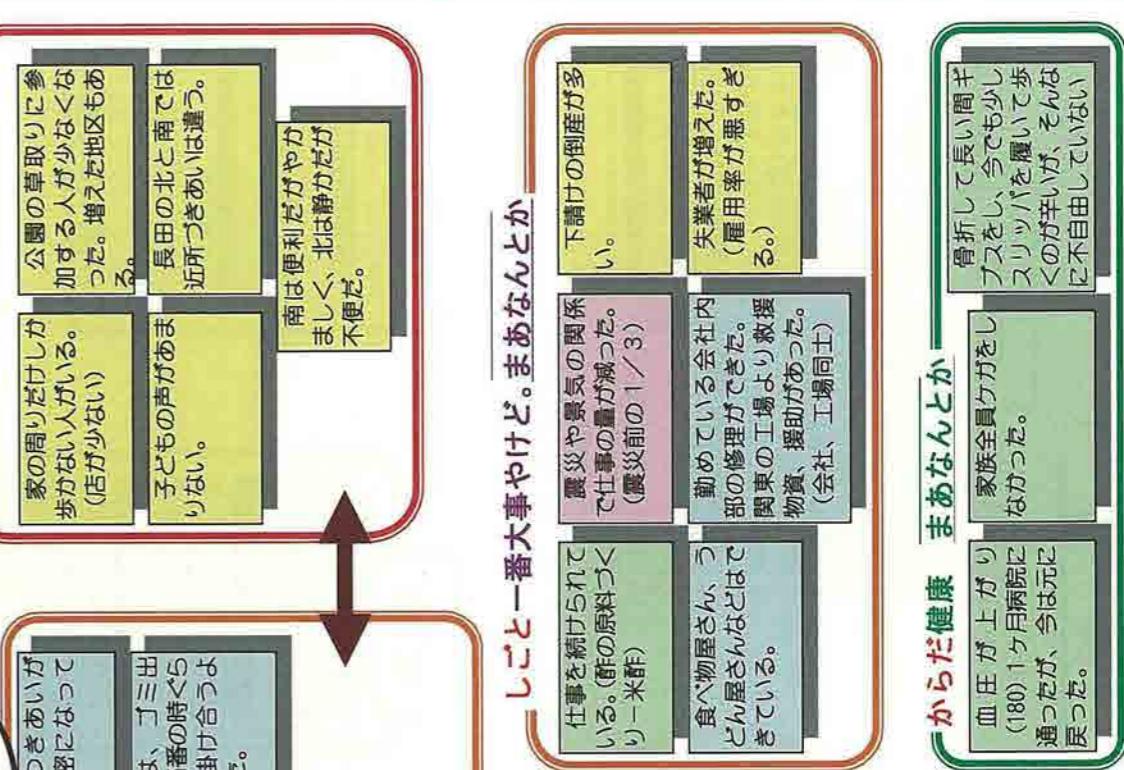


グループ2：「スリー＆フォーグループ」 メンバー：木内、柏原、前田、和田、大賀

私達の生活再建の実感！

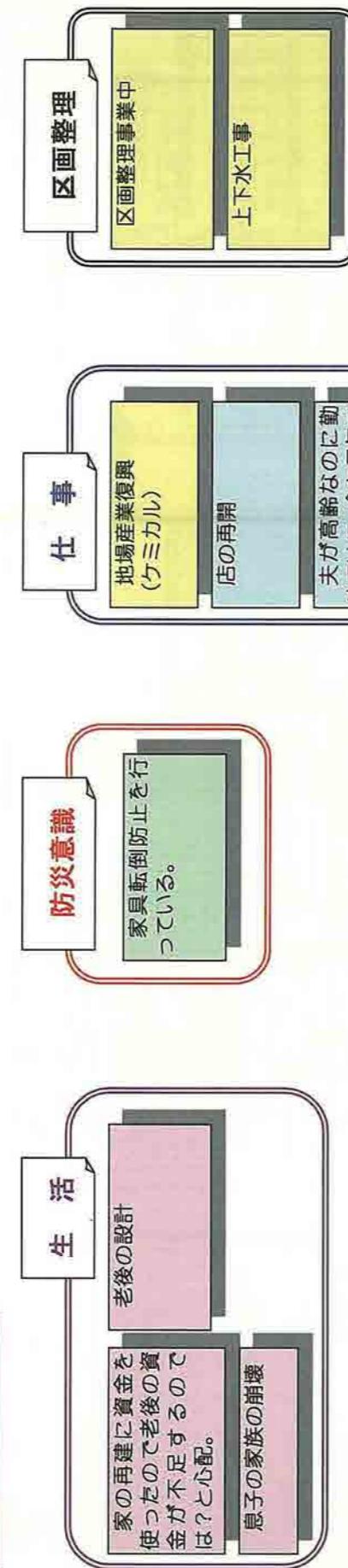
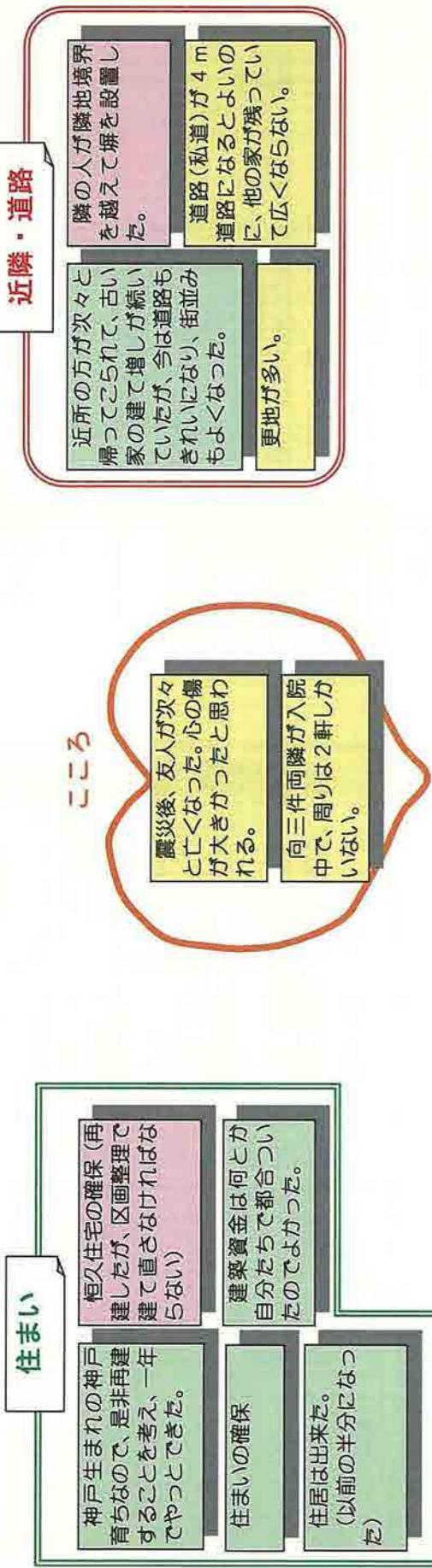


ご近所と仲良くなつたけど、そとはいかないこともある



私達の生活再建実感！

須磨区



グループ2：2班 メンバー：沖、金、大塚、岸野、戸田

私達の生活再建実感！！

住まい

家が出来上がつたこと。
半壊の家を壊し、2階建てを3階建てに建て直したので家が広くなつた。
水道は一日で復旧した。

心構え

懐中電灯を玄関と電話の側に置いてある。
ガラス物は買わないにこ思つができない。また増えた！
飲料水を2リットル立汲んでおく。

心のゆとり

運動公園の仮設が全部取り壊された。
(老人・子供の憩いの場が出来た)
公園、庭等、緑が増えた。

暮らし

（地震の）小さいのが来ると、大きいのが来ると、違うように思つ。(お風呂の水は流さない)
健康が1番！！
保存食を家族の人數分置いておく。
高所へ重い物を置かない。

コミュニケーション

近所3軒が助け合つて仲良く暮らしている。

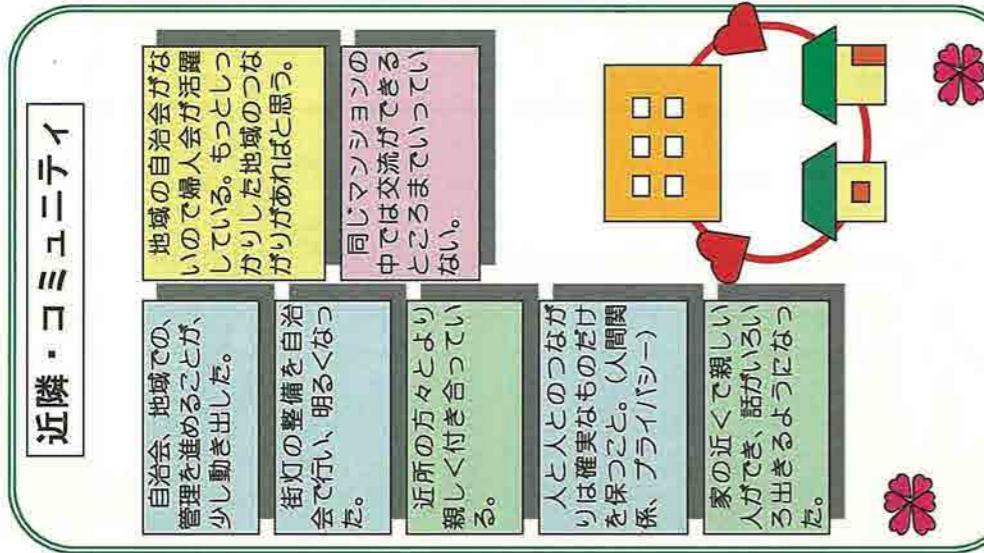
親族の連絡の取り方が密になった。

ご近所とよく声をかけ合うようになった。

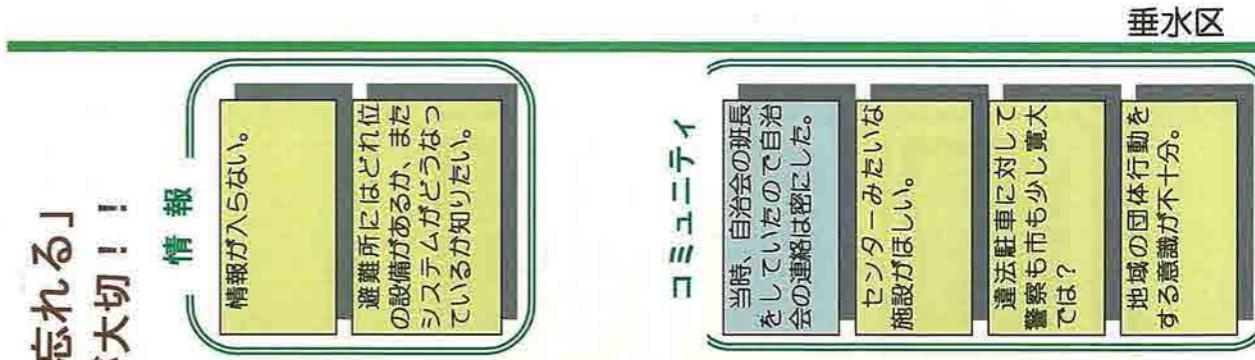
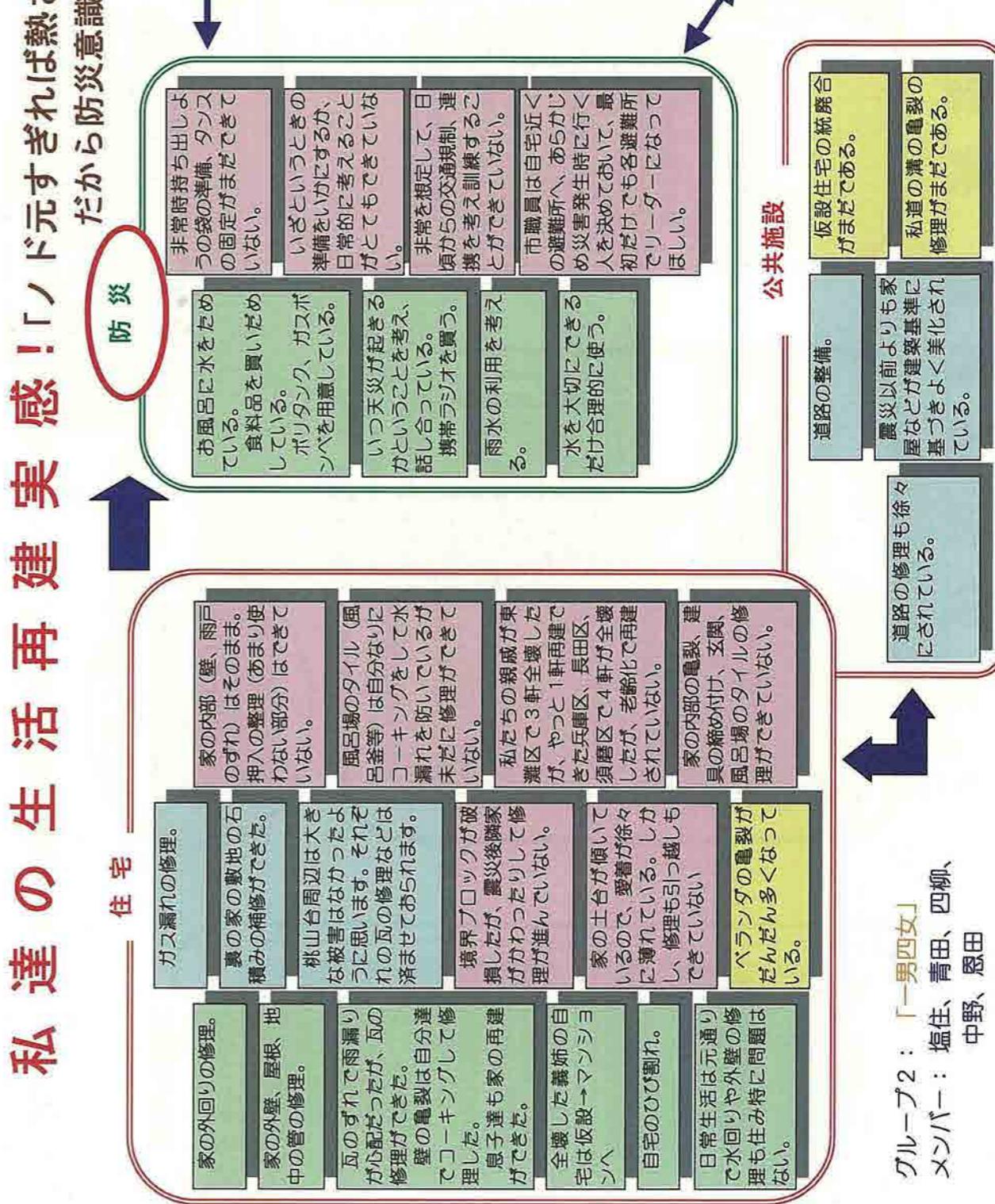
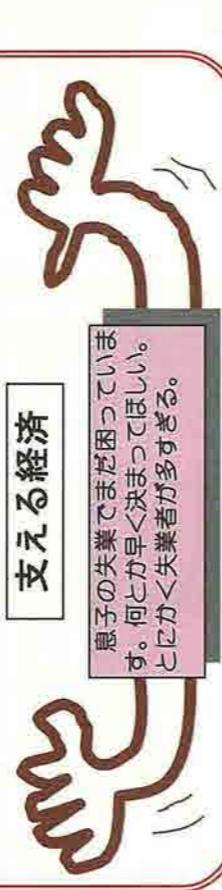
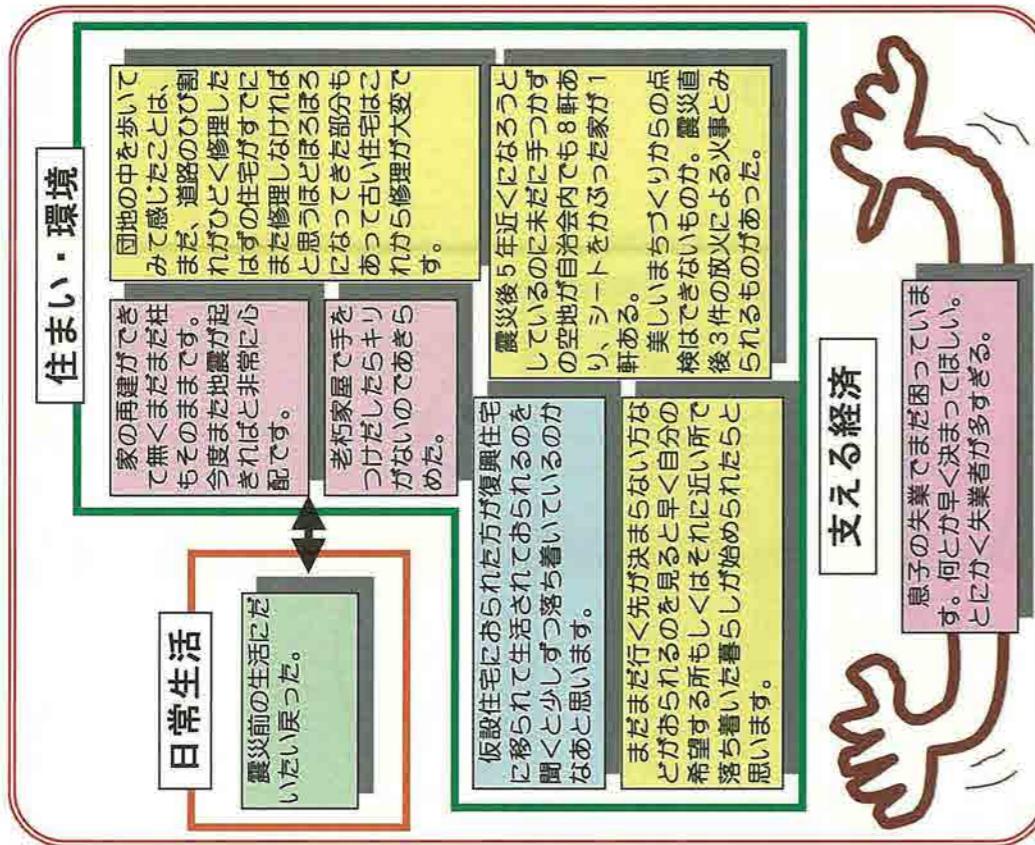
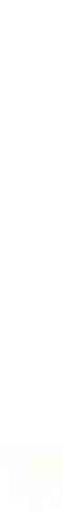
グループ3：ミズ・コスマス
メンバー：久米、小川、野田、石川

私達の生活再建実感！～衣食足りて礼節を知る～

掛文区



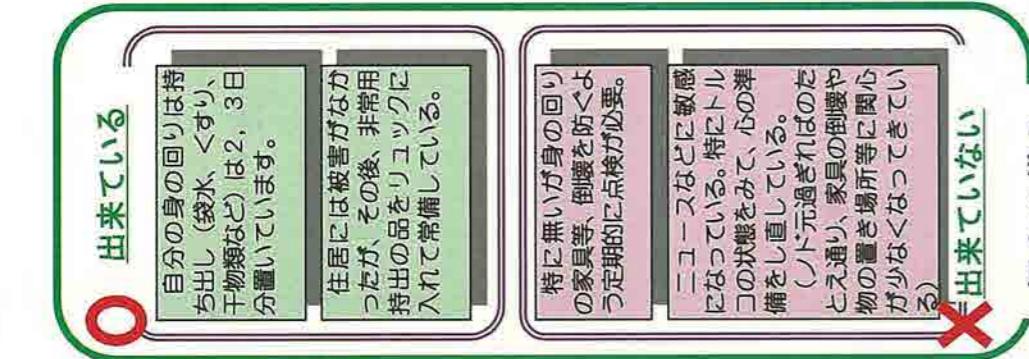
グループ1：姫姫グループ メンバー：石原、高本、竹田、真田、山田、岡本



掛文区

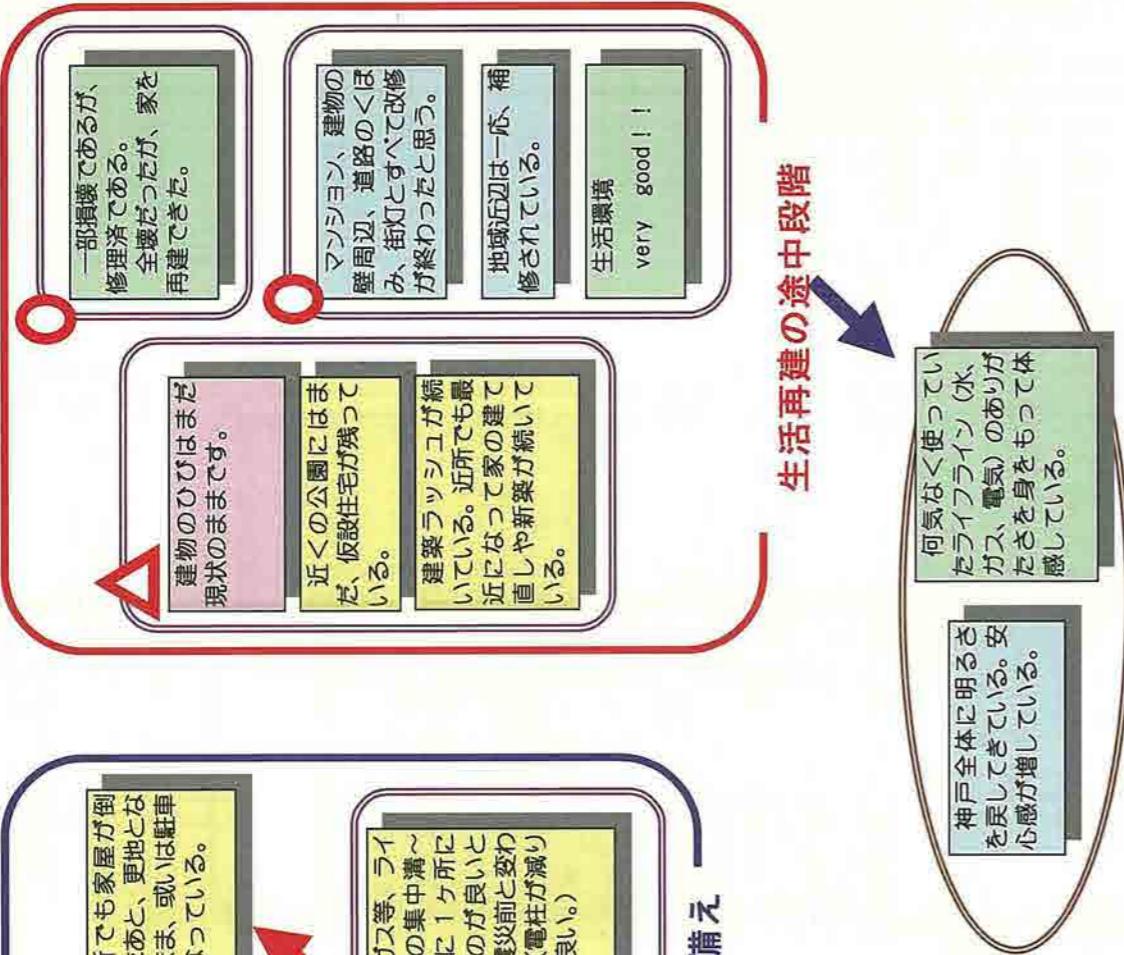
グループ2：「一男四女」
メンバー：塩住、青田、四柳、中野、恩田

私達の生活再建実感！



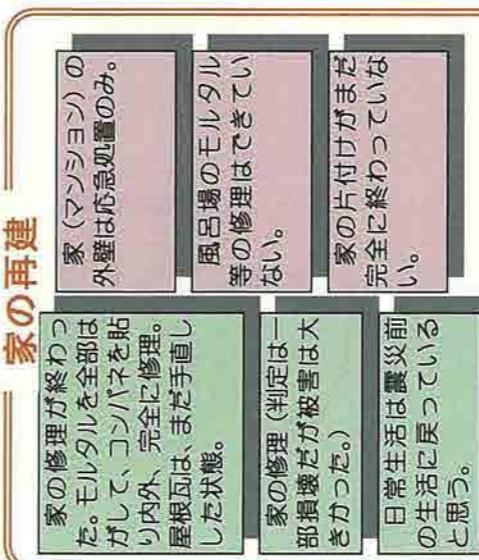
グループ3：「シルバー（？）」
メンバー：浅原、近野、浅倉、駒田、井上

生活再建の途中段階

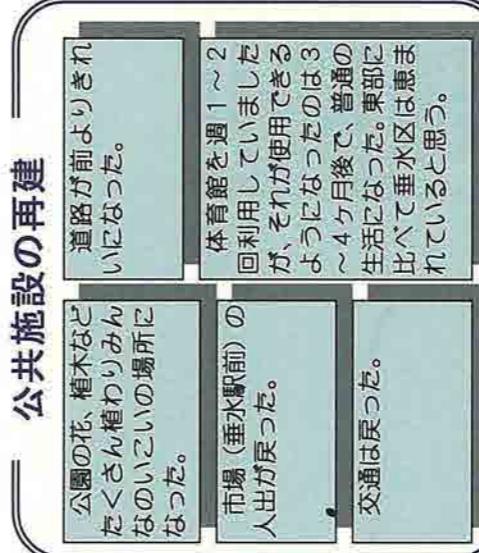


私達の生活再建実感！！

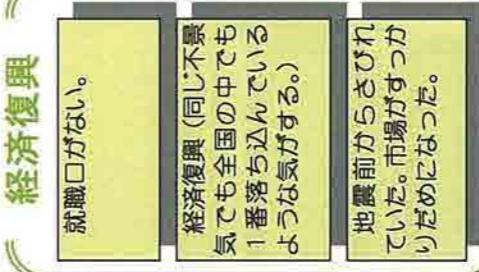
家の再建



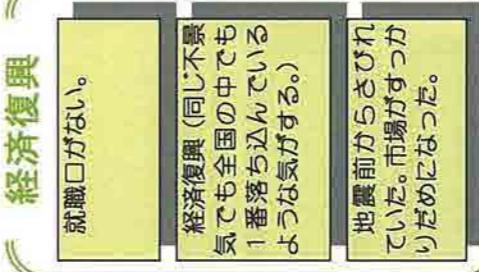
公共施設の再建



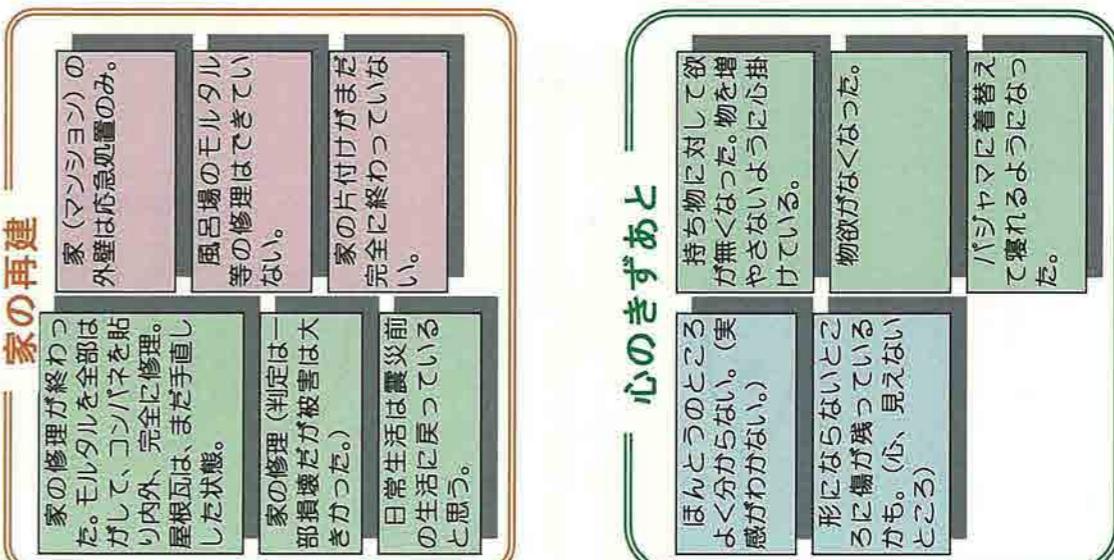
経済復興



マナーの低下

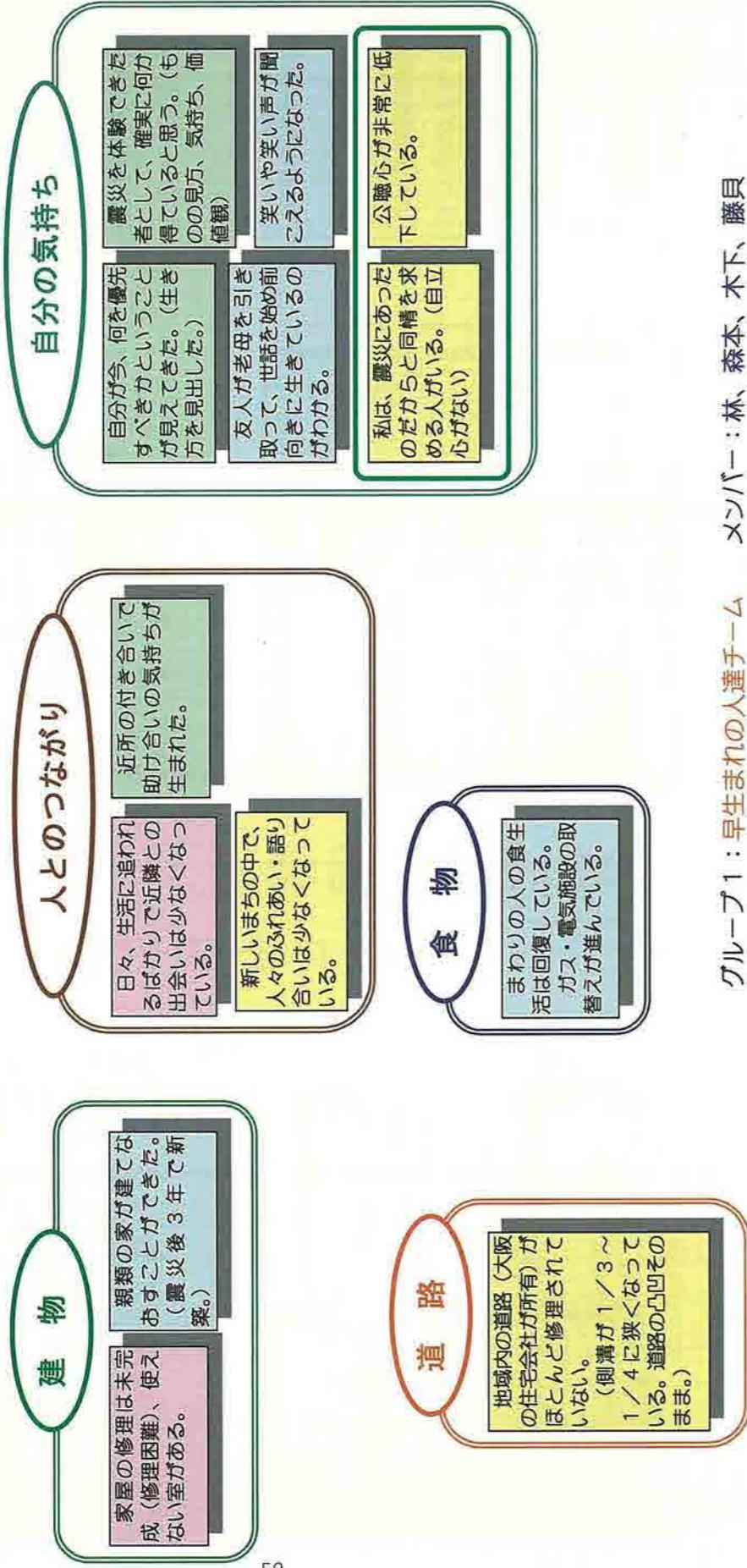


心のきずあと



「見えない部分は
これからです」

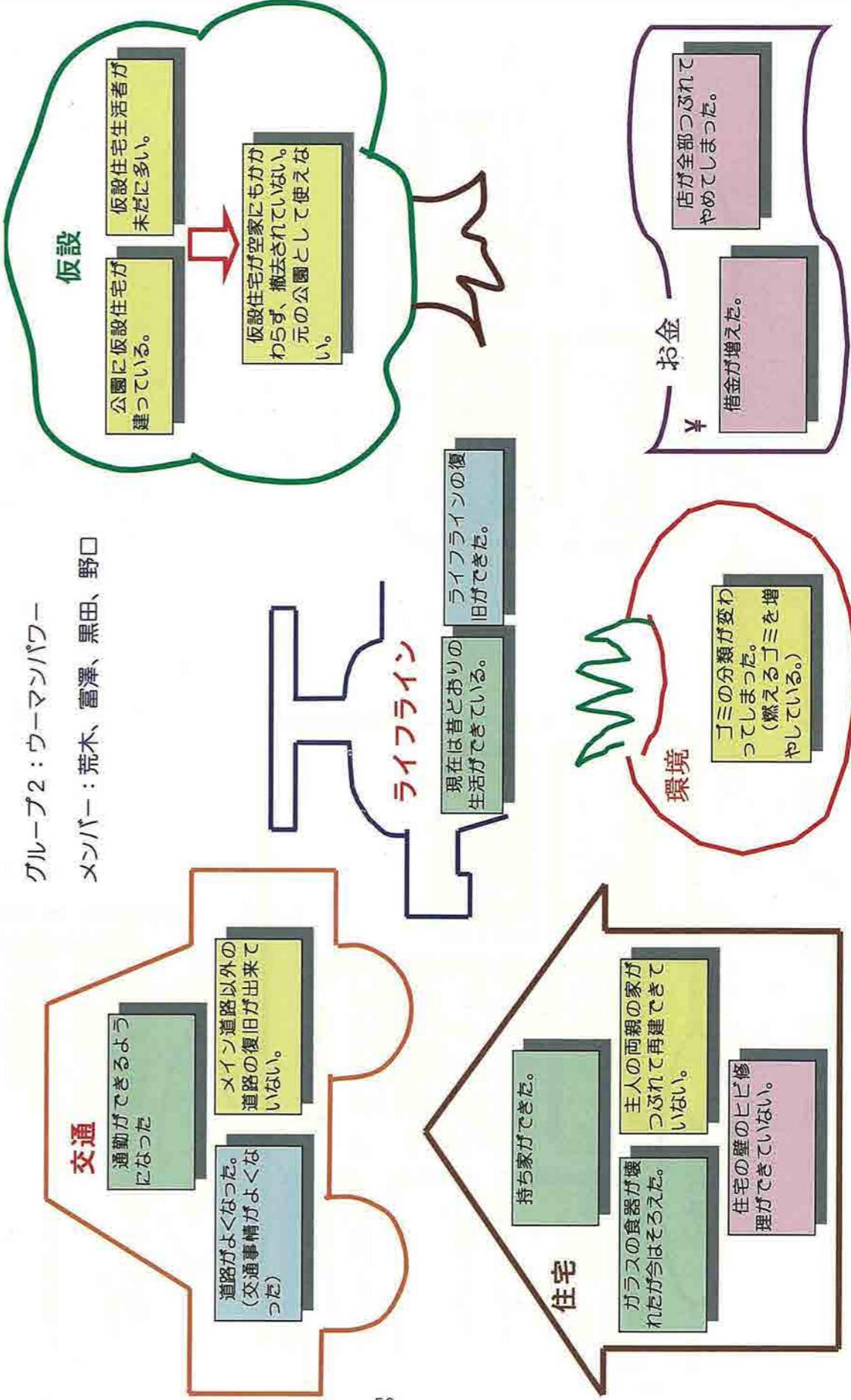
私達の生活再建実感！



52

グループ1：早生まれの人達チーム メンバー：林、森本、木下、藤原

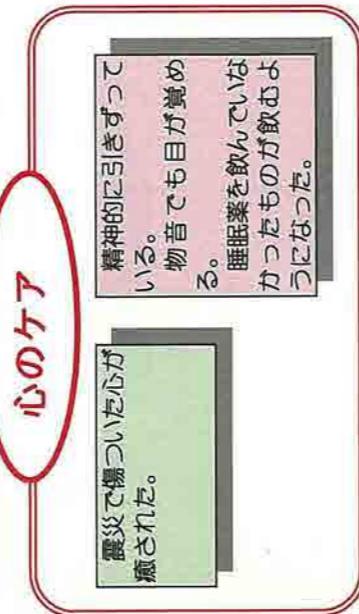
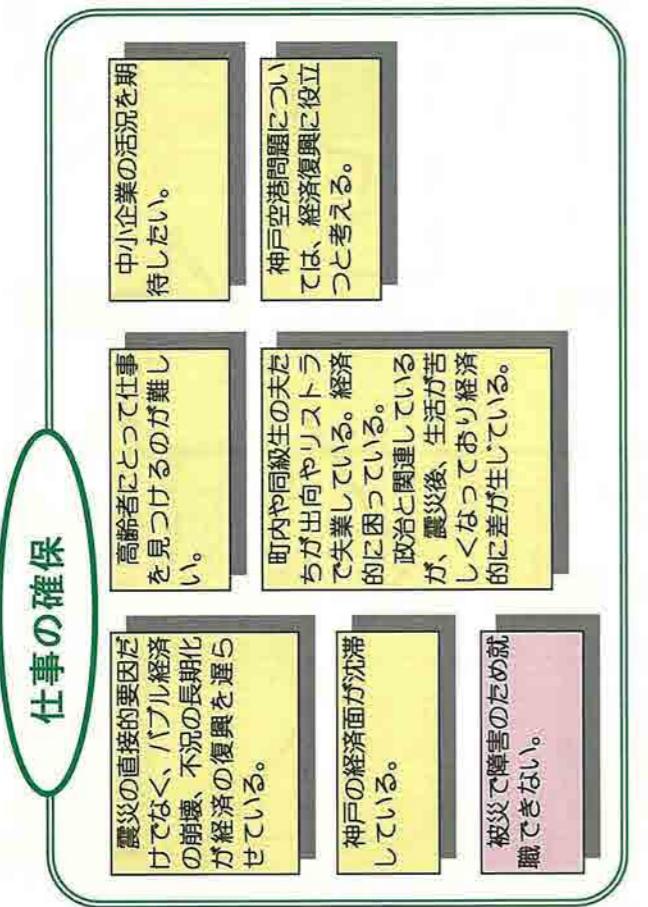
私達の生活再建実感！！



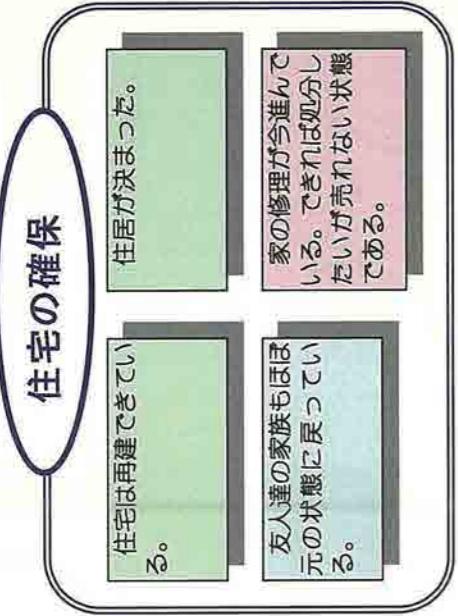
53

私達の生活再建実感!

団 因

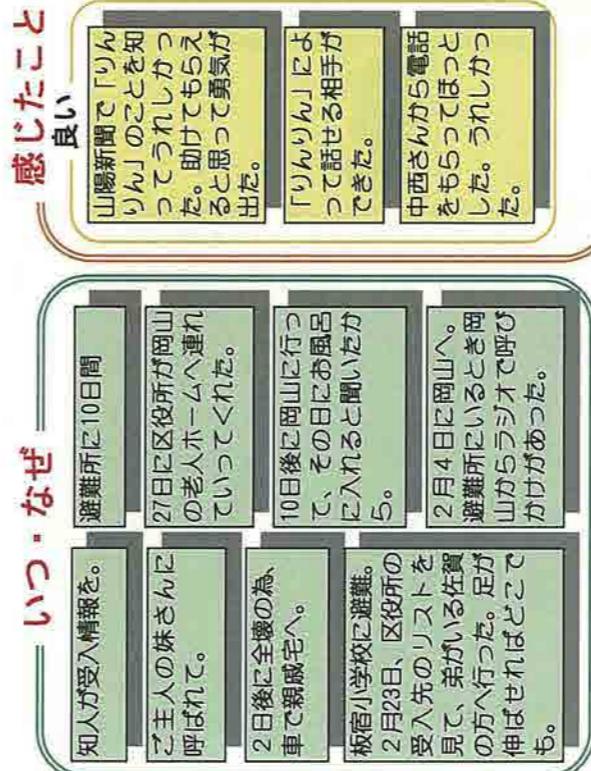


グループ5：5班 メンバー：梶、田路、河本、橋、伊藤

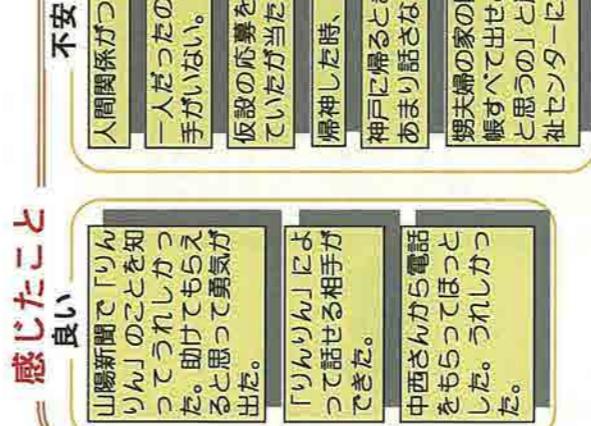


グループ5：5班 メンバー：梶、田路、河本、橋、伊藤

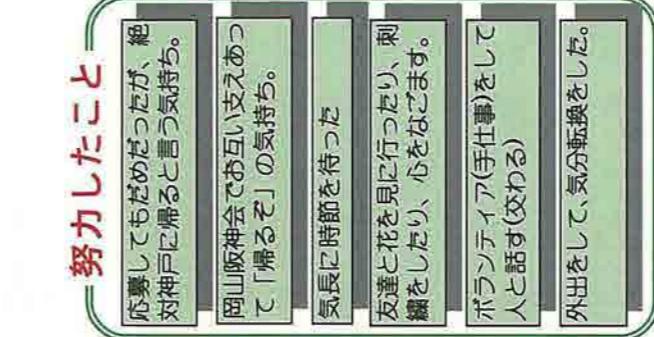
いつ・なぜ



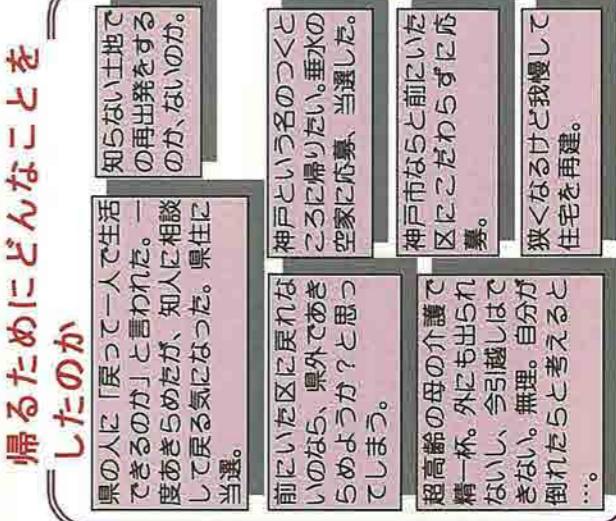
感じたこと



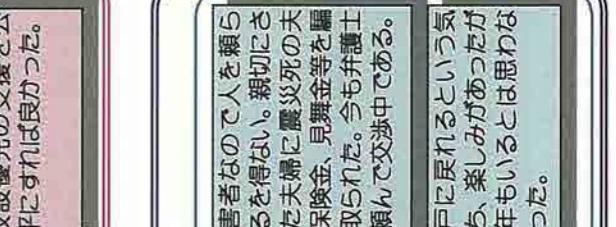
努力したこと



帰るためどんなことをしたのか



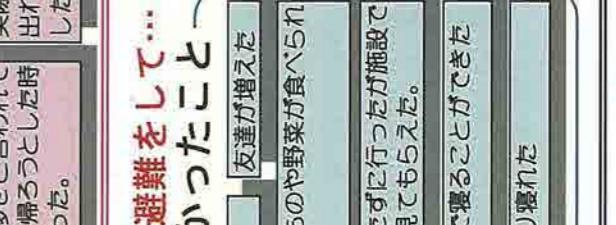
提案



悪かったこと



広域避難をして…



グループ1班 メンバー：金本、住田、青木、三原、天野、堀口、森光、西田

計画避難者

ヒナソ場所にはおれなかつた

ちよつとよかつたこと

避難所で亡くなりました。夫が死んだ日、火葬しなければならず大阪へ行つた。子供の喘息もあり、大阪で家を探して4月から暮らしました。(池田市)。3週間後、兄弟の勧めで岡山の山陽団地へ(実家が倉敷ということもあり)。

親感が非常に温かく迎えてくれた。至れり尽くせり。あまりよくしてもらとうと思ふらくななるが。衣・食・入浴なども十分でありがたいといっている。

避難先の広島で被災者の会をつくつた。そのことが生きがいとなり非常に生活にはりができた。

岡山へ行つて1年くらいはコミュニケーションなかつた。しかし被災者同士の交流できてからは大変よかつた。できれば被災者のみんなを同じ所に帰つて欲しかつた。

情報がほしい！たいへん！
手続き・
手続困った。

夫の会社が大変困った。
手続きのためいちいち神戸に足を運ばなければならなかつた。広瀬が送られるようになつたのも少し時間が経つてから。こうした点の対策を。
カリオルニア地震では日本出張社員にも\$200が出た。阪神では国の支援金ほんどないに等しい。義援金の使い道にも不満。

苦労したこと・困つたこと

逃難所では近所の輪。しかし環境は良くなかつた。船で大阪を見たら全く雰囲気が違つた。
2月に避難して4月に夫を亡くした。知らない場所で夫を亡くし、つらい思いをした。
岡山に避難中に神戸市の職員から「神戸市に来て下さい」と言われて大変憤慨した。いくら金がかかること思うのか。

親感を転々。実家でもあしり落ち着かない。当たつて入居したらほほつとした。
水、食料がいっぱいあつた。子供が中2で戻つてきた。学校の勉強の内容が違い、高校受験まで大変苦労した。

結果として仮設にも、市住にも当たらなかつた。避難所生活といつ共通体験もない。何をしてきたのか…むなしさしか残らない。

障害を持つてあり、家を借りるのが大変だった。
負けまいと思いながらも日が経つごとに家の中からあれも出せないと悔やんだ。

グループ：2班 メンバー：松本、妹尾、松村、車谷、村上

市外避難生活

ちよつとよかつたこと

公営住宅に住んでいて被害。代替住宅の斡旋で県内はなく県中へ(3月末)。
震災翌日広島から親戚が来た。1/20に父親の出身地の広島に避難。

震災から4日目、避難所に娘が迎えに来てくれた(池田市)。3週間後、兄弟の勧めで岡山の山陽団地へ(実家が倉敷ということもあり)。

YMC Aにマスコミの情報が入つて、H3年の住宅募集にトライして当選した。

自分が不自由。神戸市から点字ニユース取り寄せて住宅応募。当選に3年かかった。子供が学校でいじめ。

大阪では全く孤独。自治会もなかつた。神戸に帰ればボランティアや行政の人たち考へてくれるほどだった。

食料品悪い(大阪)。物価が高い。夫に帰つてもらつて買つてもらつた。

避難理由

市外避難して良

夫が病氣。娘が岡山の県営住宅をみつけてくれた。

夫の紹介で岡山の県営(2月4日)。母の介護のため住宅確保(急務)

全般。夫と娘は亡死。娘(85才)の家き先に行き1年いた。わずかな荷物は取扱い入れ。姉の子(甥)にも甥の家族にも気がねし、ゆづくり気がねなくなつてころが欲しかつた。

夫の会社から奈良へと(1月末)言われた。

4日目に大阪の実家へ。長田から有馬を越えた。
1月16日に親元(箕面)に帰れなくなつた。

病気の夫の病院の確保のため、病院を自力やくざみだいな人が来て大声で出て行けと何時間もどなつた。後でわかつたが地主と不動産屋が結託して焼夷にケースだつた。弁護士を

負けまいと思つた。がらち日が経つごとに家の中からあれも出せないと悔やんだ。

夫がいため無理をして一戸建ての家を借りた。犬を飼うということが初めてからの条件でよいといつことだつたのに入居して1週間目からやくざみだいな人が来て大声で出て行けと何時間もどなつた。後でわかつたが地主と不動産屋が結託して焼夷にケースだつた。弁護士を

避難理由

不安

兵庫県では65才から高齢者医療が無料だつた。そんなにどちらで避難して病院に行きたいでできない。生活もやつくりできぬ。生活保護の申請をしたが市の財政がひびしく結局認定されなかつた。震災が原因の心身症など外から見えない病気等に市府県では理解が遅い。

子どもたちの学校・幼稚園のこどもの精神状態。

全く知らないうちなので不安。

また地震がきたどうしようかと不安。

神戸のニュースが入りにくくない。神戸のニュースが入つてこない

家族を支えて

子供、両親のこと

いつぱい(自分のことはあまり考えていなかつた)。余裕なかつた。

わざかな国民年金では生活ができない。神戸では仕事もなくした。大阪では神戸に帰るまでと雑用に雇つてもらつてもらつた。これか帰りたいが神戸では仕事もなく、かといつて大阪では定住するからいいまでもとは言えない…。

岡山に定住するつもりだつたが、定住する意味がない。第3次募集で当たつた。

岡山に見すこむ宅を決めて。

買い物など不便。

行政、ボランティアなどからのお世話を

小学校の子供の精神状態などを心配。

母の看病のため苦労。岡山から北区の病院。通院にへとへ

年の離れた夫と再婚して静かに暮らしていた。震災で借家がつぶれ、夫の息子たちは引き取れないと言つた。仕方なく隣りにいた両親を大阪に呼んだ。大阪で4階の住宅(市住)に1階に入れてもらえないかつた。

年2回もが公園で遊ばなかつた。親も

我が家が離れるのが恐い。公園に行く気にならない。子供が病院がわからな

い。

予供のこと

両親のこと

離れていた。親も

我が家がつぶれ、夫の息子たちは引き取れないと言つた。仕方なく隣りにいた弟のいる田舎の町営住宅で寂しく暮らしている。もうここで朽ち果てる。

2年目くらいから病院で友達づくり。コープスの会に自分から参加した。

2年目くらいから病院で友達づくり。もつと早く当たつれば…

マスコミ

シス

行政へ

行政の文書表現をわかりやすく。

行政の方から被災者の元へ出向いて欲しがつた(共に復興へ頑張る気持ちができるのに)

57

いつ頃・なぜ避難したか?

縁・関係 **自分で行き先を探す**
入院中被災→6月末
国際→奈良の次女宅→
奈良市のマンションに移る→96、7月奈良の高齢者住宅
1/20仮設住宅に当たらず京都の車(~3月まで)
→4月賃貸マンション(京都市内)(~昨年4月)→長田に帰る
95、4月広島に単身赴任中の主人に隣して住むが、隣ががきつかない
どちら向居と思つていたが、隣ががきつかない。
2月末若いので仮設住宅は遠慮し、奈良の県営住宅に新聞を見て応募した。
いつなんば甲道の知り合いを頼る→
2/20東大阪の友達に探しに来らつてマンション(借家)。
1/10県営区役所に届け→大阪・和泉に1年間→堺の府営住宅(有馬で住み中止)
地震のために被災地では心が荒れた。

近所とのなじみ **人のつながりができるなかつた**
避難先が閉鎖的(被災者は日えていると面と向かって言われるなど)。孤独。周囲の無理解。
公営住宅では扉を開めてしまつといふがいいのかわからない
生まれ育つた土地が一番いい
近所の人とははじめができない。「原発に比べたらどうつてことない」と言う。無理解(心の痛み聞いても答えず気兼ねして内向的になつてしまふ)。
寂しい。友達がいなさい。

人脈ができるた
避難者の会や趣味の会(コーラスの会)に出会い、新しい人脈ができるべきだ。
その他 ご主人が病気。(震災のストレス?)

平常な生活が送れる場所に行けてよかつた

壊れた街にいることのストレス→精神的に落ち着いた。
ベット(2回)避難所には連れて行けなかつたので移れてよかつた。骨折していたので体を治せた、落ち着いて生活できる。
情報不足で困った
情報不足(外に出た人の情報が無く次の日から困った)。
情報不足で見舞金などが期限切れで受けられなかつた。
生活物資が不足して困った
食器一つが買わねばならない、生活物資不足。

全国どこにいても同じ行動対応が受けられる様、避難先の窓口をもうけて
どこに誰が避難しているかわからぬ。行政窓口を覗けて避難者の会や支援策などの情報を見るようにして。
被災地なら受けられる高齢者医療・保険が受けられなかつた。全国共通の対応を。
賃貸住宅応募
高齢者住宅に当選しない。広報紙を見て一人暮らしの母に近い復興住宅に申し込みだ。情報・広報紙は集めているがまだ迷つている。
その他 地震のために被災地では心が荒れた。

グループ：4班 メンバー：溝上、有正、山田、藤岡、米川、中村

生活物資の援助をもらえてよかつた
食器類をもらえた。
荷物が何にもないので布団を借りたり保証人になつてもちつたり近くにお世話になつたお風呂に入れた

行政の狭間にありどこに問い合わせよいかわらないなど不安
兵庫県・奈良県の行政が繋割りでどこに問い合わせて良いかわからぬ。ずっと避難していないといけないのが、神戸に帰れないのが不安

新しい土地になじめず不安だった
奈良で新たに人づきあいができた。

新しい人脈ができるてよかつた
町にないめなくて困つた。なじみのない土地に対する不安心所が被災経験がないので理解が得られず気兼ねした。
自分の体が不安、声かけて飛んで来てくれる人がいない早く帰りたいけど(公営住宅に?)当たらない。

新しい土地になじめず不安だった
町にないめなくて困つた。なじみのない土地に対する不安。一人で知らない土地に行き、友達もおらず先行きが不安感がある。子供さんに最初を言った「命が助かったから良かった」と懇意に自分から近所あいさつ・犬の散歩中あいさつを通じてもらいができ、神戸に帰る決断ができる。

新しい土地になじめず不安だった
神戸に通勤していたのが支えになつた。
神戸には帰つて来たいが、和歌山(娘のところ)にいてもよい夫が亡くなつたときに夫の親戚に縁を切られた。その時の思ひが強く、神戸に帰りたい気持ちと和歌山に気持ちとの葛藤。

グループ：5班 メンバー：住田、西田、細川、岡田、大西、米沢、三木

避難生活で感じたこと

避難生活を送るために
団地をまき回つて被災者の名簿作りから始め被災者の会をつくつた。会合を開けるようにし会報を出した。
岡山への避難。被災者同士の交流が全くなかつたので名簿作り、定期会を開くようになつた。
「何とかなるだろ?」→次第に老後の不安・経済的不安。
仮設での集団生活→人間関係の複雑さ・ストレス。

今後の仕組み
被災者がバラバラにならないようにまとまつていられるように。
仮設を決めるとき同じ区域の人が同じ所へ入れるようになります。
同じ区域、地域ごとにまとめて仮設に入れて欲しい。
情報がないのが一番困つた。愛知県ではなかなかつた。県外に出ても情報が。

グループ：4班 メンバー：溝上、有正、山田、藤岡、米川、中村

いつ・理由

帰るために定住を決めた
3/31仮設住宅が当たらず愛知県の県営住宅。
1/28岡山県の団地。
妻の体調を考えて(避難所ではつらい)神戸市灘区の避難所(4ヶ月)。住環境(交通の便など)。八尾の避難所。
6ヶ月後に。

よかつたこと
親族の心遣い。精神的にほつとした。
困つたこと 妻のからだのことを見て県外避難。次第に郷愁にかられた。見知らぬ土地で淋しい思い。
不安 知らない土地(神戸→岡山)。被災されない方からの差別・感覚のギャップ(経験している者/経験していない者)。

グループ：5班 メンバー：住田、西田、細川、岡田、大西、米沢、三木

避難生活を送るために
神戸に通勤していたのが支えになつた。
一人で知らない土地に行き、友達もおらず先行きが不安感がある。子供さんに最初を言った「命が助かったから良かった」と懇意に自分から近所あいさつ・犬の散歩中あいさつを通じてもらいができ、神戸に帰る決断ができる。

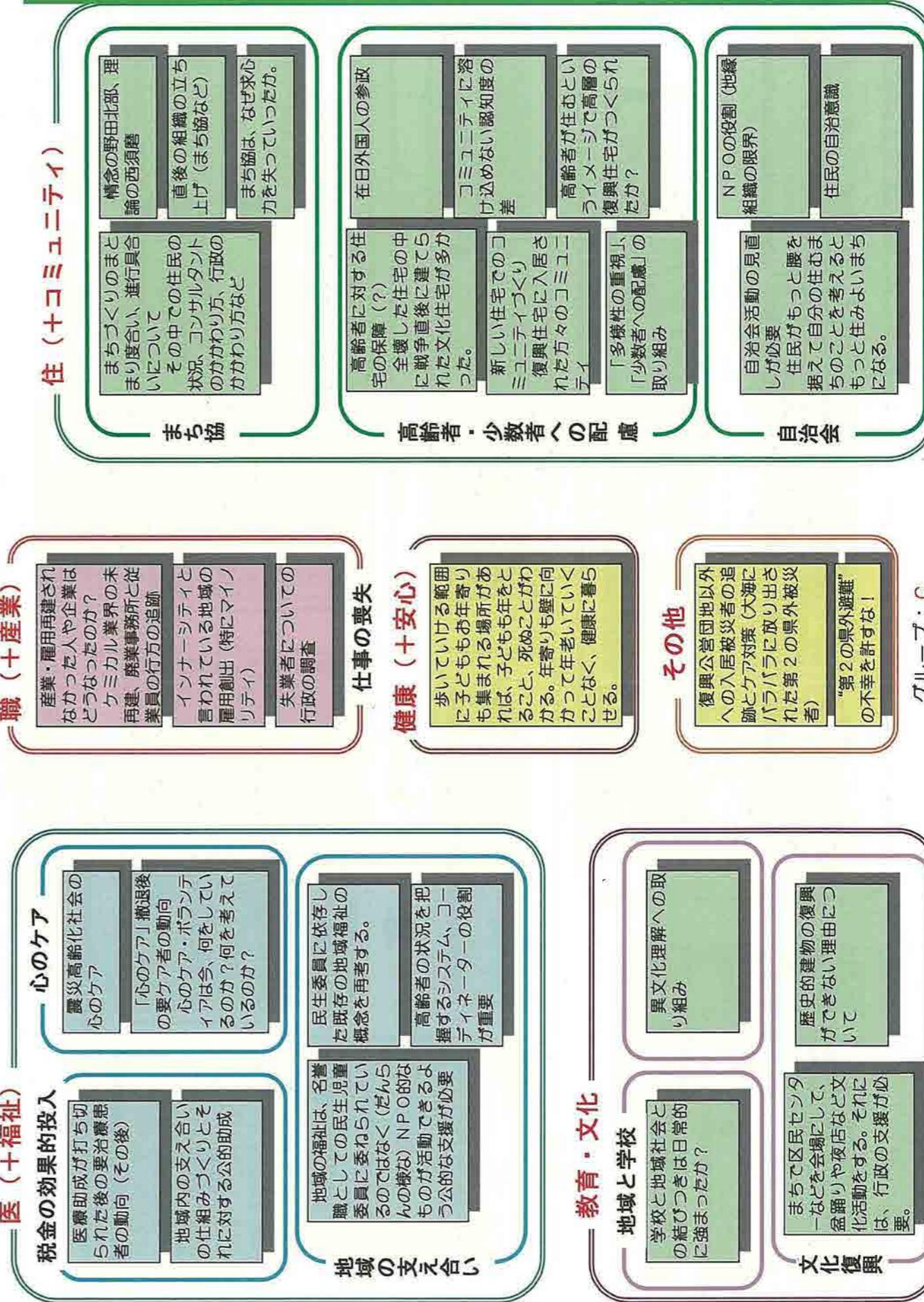
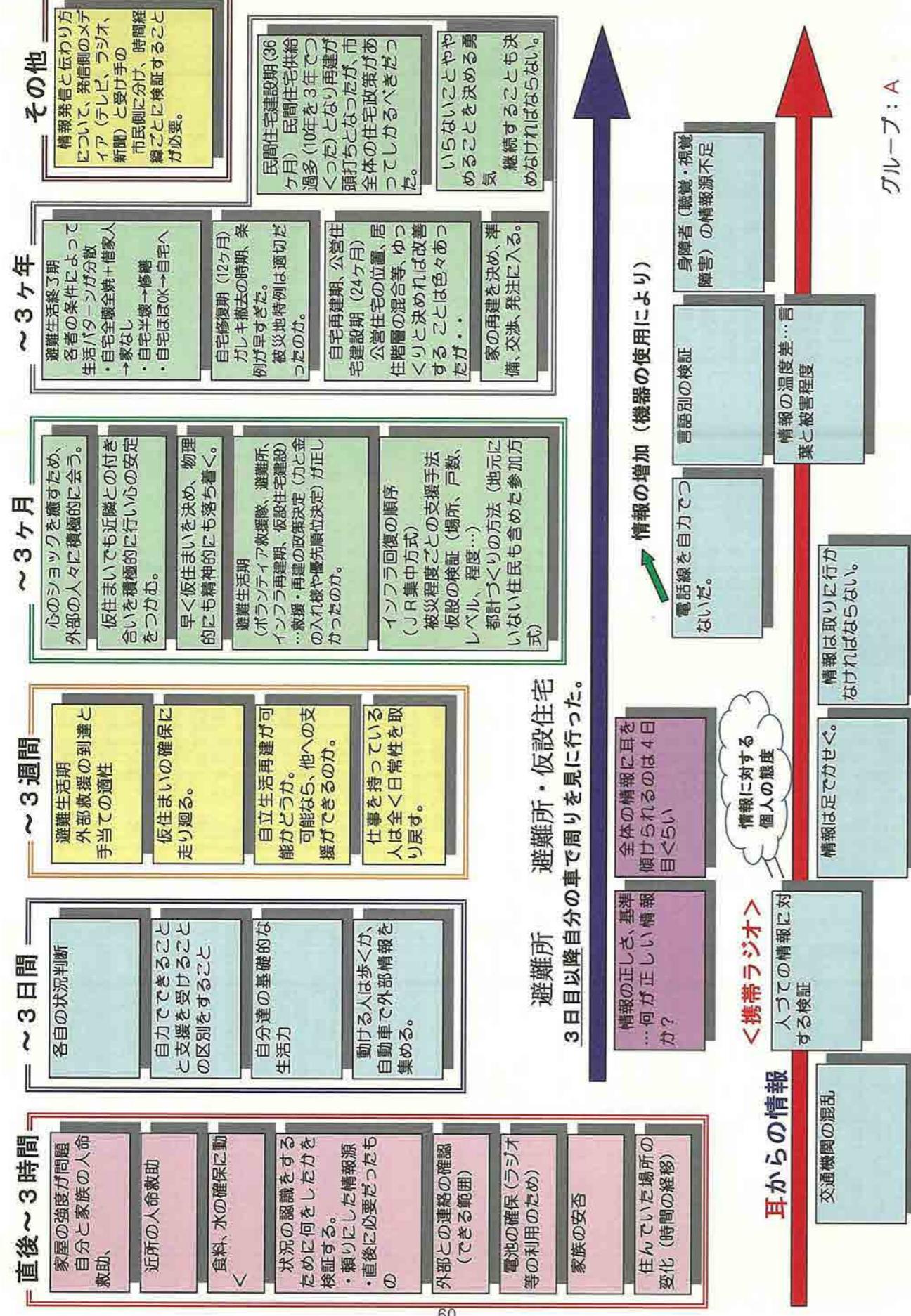
情報がない(被災地の情報がはいらぬ)のニュース。
市から広報は建前(私たちが本当に欲しい情報がない)。
被災者がどこへ行っても公営住宅等に優先的に入れるよくなしくみがあれば。
弱者をすぐ受け入れてくれる施設があれば。
病人を受け入れてくれる病院・被災者優先で全国で住宅を優遇される仕組み。

グループ：4班 メンバー：溝上、有正、山田、藤岡、米川、中村

避難生活を送るために
神戸には帰つて来たいが、和歌山(娘のところ)にいてもよい夫が亡くなつたときに夫の親戚に縁を切られた。その時の思ひが強く、神戸に帰りたい気持ちと和歌山に気持ちとの葛藤。

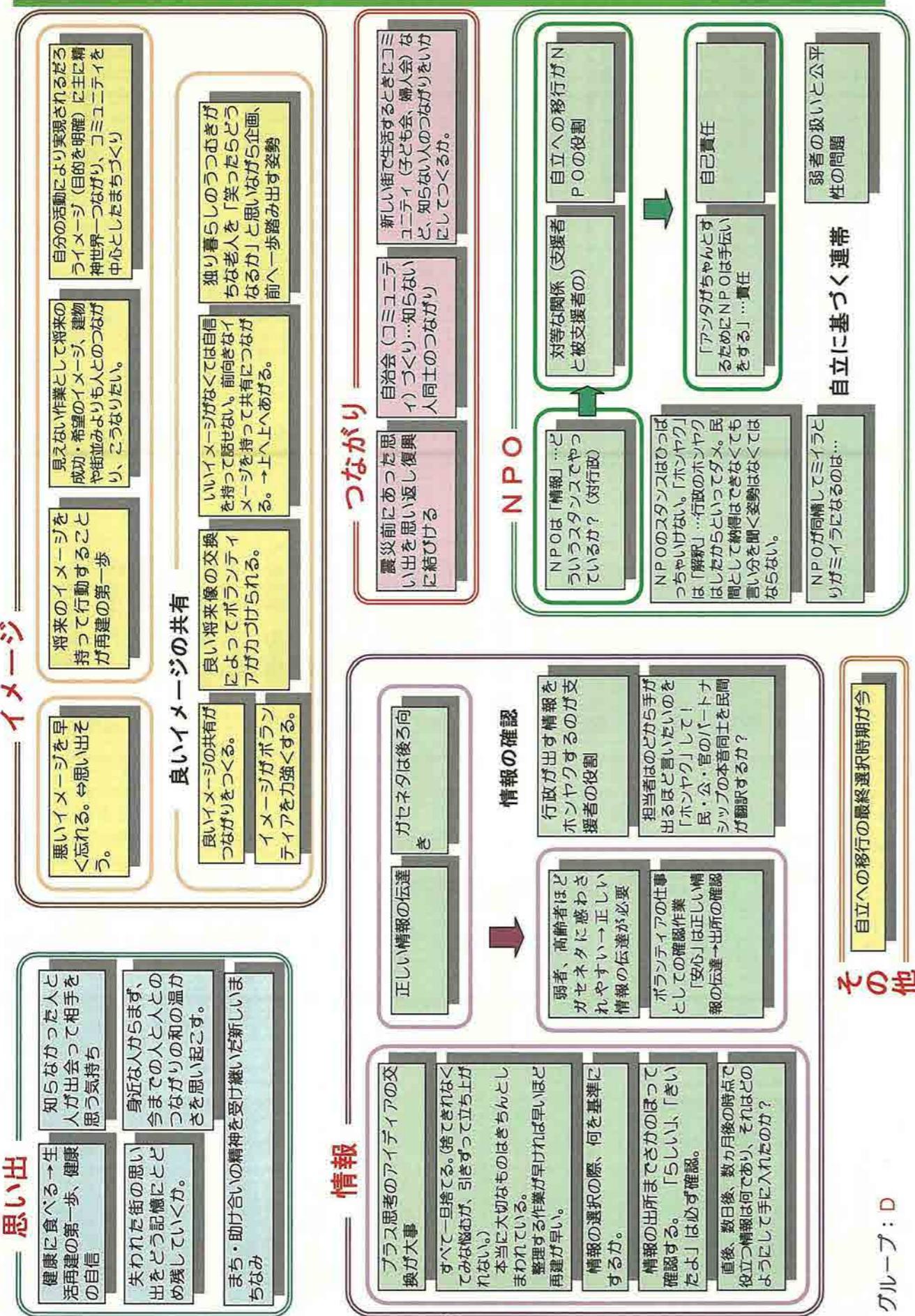
情報がない(被災地の情報がはいらぬ)のニュース。
市から広報は建前(私たちが本当に欲しい情報がない)。
被災者がどこへ行っても公営住宅等に優先的に入れるよくなしくみがあれば。
弱者をすぐ受け入れてくれる施設があれば。
病人を受け入れてくれる病院・被災者優先で全国で住宅を優遇される仕組み。

グループ：5班 メンバー：住田、西田、細川、岡田、大西、米沢、三木



イメージ

思い出



5. 連関図ワークショップ

総括・検証の前半では、市民によるワークショップで「生活再建」とは何かを見つける作業を行い、その結果、生活再建は「すまい」、「つながり」、「まち」、「そなえ」、「こころとからだ」、「くらしむき」、「行政とのかかわり」の7つの項目であることが導き出されました。

この結果から、後半では学識経験者や行政等の専門家によって、「それぞれの項目がどのような因果関係になっているのか」を探る作業として、前半で行った市民によるワークショップで出された意見(1,623枚)を1枚も無駄にすることなく進められるように連関図法を活用しました。

【進め方】

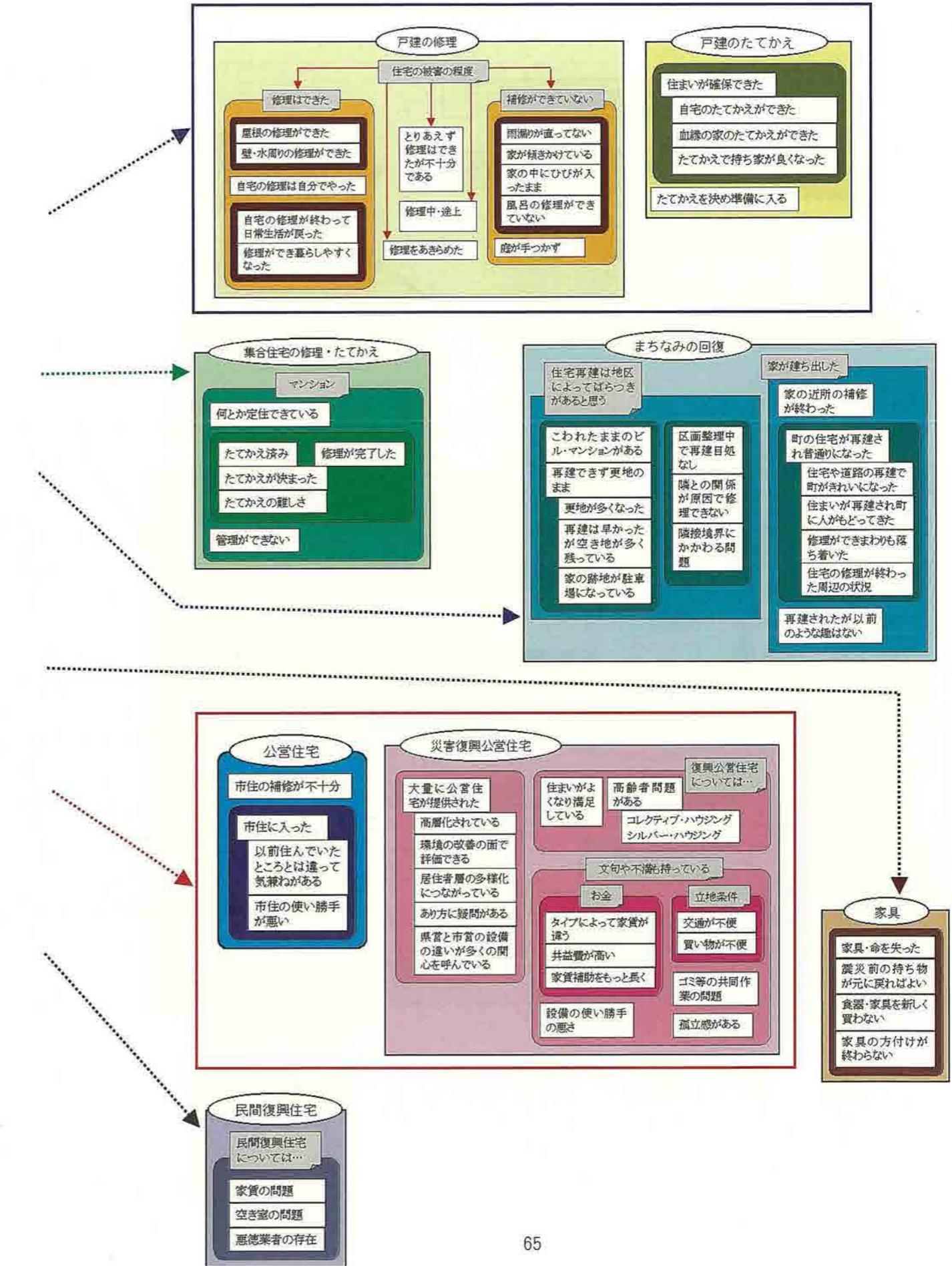
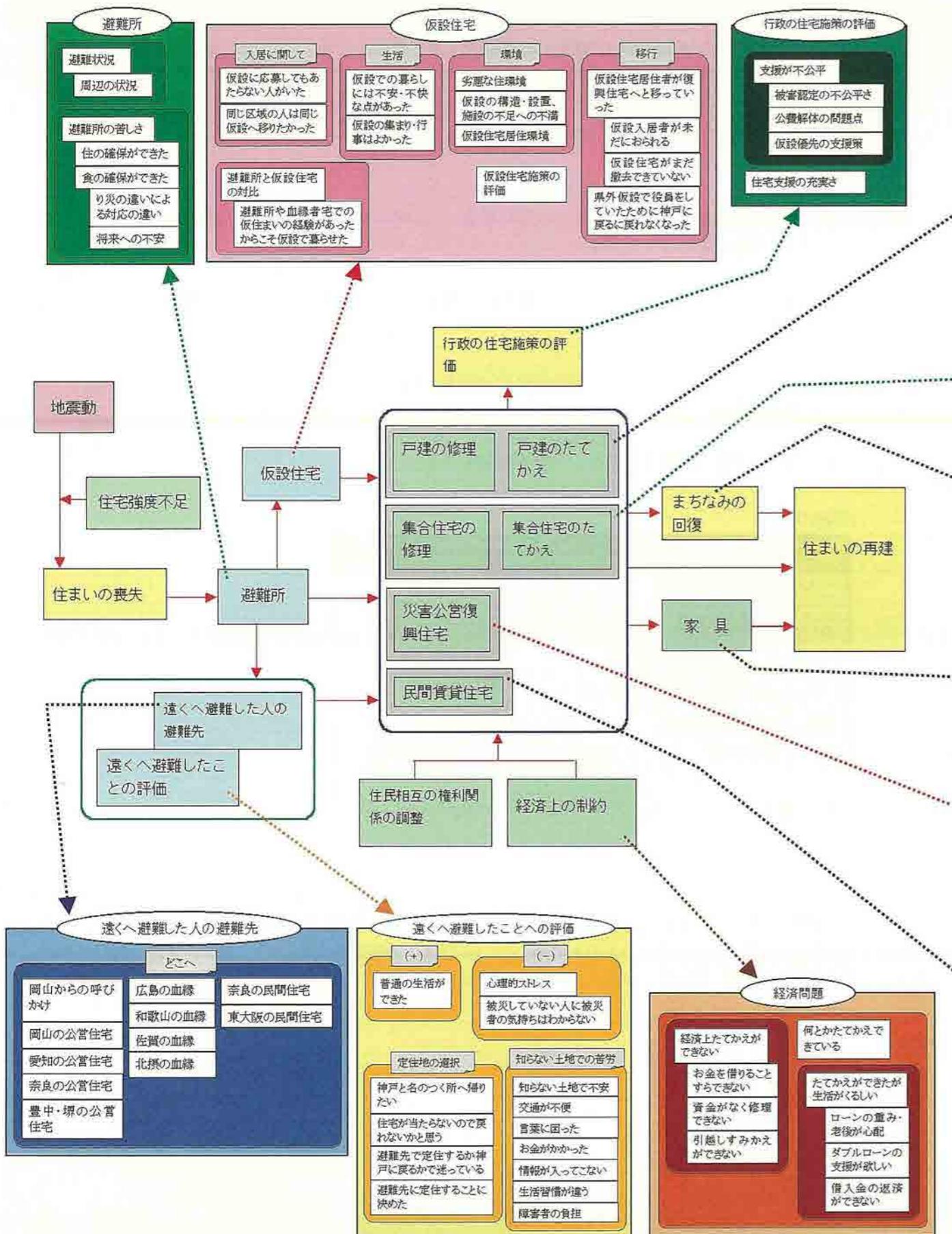
- すべての意見を読み返し、同じような意見について、できるだけ小さなまとまりでグループをつくります。
- 小さなグループに「〇〇が△△した」というように内容がわかるタイトルを付けます。
- 小さなグループで同じようなものについては大きなグループをつくりタイトルをつけます。
- グループ相互の関連を図化して因果関係を導き出します。

【開催実績】

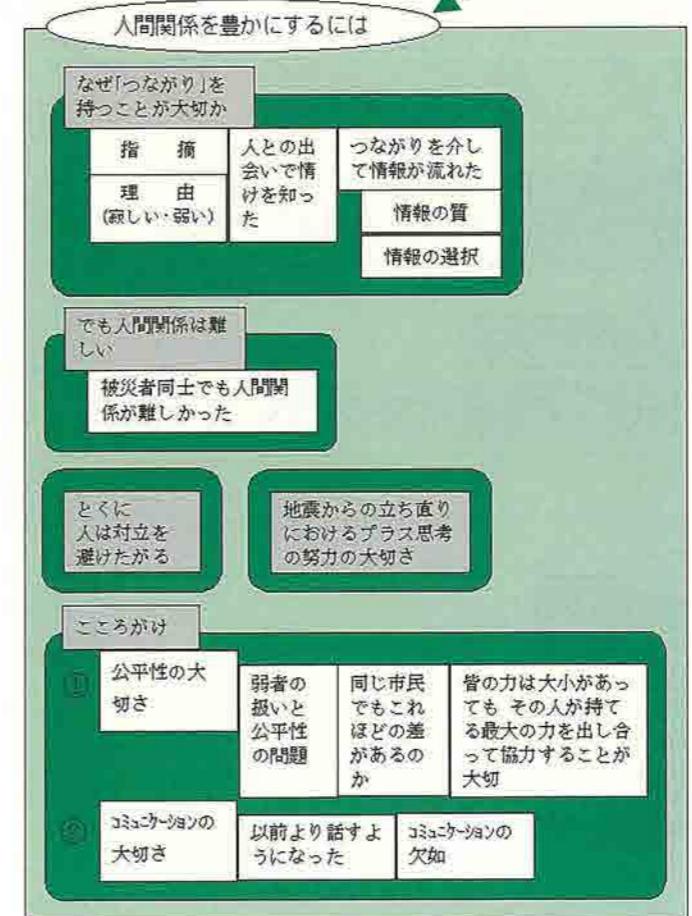
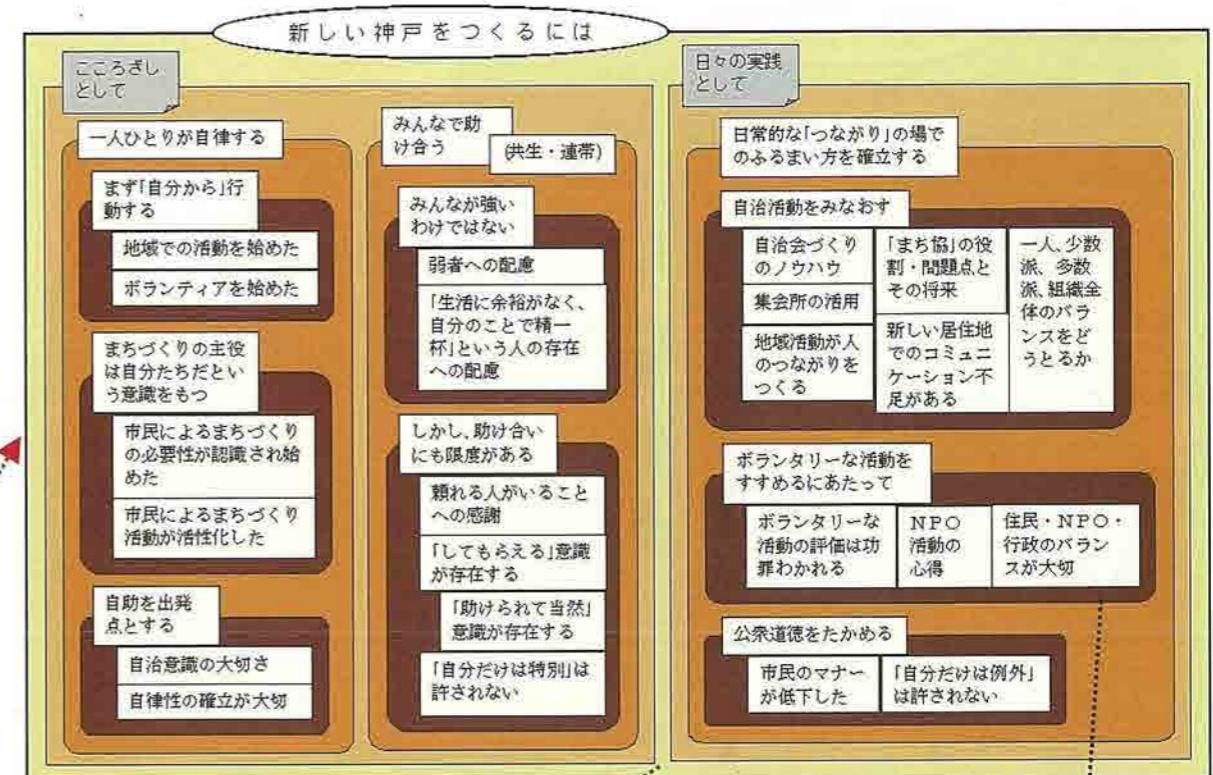
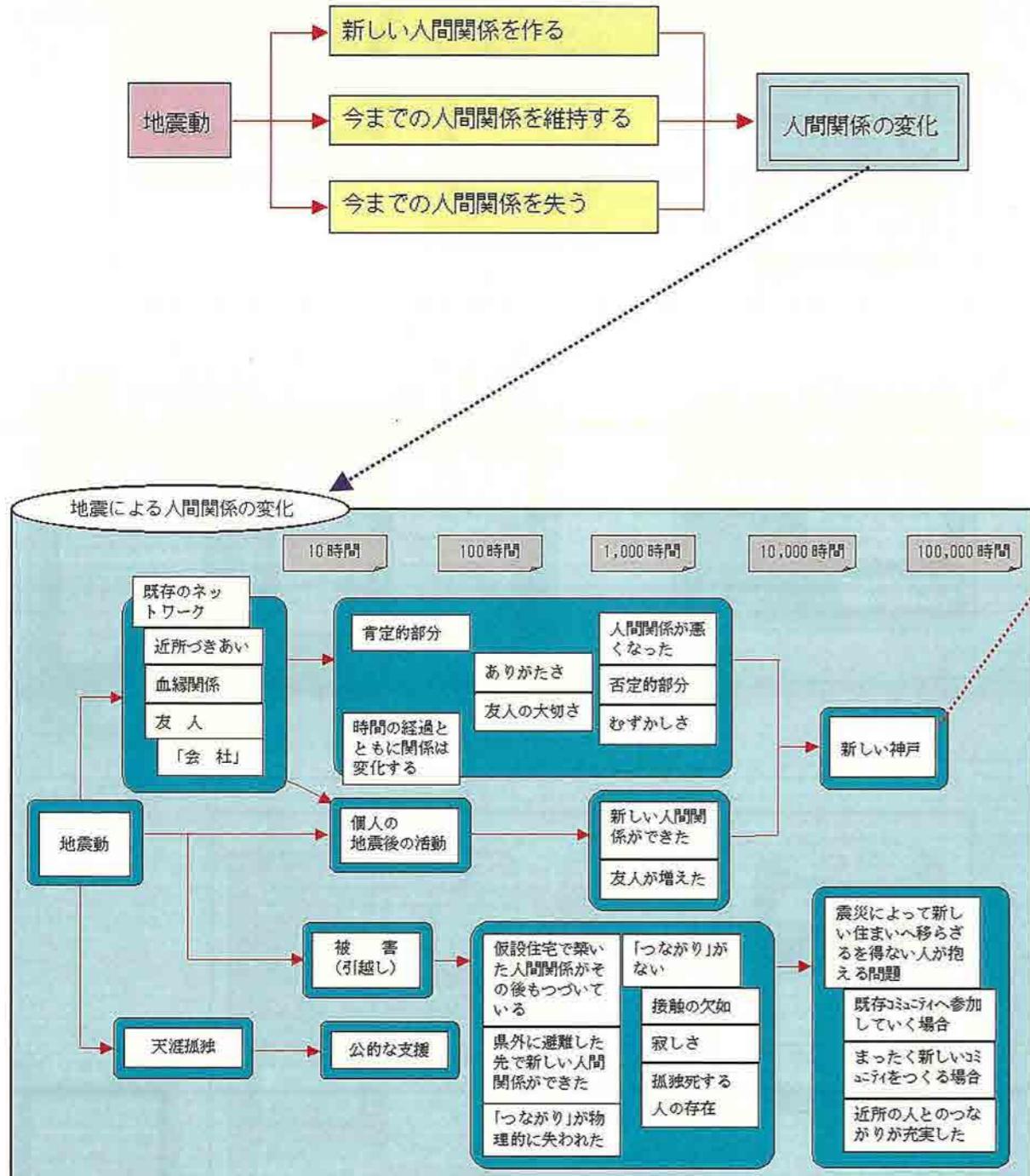
ワークショップ	日
つながり連関図作成	9月30日 (木)
すまい連関図作成	10月21日 (木)
こころとからだ連関図作成	11月9日 (火)
行政とのかかわり連関図作成	11月16日 (火)
つながり連関図作成	11月24日 (水)
まち・そなえ・くらしむき連関図作成	11月26日 (金)
合 計	6セッション

7項目のうち、割合が最も高い「すまい」と生活再建分野独特なものとして「つながり」、「こころとからだ」、「行政とのかかわり」の4項目について詳細な連関図を掲載しています。また、総括・検証の他の分野に関連している「まち」、「そなえ」、「くらしむき」については、全体の連関図のみ掲載しています。

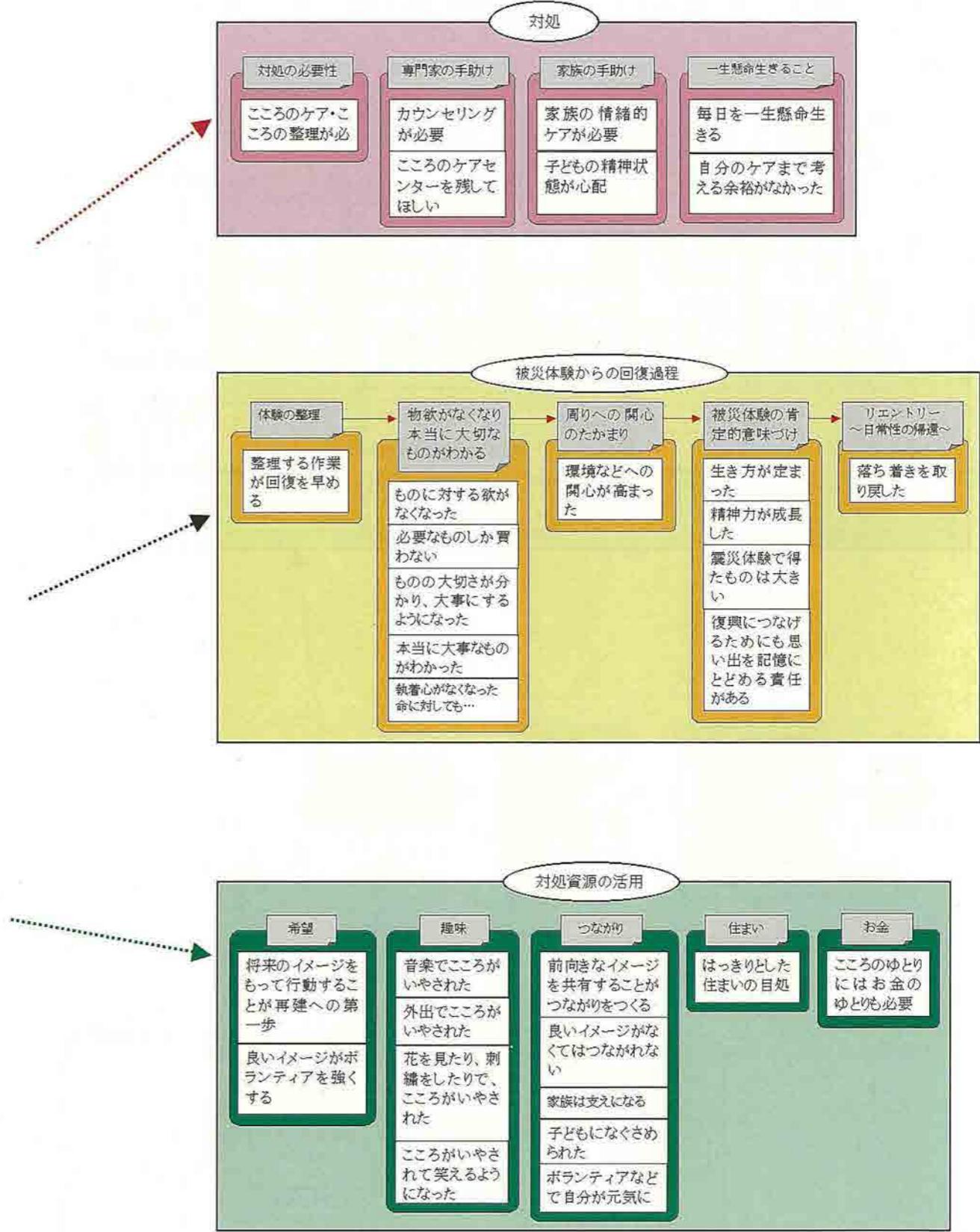
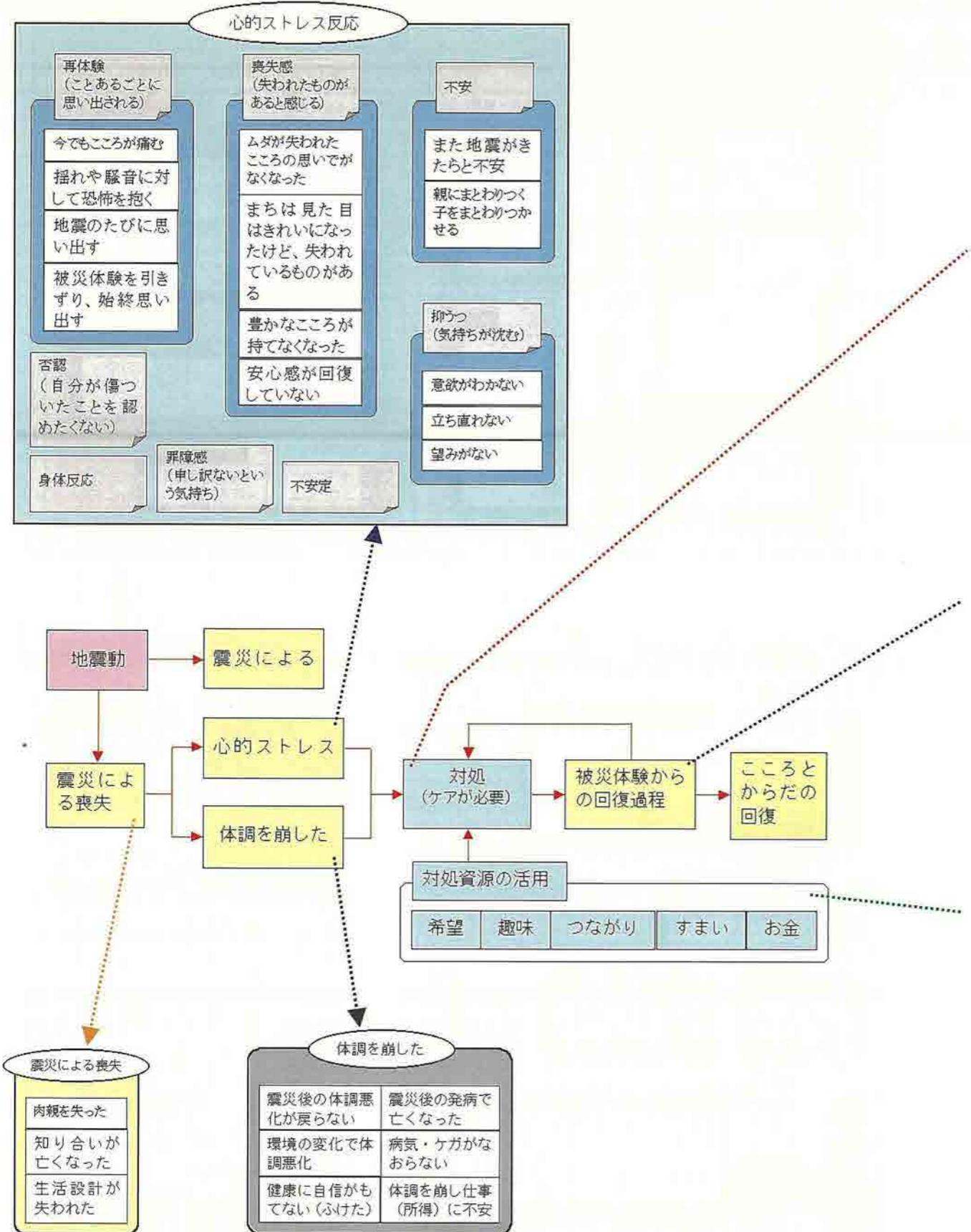
すまい



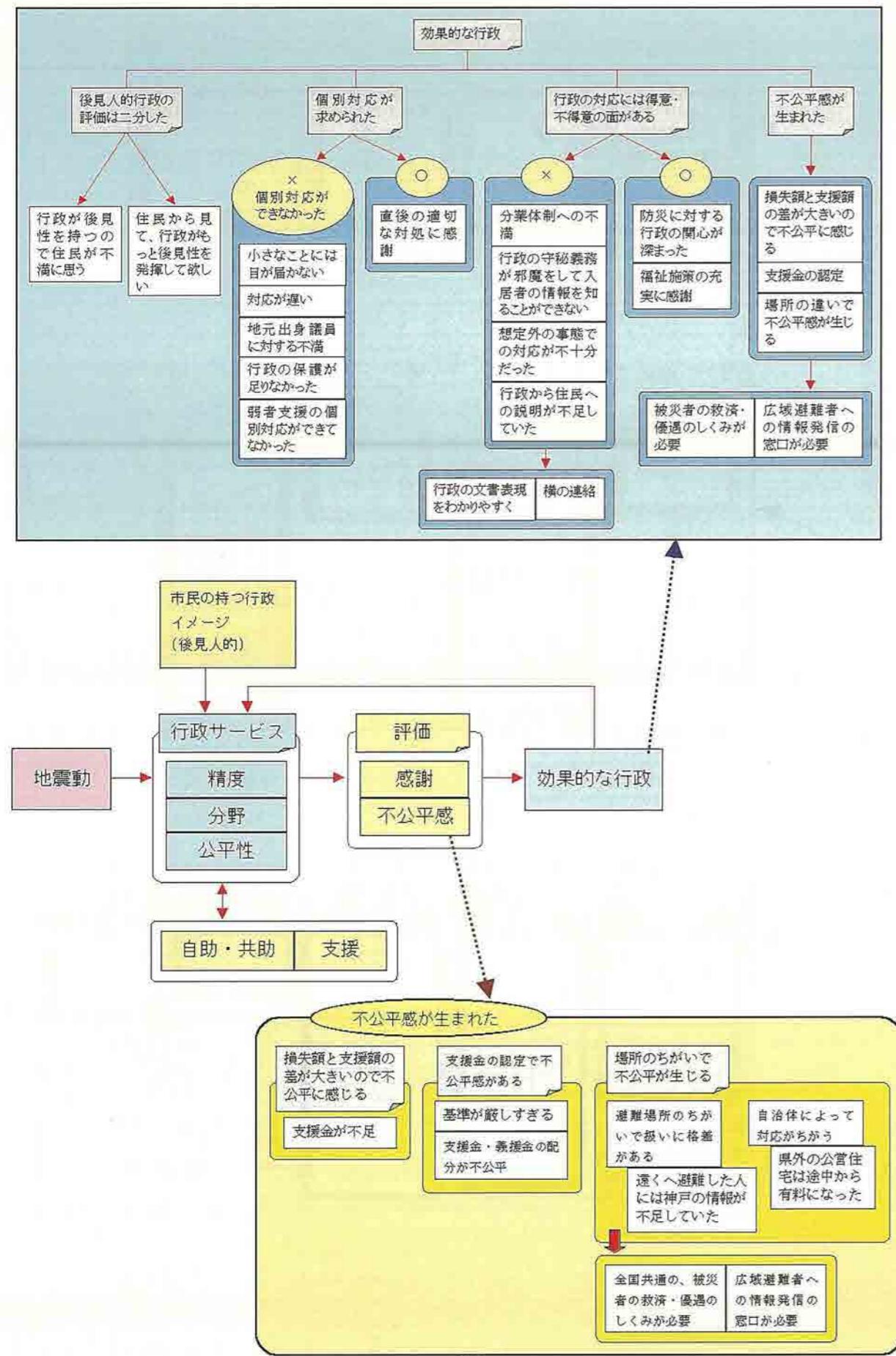
つながり



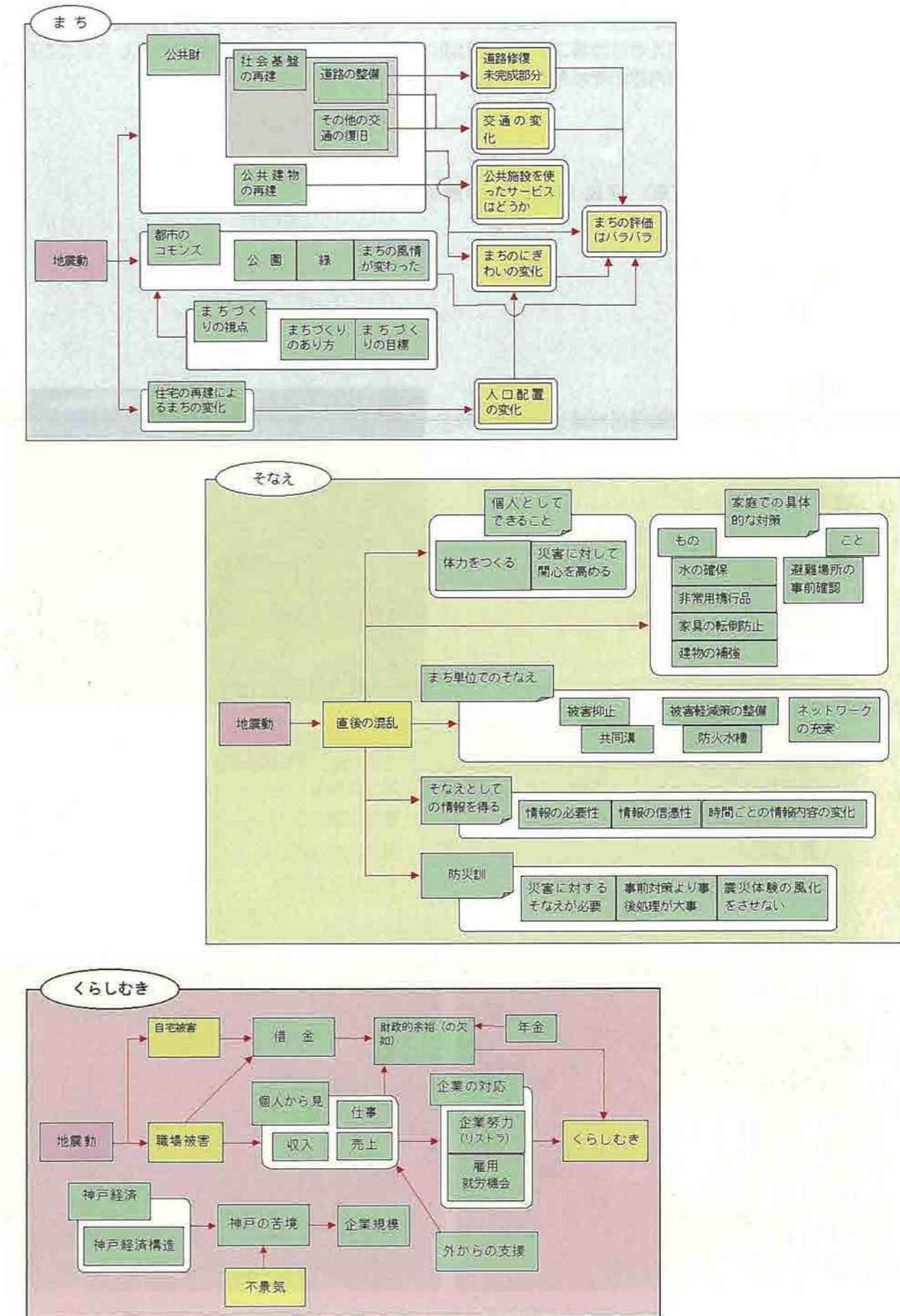
こことからだ



行政とのかかわり



まち・そなえ・くらしむき



6. 元気アップ神戸市民運動ワークショップ

1. 主旨

被災地神戸の心の元気を取り戻し、希望を共有していくための「元気アップ神戸市民運動」を各区の現場で市民と協働で支えた各地域スタッフを対象に、被災者の生活再建に密接に関係してきた市民運動を通して感じた生活再建の実感を整理する。

2. 日時

平成11年11月5日（金）午後1時30分～4時30分

3. 場所

神戸市生活再建本部

4. 参加者

元気アップ神戸市民運動各区地域スタッフ 22名

5. 班分け

東 部…東灘区、灘 区、中央区
中 部…中央区、兵庫区、長田区
西 部…須磨区、垂水区
西北部…北 区、西 区

6. カードの色について

青	黄	ピンク
・得たもの ・良かったこと ・見えたこと など	・今後のこと など	・失ったもの ・悪かったこと ・見えなかつたこと ・不足だつたこと など



元 気 い つ ば い ち ょ つ び り 不 足 も !

その他
会合の参加によつて区行政の全体像が把握できることができた
住宅アドバイザーがそれぞの立場で支援したまでも地域スタッフはやりにくかつた
市行政等に対する反対行動がが多くなつた。相談窓口を設置して未解決事項の整備
元気アップ運動による行政機関との連携を促進することができた
元気アップ各種行事をつづじてつらかつた関係機関との連携が他分野でも活かせた
元気配りのまちを区内の苦手メシハーカーを考えることができた

交 流
東灘プラザで保健医療福祉の課題について集いの場づくりができた
小学校代表(校長・PTA会長)と区役所のハイパーを太くするため教育に関する会話を持つた
小さなコミュニティが生れた
ボランティアの横のつながりが弱い
震災で得たやさしさが今は少し見られない
復興住宅と周辺住民をつなげる取組みが不足
復興住宅自治会が中々結成されず、支援が難しかつた

東部班：(東灘区) 大江、永井、金子 (灘区) 松本、山口

各種行事 楽しく交流ができ元気が出た
都賀川の川開き 夏休みにむけ金魚を放流、老人会や都賀川を守るうつの顔 <small>初めて入居されたお客様に初めて顔なじみができるきっかけになつた</small>
都賀川下流で小学校幼稚園児によるある日の稚魚放流で清流への意識向上
若いい・男性の参加が少ない
事の無関心、特に若者の交流
ほたるの館 都賀側上流で鶴甲小6年の記念として、まだ数は少ない力事がある
都賀川下流で元気アップコーナーを設け、ホットレモジを飲みながら交流
水辺フェスティバル
水辺フェスティバルで元気アップイベントで元気アップコーナーを設け、ホットレモジを飲みながら交流
森の植樹式 都賀川沿い丸山公園等で元気アップイベントとして震災記念として意義がある
男もカタツンにできるいどばな料理教室
男もカタツンにできるいどばな料理教室、復興住宅の方々の間じこもりがなは日々に評判がつたが、区役所の応援もあり難かがつたが毎回リースで準備が大変
元気カムイメント仲良くなつたよ
元気配り作文発表会 区内にむけ金魚を放流、老人会や都賀川を守るうつの顔 <small>初めて入居されたお客様に初めて顔なじみができるきっかけになつた</small>
都賀川下流で小学校幼稚園児によるある日の稚魚放流で清流への意識向上
若いい・男性の参加が少ない
事の無関心、特に若者の交流
ほたるの館 都賀側上流で鶴甲小6年の記念として、まだ数は少ない力事がある
都賀川下流で元気アップコーナーを設け、ホットレモジを飲みながら交流
水辺フェスティバル
水辺フェスティバルで元気アップイベントで元気アップコーナーを設け、ホットレモジを飲みながら交流
森の植樹式 都賀川沿い丸山公園等で元気アップイベントとして意義がある
男もカタツンにできるいどばな料理教室
男もカタツンにできるいどばな料理教室、復興住宅の方々の間じこもりがなは日々に評判がつたが、区役所の応援もあり難かがつたが毎回リースで準備が大変

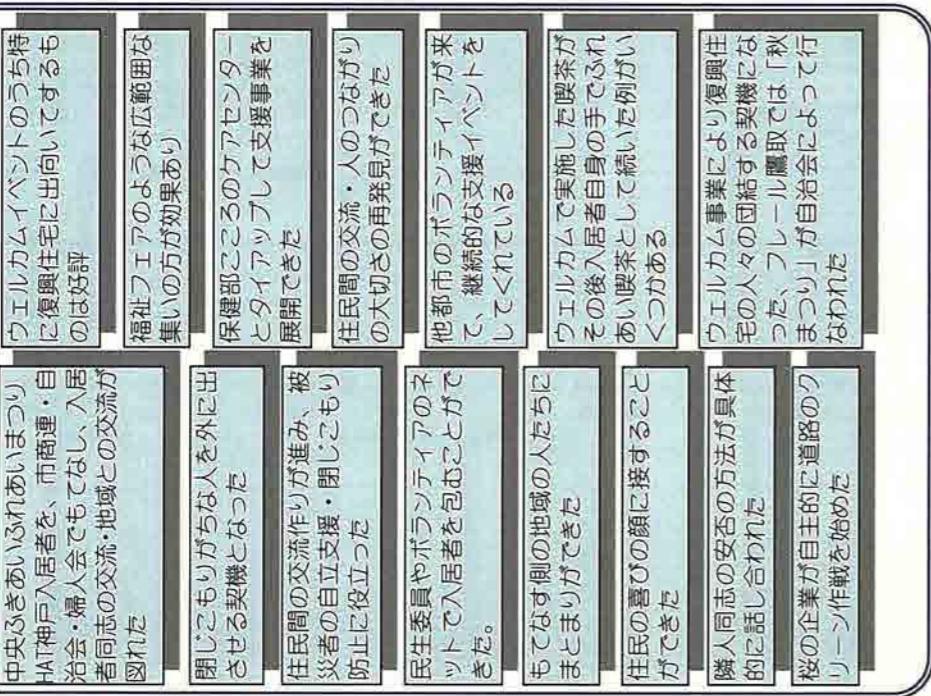
東部班：(東灘区) 大江、永井、金子 (灘区) 松本、山口

ウェルカム活動の成果と復興住宅の今後の課題

よかったです！

しかし

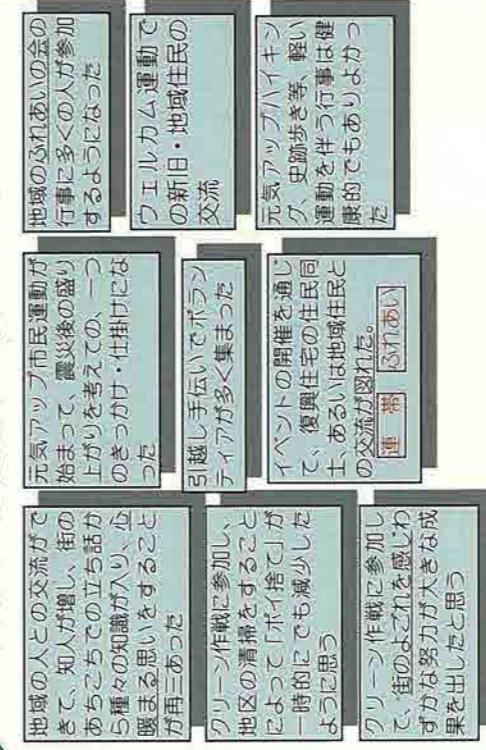
リーダーがない



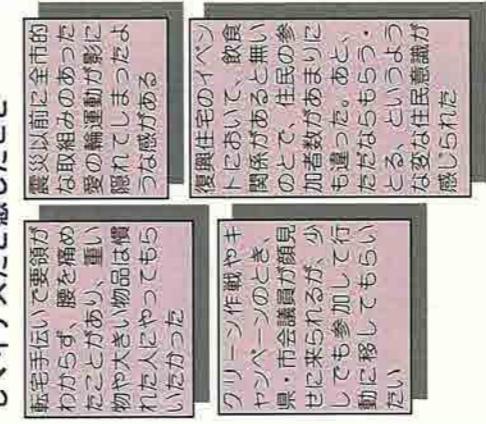
中部班：渡辺、黒瀬、奥山、阪井、三重野、福井(991105)

「元気アップをふりかえって…」

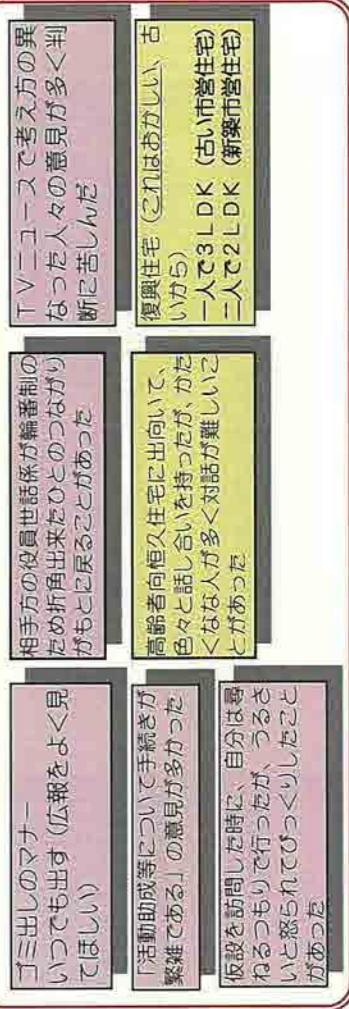
元気アップ運動を行なって良かったこと



元気アップ運動を行なって少しちゃ纳斯だと感じたこと



皆さんのお活動を通じてマイナスを感じたこと
良かっただと感じたこと



世界へ発信するオリジナルKOBEの発芽

とにかく問題の仮設

復興住宅入居者の説明で入る人に残っている人に気力が失せていることが多い	仮設に最後まで残っている人に気力が失せることが多い
復興住宅入居者の誤解がありトラブルになりました	北神の仮設が当初人気薄で島流しのように心外になりました
仮設住宅が不便なところに近隣の住民に不満を抱くあまり訪問者(ボランティア)にも苦言を呈す人が散見されます	仮設住宅では不便を訴えるの生所に戻りたいと申すの良いところを理解され復興住宅ではその近くに入居。現在も交流が続いている
仮設住宅の世話を過ぎ一部の人の反発を招いた	
若い人・女性活躍の場	
復興住宅でのイベント、実際の参加者少なし。見るか食べて楽しむだけの人が大半	イベントで若いスタッフのやる気のある工夫が目についた
12月あらまち協でもちつき大会入居者も分担し合同実施し、交流促進	仮設・復興住宅住民が地域のボランティア団体と知り合いになり交流が始まりました
復興住宅イベントで屋台など有料無料の議論があった	復興住宅等各種会話を中心に震災を機にボランティア活動がやり易くなつた
いろいろなイベントでも通り一遍と分かつていてもそれきこないしたということがあります	盆踊りなど地域の伝統行事への参加者増えた
男の料理教室の開催など地域スタッフからの要請を快く引き受けてくれる人が増えた	婦人層を中心震災を機にボランティア活動がやり易くなつた
複数団体が連携して地域的盛り上がりがあると活動的盛り上がる	地域の自治連合会、ふれまち協の役員だったのボランティアとの接しながらも含め支援活動で得るものがある

76

いろんな組織と人をコネクト 元気77 市民運動と地域ワークの役割

地域スタッフの役割がかなづしまで正確でなかつた	ボランティア活動がスムーズに行なえるようになつた
積極的にするにしても力不足だしどうしても指導待ちになる	地域組織と仲良くなれるには数多く行くことと下精みの仕事を手伝うことだ
自分なりにどう役立つているのかわからぬ	引越し支援ではじめのメンバーに会えてよかったです
市民運動の趣旨の理解を得難かった	引越し支援でいろいろなタイプの人々に会えてよかったです
地域スタッフの活動の目的・具体的な内容について見えた。当初苦労したがスタッフと各区担当課と連携が悪がつたと思う	仮設支援について他の支援団体やボランティアとの関係で地域スタッフはどこで活動すれば良いのか苦労したが回を重ねるうち得たものがあつた
当初の仕事として各地域イベント、行事に参加することが主な目的と考えたがこんなことで元気アップ運動にどう成果があるのが疑問	運動の対象が仮設入居者と復興住宅入居者に偏っているのではないか(見直し必要)
元気アップについて各地域・各種団体の代表者に十分な認識と理解が不足。地域スタッフとして各地域の活動に入り込むのが苦労した	県の施策と競合が多く元気アップの趣旨が薄れたのではないか?

元気アップ活動の過程で自治会長間にこじれを生じ解散してしまった自治会がある	復興住宅に早く結成できた
地域の人たちとの協力のもと西区復興住宅が全て結成された	地域の自治会が結成されただ
復興住宅で人間関係に関するものなど色々なトラブルがあった	復興住宅の自治会を世話する人がない、会費の問題など組織化が難しかつた

西北神

新しいつながりへ向けて…復興住宅	復興住宅に自治会が結成できただ
元気アップ活動の過程で自治会長間にこじれを生じ解散してしまった自治会がある	地域の人たちとの協力のもと西区復興住宅が全て結成された
復興住宅自治会結成の過程で人間関係に関するものなど色々なトラブルがあった	復興住宅の自治会を世話する人がない、会費の問題など組織化が難しかつた

西北神：尾本、山本、竹内、二星、奥、屋久 (991105)